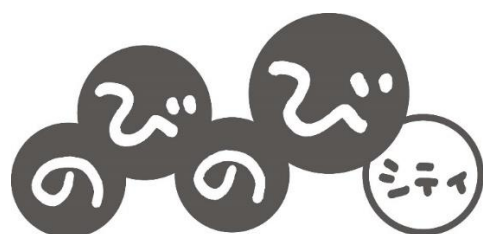


令和6年度
さいたま市転入者・転出者意識調査
報告書



さいたま市

令和6年12月

さいたま市 都市戦略本部 都市経営戦略部

目 次

1 章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 回収結果	1
4. 調査項目	2
5. 調査結果を見る上での注意事項	3
6. 標本誤差	3
7. ウェイトバック集計	4
2 章 転入者調査 調査結果	5
1. 性別／年代	5
2. 職業	6
3. 世帯構成	7
4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢	9
(1) 同居する子どもの有無	9
(2) 同居する子どもの人数	9
(3) 末子の年齢	10
5. 世帯年収	12
6. 通勤・通学場所	13
7. 転入前の住居所有形態／転入後の住居所有形態	15
8. 転入前の居住地	17
(1) 転入前の居住地（都道府県）	17
(2) 転入前の居住地（市区町村）	19
9. 転入前の最寄り駅	20
10. 現在の居住区	21
11. 現在の最寄り駅	24
12. 転入のきっかけ	25
13. さいたま市を選んだ理由	28
14. さいたま市を選んだ具体的な理由	32
15. 新住居を探すとき、さいたま市以外の地域の探索状況	33
16. 探索した都道府県／自治体名／最寄り駅	34
17. 転入に関する情報源	35
18. さいたま市の居住予定年数	38
19. 実際に住んでみて良かった点／悪かった点	40
(1) さいたま市に住んで良かった点	41
(2) さいたま市に住んで悪かった点	43
(3) 良かった点／悪かった点 居住予定年数別 結果	45
20. 実際に住んでみて具体的に良かった点	46
21. 実際に住んでみて具体的に悪かった点	47

3章 転出者調査 調査結果	48
1. 性別／年代	48
2. 職業	49
3. 世帯構成	50
4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢	52
(1) 同居する子どもの有無	52
(2) 同居する子どもの人数	52
(3) 末子の年齢	53
5. 世帯年収	55
6. 通勤・通学場所	57
7. 転出前の住居所有形態／転出後の住居所有形態	59
8. 転出先の居住地	61
(1) 転出先の居住地（都道府県）	61
(2) 転出後の居住地（市区町村）	64
9. 転出先の最寄り駅	65
10. 転出前の居住区	65
11. 転出前の最寄り駅	68
12. さいたま市の継続居住年数	69
13. 転出のきっかけ	71
14. 転出先の自治体を選んだ理由	74
15. 転出先の自治体を選んだ具体的な理由	77
16. 転出に関する情報源	78
17. 転出先に実際に住んでみて、さいたま市と比較して良かった点	81
18. さいたま市の満足していた点／不満足だった点	82
(1) さいたま市の満足していた点	83
(2) さいたま市の不満足だった点	85
(3) 満足していた点／不満足だった点 再転入意向有無別 結果	87
19. さいたま市に満足していた具体的な点	88
20. さいたま市に不満足だった具体的な点	89
21. さいたま市への再転入意向	90
22. 再転入意向の具体的な理由	92
4章 転入者・転出者比較／転入者過去調査比較	93
1. 性別／年代	93
(1) 性別	93
(2) 年代	93
2. 職業	94
3. 世帯構成	95
4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢	95
(1) 子どもの有無	95
(2) 子どもの人数	96
(3) 末子の年齢	96
5. 世帯年収	96
6. 通勤・通学場所	97

7. 転居前の住居所有形態／転居後の住居所有形態	98
8. さいたま市外の居住地	99
(1) エリア	99
(2) 埼玉県	100
(3) 東京都	101
(4) 千葉県	102
(5) 神奈川県	102
9. さいたま市外の最寄り駅	103
10. さいたま市の居住区	104
11. 転入転出のきっかけ	105
12. さいたま市／転出先の自治体を選んだ理由	106
13. 新住居を探すとき、さいたま市以外の地域の探索状況	107
14. 転入転出に関する情報源	107
5章 調査結果のまとめ	108
1. ライフイベント毎の転入転出動態	108
2. 区毎の特徴	109
3. 前回調査から見た転入者の意識の変化	109
4. 転入者と転出者の意識の比較	110
5. さいたま市の強みと弱みについて	110
6. 将来にわたって活力ある都市の実現に向けて	110

1章 調査の概要

1. 調査の目的

市外から本市に転入した方と、本市から市外へ転出した方を対象としたアンケート調査を実施し、転入・転出理由等を分析し、本市の将来的な人口減少を見据えた今後のシティセールス施策等の基礎資料とする。

2. 調査の方法

(ア) 転入者調査

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 調査対象 | 令和5年1月から令和5年12月までの市外からの転入者で20歳～49歳の男女 |
| (2) 標本数 | 3,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送により協力依頼状を送付し、インターネット回答により回収 |
| (5) 調査期間 | 令和6年8月2日から令和6年8月22日まで(21日間) |

(イ) 転出者調査

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| (1) 調査対象 | 令和5年1月から令和5年12月までの市外への転出者で20歳～49歳の男女 |
| (2) 標本数 | 4,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送により協力依頼状を送付し、インターネット回答により回収 |
| (5) 調査期間 | 令和6年8月2日から令和6年8月22日まで(21日間) |

3. 回収結果

(ア) 転入者調査

- | | |
|---------|--------|
| 発 送 数 : | 3,000通 |
| 有効発送数 : | 2,972通 |
| 有効回収数 : | 707件 |
| 回 収 率 : | 23.8% |

(イ) 転出者調査

- | | |
|---------|--------|
| 発 送 数 : | 4,000通 |
| 有効発送数 : | 3,811通 |
| 有効回収数 : | 855件 |
| 回 収 率 : | 22.4% |

4. 調査項目

(ア) 転入者調査

- (1) 性別／年代
- (2) 職業
- (3) 世帯構成
- (4) 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢
- (5) 世帯年収
- (6) 通勤・通学場所
- (7) 転入前の住居所有形態／転入後の住居所有形態
- (8) 転入前の居住地
- (9) 転入前の最寄り駅
- (10) 現在の居住区
- (11) 現在の最寄り駅
- (12) 転入のきっかけ
- (13) さいたま市を選んだ理由
- (14) さいたま市を選んだ具体的な理由
- (15) 新住居を探すとき、さいたま市以外の地域の探索状況
- (16) 探索した都道府県／自治体名／最寄り駅
- (17) 転入に関する情報源
- (18) さいたま市の継続居住年数意向
- (19) 実際に住んでみて良かった点／悪かった点
- (20) 実際に住んでみて具体的に良かった点
- (21) 実際に住んでみて具体的に悪かった点

(イ) 転出者調査

- (1) 性別／年代
- (2) 職業
- (3) 世帯構成
- (4) 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢
- (5) 世帯年収
- (6) 通勤・通学場所
- (7) 転出前の住居所有形態／転出後の住居所有形態
- (8) 転出先の居住地
- (9) 転出先の最寄り駅
- (10) 転出前の居住区
- (11) 転出前の最寄り駅
- (12) さいたま市の居住継続年数
- (13) 転出のきっかけ
- (14) 転出先の自治体を選んだ理由
- (15) 転出先の自治体を選んだ具体的な理由
- (16) 転出に関する情報源
- (17) 転出先に実際に住んでみて、さいたま市と比較して良かった点

- (18) さいたま市に満足していた点／不満足だった点
- (19) さいたま市に満足していた具体的な点
- (20) さいたま市に不満足だった具体的な点
- (21) さいたま市への再転入意向
- (22) 再転入意向の具体的な理由

5. 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (6) 前回調査との比較については、選択肢が一致するものに限り実施している。（4章参照）

6. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

{

N=母集団数

n=比率算出の基数（回答者数）

p=回答の比率（%）

今回の調査結果の標本誤差は下記ようになる。

回答比率(p) 基数 (n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
900	±2.80%	±3.73%	±4.27%	±4.57%	±4.66%
700	±3.19%	±4.25%	±4.87%	±5.21%	±5.32%
500	±3.78%	±5.04%	±5.77%	±6.17%	±6.30%
300	±4.89%	±6.52%	±7.47%	±7.98%	±8.15%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注／この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が700人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±5.21%以内（54.79～65.21%）である」とみることができる。

7. ウェイトバック集計

単純集計及びクロス集計を行うにあたり、得られた回答と令和5年の転入出者数のうち、男女における実績値を用いてウェイトバック補正を行う。なお、補正の対象は「答えたくない」を除外した回答数とする。以下に補正の考え方を示す。

STEP 1

得られた転入者、転出者の性別におけるサンプル数がさいたま市全体に占める割合を算出する。

図表 - 1-1 アンケート調査による男女別回答数及び回答割合

	回答数		回答割合	
	転入者	転出者	転入者	転出者
男性	276	369	39.4%	43.8%
女性	424	474	60.6%	56.2%
計	700	843	100.0%	100.0%

※「答えたくない」の回答者（転入者：7件、転出者：12件）は除外

STEP 2

市が住民基本台帳から抽出した調査対象者の母集団における男女別の割合を算出する。

図表 - 1-2 男女別転入出者数実績及び割合

	調査対象者数		調査対象者の割合	
	転入者	転出者	転入者	転出者
男性	18,717	19,207	52.7%	54.3%
女性	16,830	16,189	47.3%	45.7%
計	35,547	35,396	100.0%	100.0%

STEP 3

調査対象者の割合と回答割合から補正率を求め、男女における回答数の補正を行う。補正後、「答えたくない」を追加した回答割合を算出する。

図表 - 1-3 男女別転入出別補正率及び補正結果

	補正率 (転入出割合÷回答割合)		(補正後) 回答数 (補正率×回答数)		(補正後) 回答割合	
	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者
男性	1.336	1.239	369	457	52.2%	53.5%
女性	0.781	0.814	331	386	46.8%	45.1%
答えたくない	－	－	7	12	1.0%	1.4%
計	－	－	707	855	100.0%	100.0%

なお、以降の分析においてはウェイトバック補正を行った結果について集計分析を行う。

2章 転入者調査 調査結果

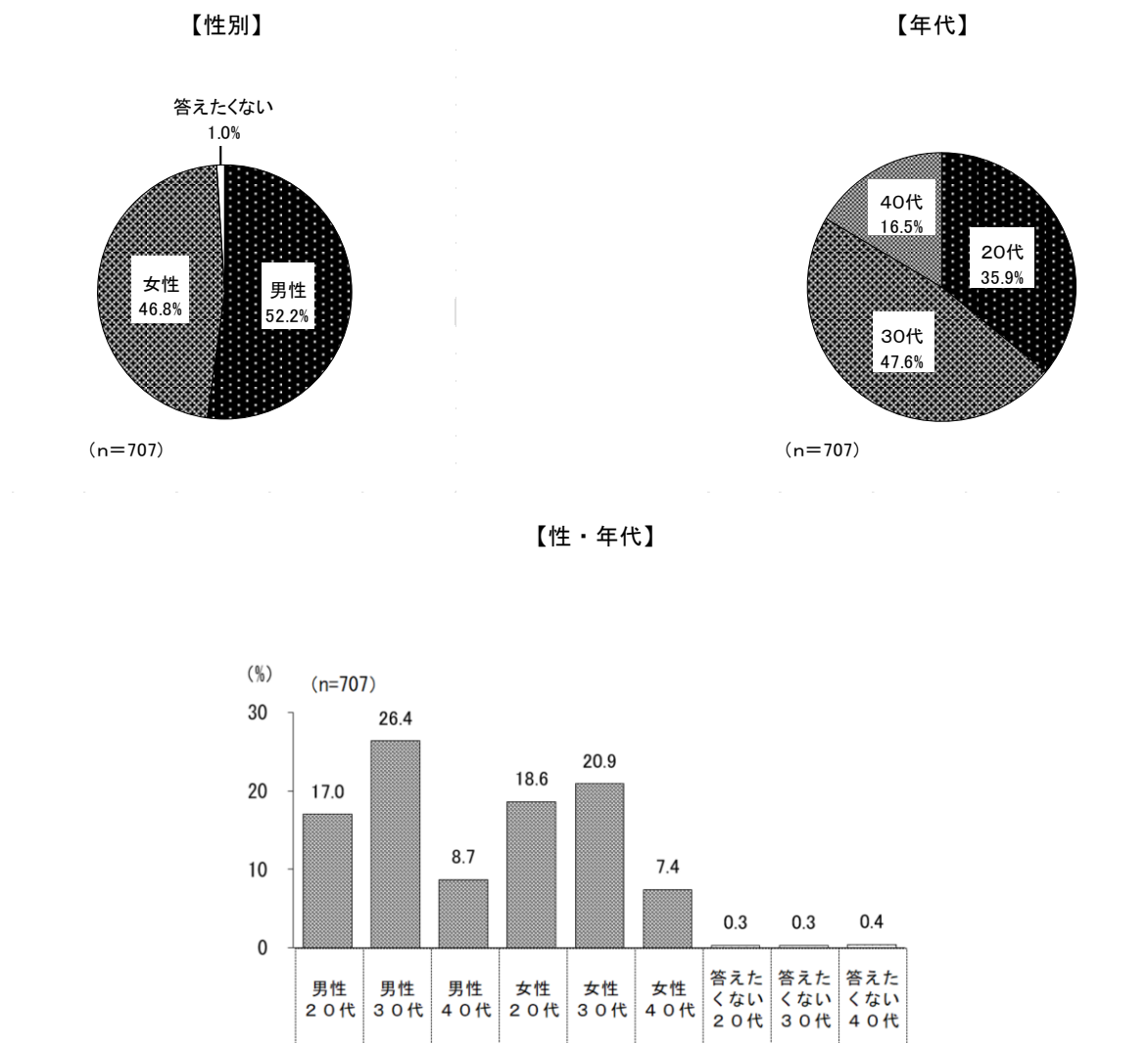
1. 性別／年代

問1. (1) あなたの性別と年代をお答えください。

転入者の性別は、「男性」が52.2%と最も高く、次いで「女性」(46.8%)、「答えたくない」(1.0%)が続く。

転入者の年代は、「30代」が47.6%と最も高く、次いで「20代」(35.9%)、「40代」(16.5%)が続く。なお、抽出時点での年齢に基づいているため、回答時点で50歳以上となった回答者は「40代」として集計を実施している。

図表 - 2-1 性別、年代（全体）

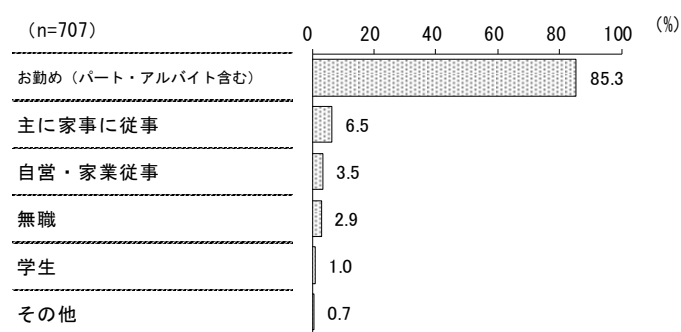


2. 職業

問1. (2) 現在のあなたの職業は次のうちどれに当てはまりますか。

転入者の職業は、「お勤め（パート・アルバイト含む）」が85.3%と最も高く、次いで「主に家事に従事」（6.5%）、「自営・家業従事」（3.5%）が続く。

図表 - 2-2 現職業（全体）



3. 世帯構成

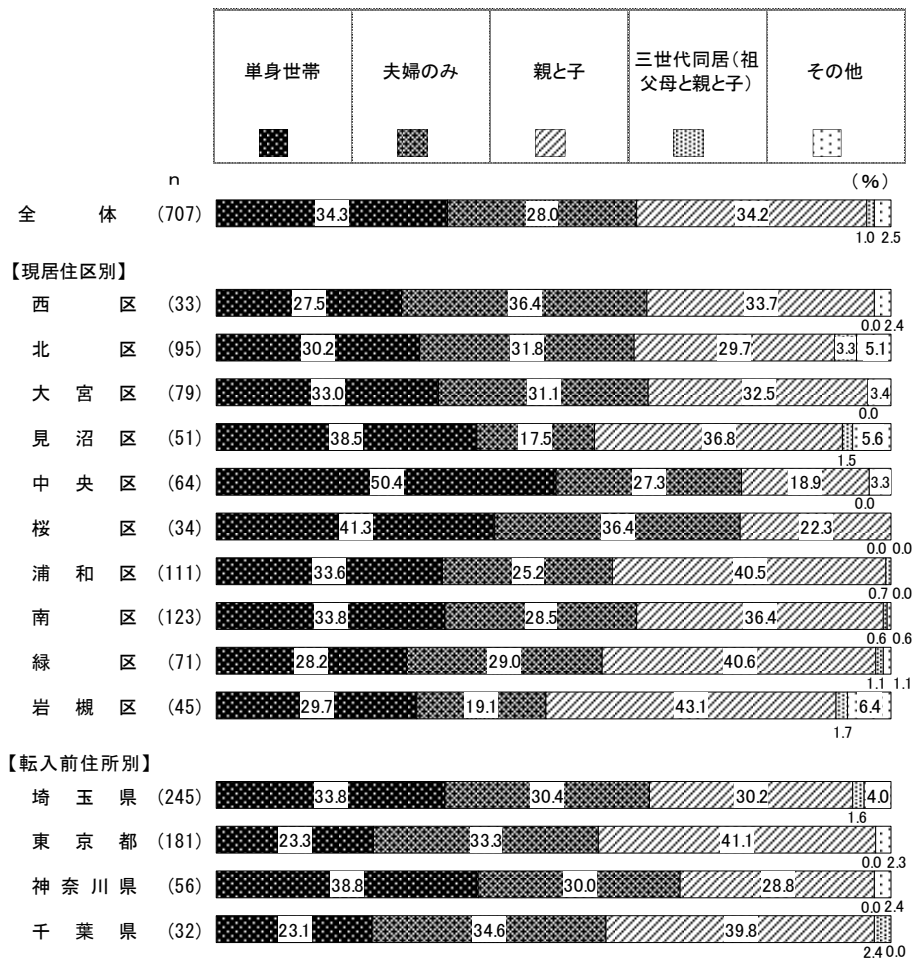
問1. (3) 現在の世帯構成は次のうちどれに当てはまりますか。

転入者の世帯構成は、「単身世帯」が34.3%を占め、「親と子」(34.2%)、「夫婦のみ」(28.0%)と続く。その他回答では、「同棲」「四世代同居」「下宿」等が挙げられた。

現居住区別で見ると、『中央区』において「単身世帯」が過半数を占め、全体と比較して「親と子」の割合が低く、2割を下回る。一方で、『岩槻区』においては、全体と比較して「親と子」の割合が高く、4割強を占める。

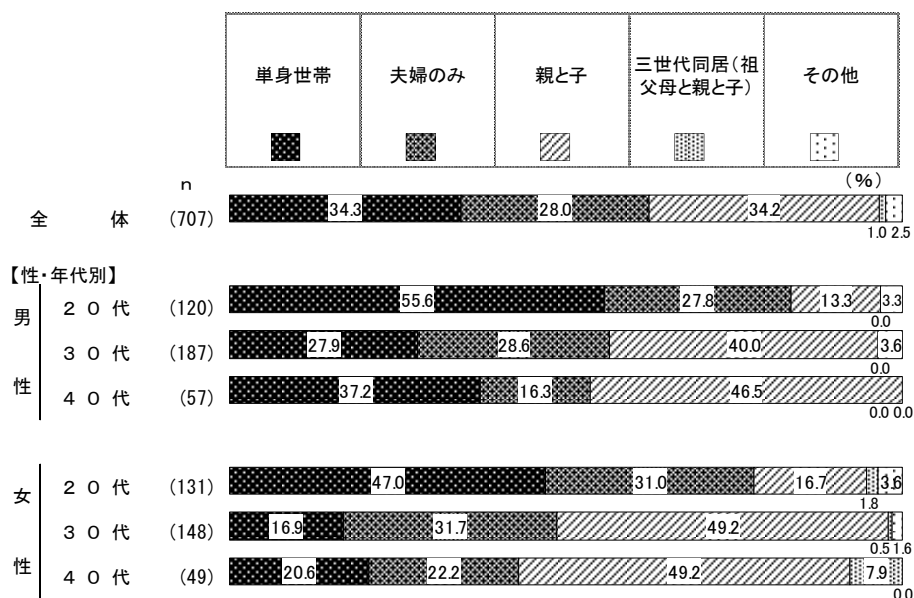
転入前住所別に見ると、『東京都』や『千葉県』からの転入者は、「親と子」の割合が4割前後を占める。

図表 - 2-3 世帯構成（現居住区／転入前住所別）



性・年代別で見ると、『20代男性』『20代女性』において「単身世帯」が半数程度を占める。一方で、『30代女性』『40代女性』における「親と子」の割合が半数程度と高い。

図表 - 2-4 世帯構成（性・年代別）



4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢

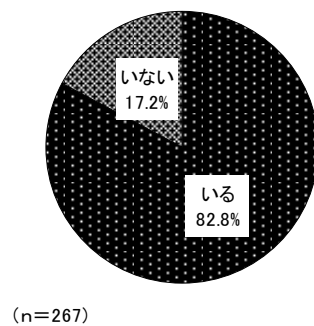
- 問1. (4-1) 同居するお子さん(0歳から学生まで)はいらっしゃいますか。
 (4-2) お子さん(0歳から学生まで)の人数は次のうちどれに当てはまりますか。
 (4-3) 年齢が一番下のお子さんは、次のうちどれに当てはまりますか。

(1) 同居する子どもの有無

転入者と同居する子どもは、「いる」が82.8%、「いない」が17.2%を占める。

なお、本設問は問1.(3) 世帯構成(p.7)において「単身世帯」及び「夫婦のみ」と回答した方以外を対象としている。

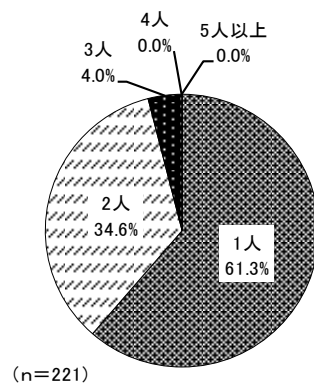
図表 - 2-5 同居する子どもの有無(全体)



(2) 同居する子どもの人数

転入者と同居する子どもは、「1人」が61.3%、「2人」が34.6%を占めており、「3人」の回答も4%ある。「4人」「5人以上」の回答はなかった。

図表 - 2-6 同居する子どもの人数(子どものいる世帯)

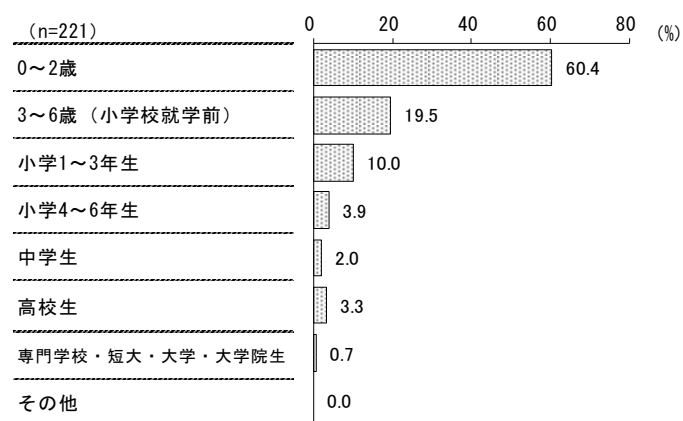


(3) 末子の年齢

転入者と同居する子どものうち、末子の年齢は、「0～2歳」が60.4%、「3～6歳」が19.5%を占める。

子どもを持つ世帯のさいたま市への転入は、子どもの人数が少なく、小学校就学前の子どもが小さい時期に多いことが分かる。

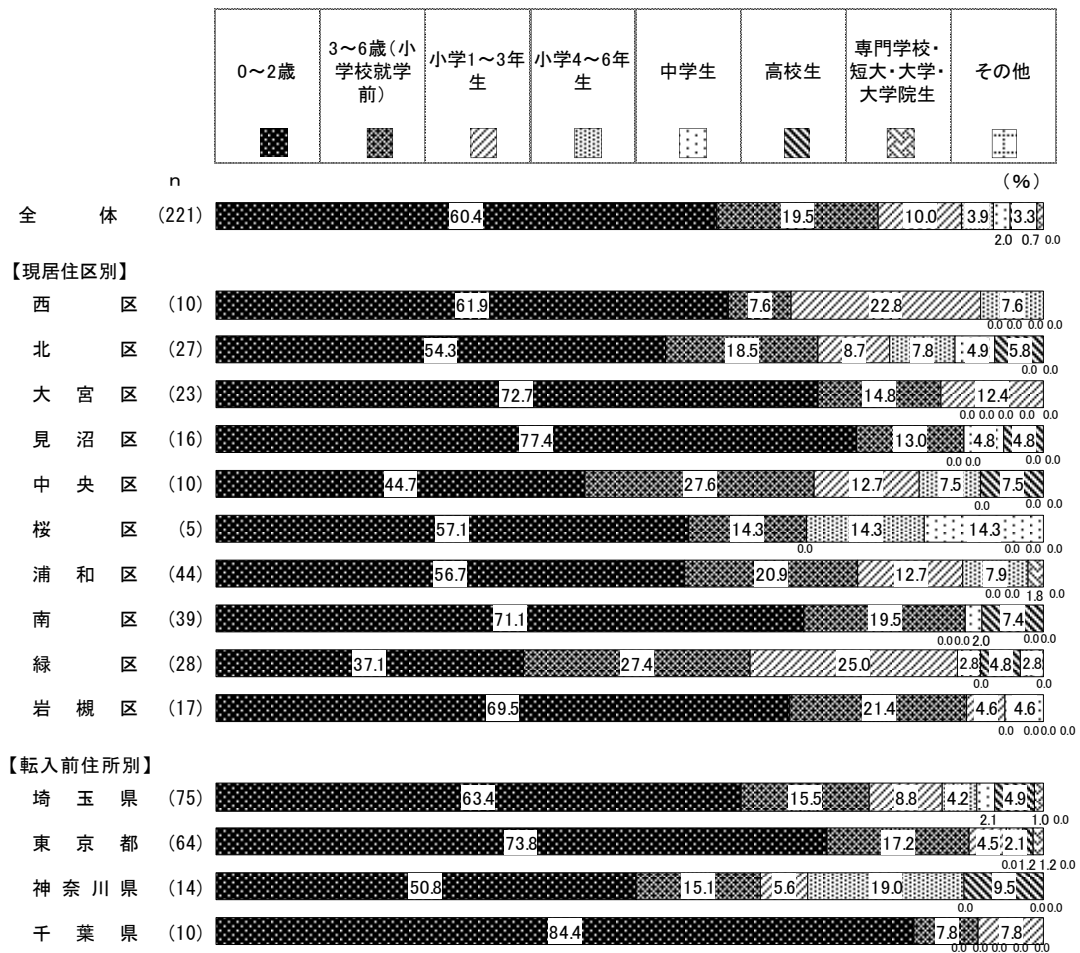
図表 - 2-7 末子の年齢（子どものいる世帯）



現居住区別で見ると、「0～2歳」の割合が、『見沼区』（77.4%）、『大宮区』（72.7%）、『南区』（71.1%）でそれぞれ7割を超える。一方で、『中央区』や『緑区』においては、3歳以上の子どもを持つ世帯での転入が半数を超え多い。

転入前の住所別で見ると、「0～2歳」の割合が、『千葉県』からの転入は84.4%、『東京都』からの転入者は73.8%、『埼玉県』からの転入者は63.4%を占める。

図表 - 2-8 末子の年齢（現居住区／転入前住所別）



5. 世帯年収

問1. (5) 世帯年収は次のうちどれに当てはまりますか。

転入者の世帯年収は、「700万～1,000万円未満」の割合が64.7%と最も高く、「300万円未満」(16.2%)、「1,000万～1,500万円未満」(10.0%)が続く。

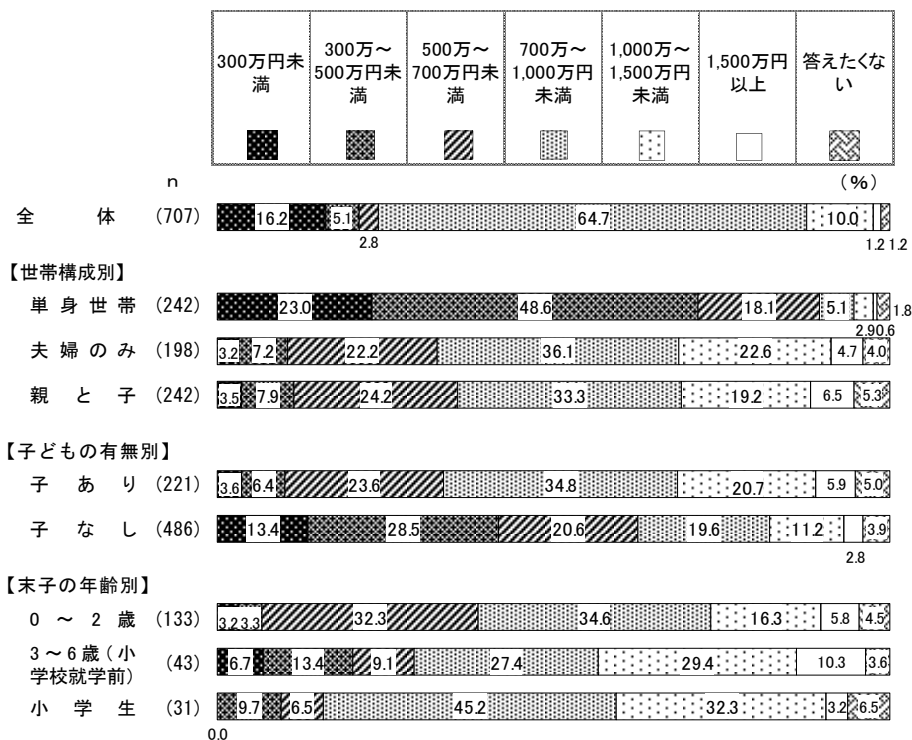
世帯構成別で見ると、『単身世帯』では「300万～500万円未満」が最も高く、『夫婦のみ』『親と子』では「700万～1,000万円未満」が最も高くなった。

子どもの有無別で見ると、子どもがいる世帯では6割以上が700万円以上であり、単身世帯を含む子どもがいない世帯では6割以上が700万円未満となる。

末子の年齢別で見ると、『0～2歳』の子どもを持つ世帯では「500万～1,000万円未満」、『小学生』の子どもを持つ世帯では「700万～1,500万円未満」の世帯が6割～7割を占める。『3～6歳』の子どもを持つ世帯では、「700万～1,000万円未満」が5割以上を占める一方で、「300万～500万円未満」、「1,500万円以上」の世帯がそれぞれ1割以上存在する。

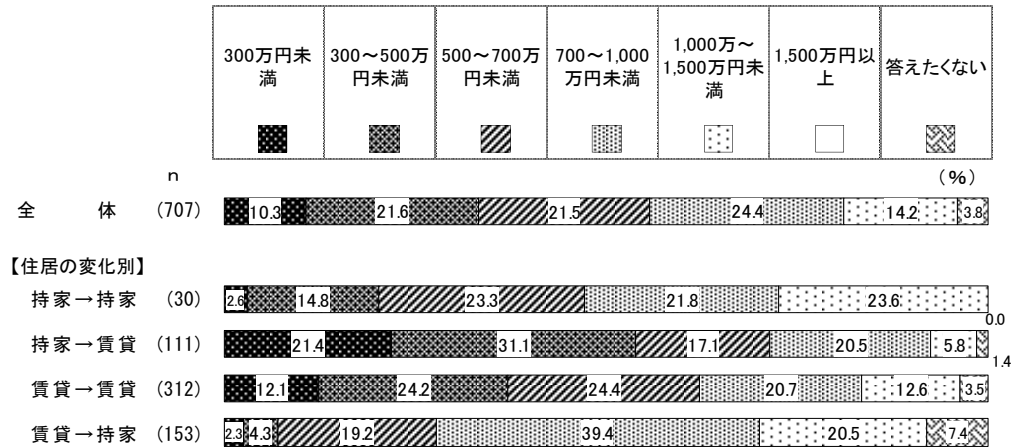
子どもがいても、年齢に伴う収入の増加や夫婦共働きの影響等によって、単身世帯と比較して世帯年収が高くなっている可能性が考えられ、働き方についても子どもの年齢に合わせて変化することがうかがえる。

図表 - 2-9 世帯年収（世帯構成／子どもの有無／末子の年齢別）



転入前後の住居の変化別で見ると、『持家→持家』、『賃貸→持家』の持家を新たに取得した世帯において、『持家→持家』では5割弱、『賃貸→持家』では6割弱が700万円以上を占めており、前述の夫婦のみの世帯や子どもを持つ世帯と同様の傾向を示すことから、さいたま市への転入時に、配偶者・パートナーや子どもとともに住むための住居購入することがうかがえる。一方で、『持家→賃貸』の転入に際し賃貸に住む転入者は、7割弱が700万円を下回ることから、実家から出た単身世帯が多いことがうかがえる。

図表 - 2-10 世帯年収（住居の変化別）

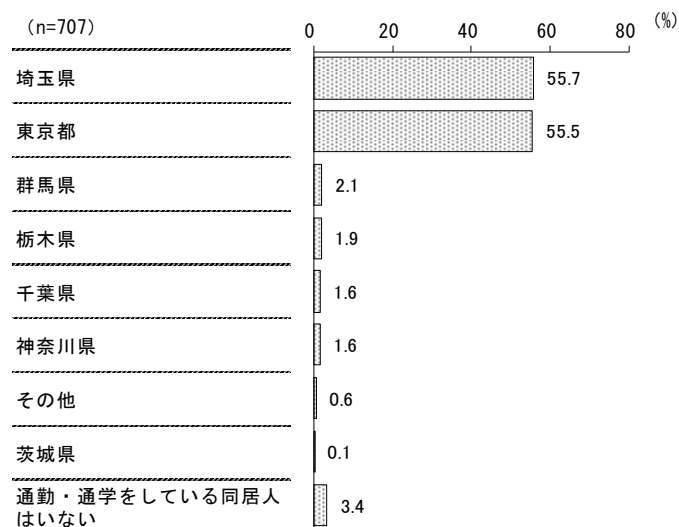


6. 通勤・通学場所

問1. (6) 通勤・通学をしている方（同居の方を含む）は、通勤・通学場所を教えてください。（複数選択可）

同居家族含めた通勤・通学場所は、「埼玉県」の割合が55.7%と最も高く、次いで「東京都」が55.5%を占める。その他回答では、「静岡県」「大阪府」「名古屋」等が見られた。さいたま市への転入者の大半が、埼玉県と東京都の2都県への通勤・通学をしていることが分かる。

図表 - 2-11 通勤・通学場所（全体）

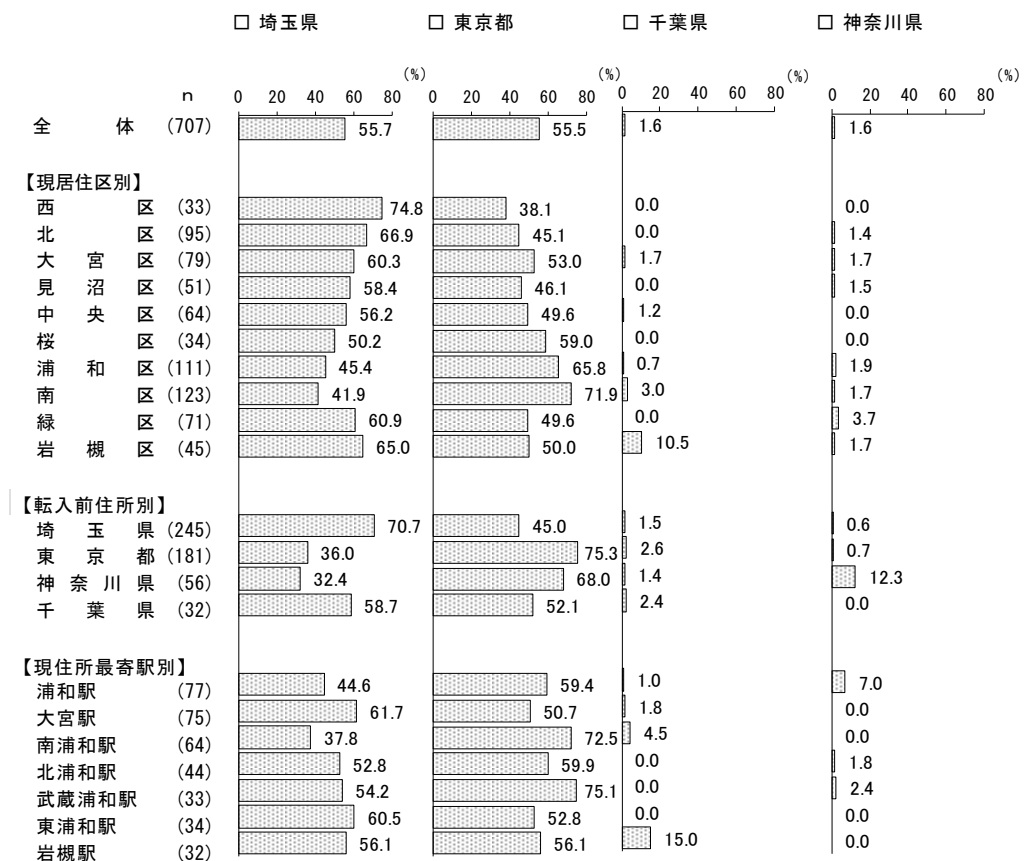


現居住区別で見ると、『西区』において「埼玉県」への通勤・通学者が7割を超える。一方で、『南区』において「東京都」への通勤・通学者が7割強を占めており、『浦和区』『桜区』も半数を超えることから、さいたま市の中でも南側に位置する区から、東京都への通勤・通学者が多いことがうかがえる。また、『岩槻区』から「千葉県」への通勤・通学者が一定数存在した（10.5%）。

転入前住所別で見ると、『東京都』からの転入者は「東京都」への通勤・通学者、『埼玉県』からの転入者は「埼玉県」への通勤・通学者がそれぞれ7割以上を占める。

現住所の最寄り駅別で見ると、『南浦和駅』『武蔵浦和駅』から「東京都」への通勤・通学者がともに7割を超える。また、『大宮駅』『東浦和駅』では、東京都内よりも埼玉県内への通勤・通学者が多い。

図表 - 2-12 【一都三県抜粋】通勤・通学場所（現居住区／転入前住所／現住所最寄り駅別）



7. 転入前の住居所有形態／転入後の住居所有形態

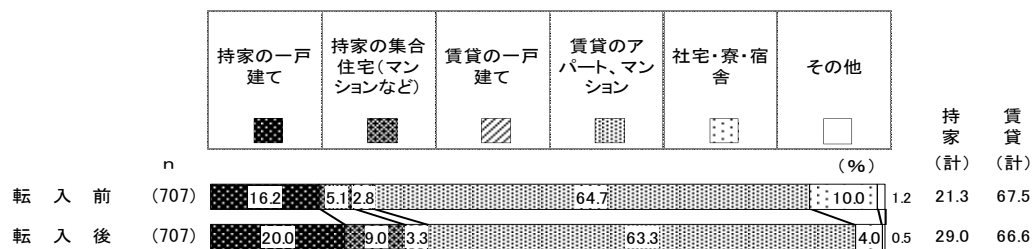
問2. (1) さいたま市に転入される前と後では、住居の所有形態はそれぞれ次のうちどれに当てはまりますか。

転入前の住居形態は、「賃貸のアパート、マンション」の割合が64.7%と最も高く、「持家の一戸建て」が16.2%と続く。

転入後の住居形態は、「賃貸のアパート、マンション」の割合が63.3%と最も高く、「持家の一戸建て」が20.0%と続く。その他回答では、「実家」「知人宅」等が見られた。

持家（「持家の一戸建て」＋「持家の集合住宅（マンションなど）」）の割合が転入前から転入後で7.7ポイント増加しており、本市への転入後、比較的長期にわたり居住する意向があることがうかがえる。

図表 - 2-13 転入前後の住居所有形態（全体）



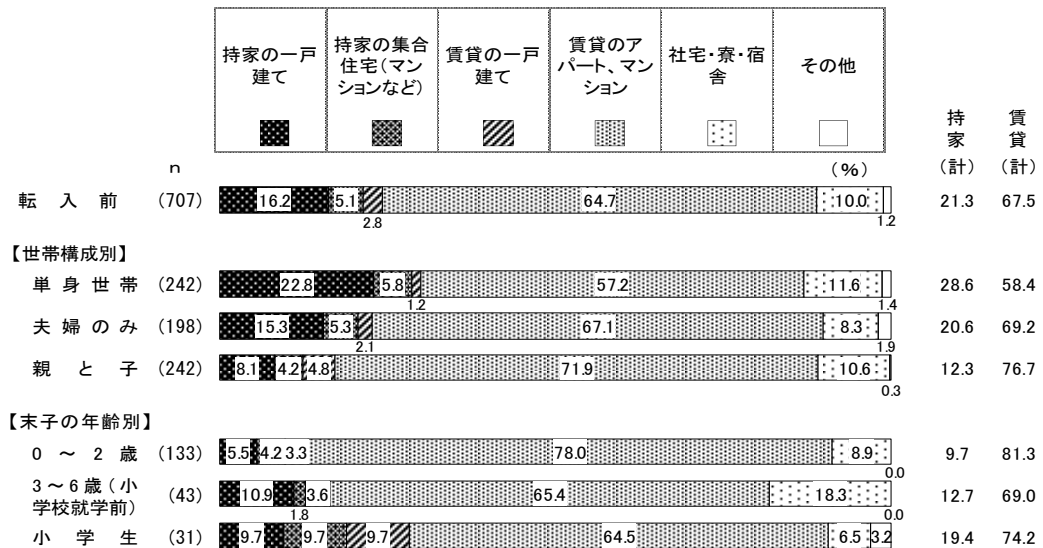
転入前の住居形態を世帯構成別で見ると、『単身世帯』<『夫婦のみ』<『親と子』の順で賃貸の割合が高く、同時に持家の割合が低くなっている。

末子の年齢別で見ると、『3～6歳（小学校就学前）』の子どもを持つ世帯で、「社宅・寮・宿舎」の割合が18.3%を占める。

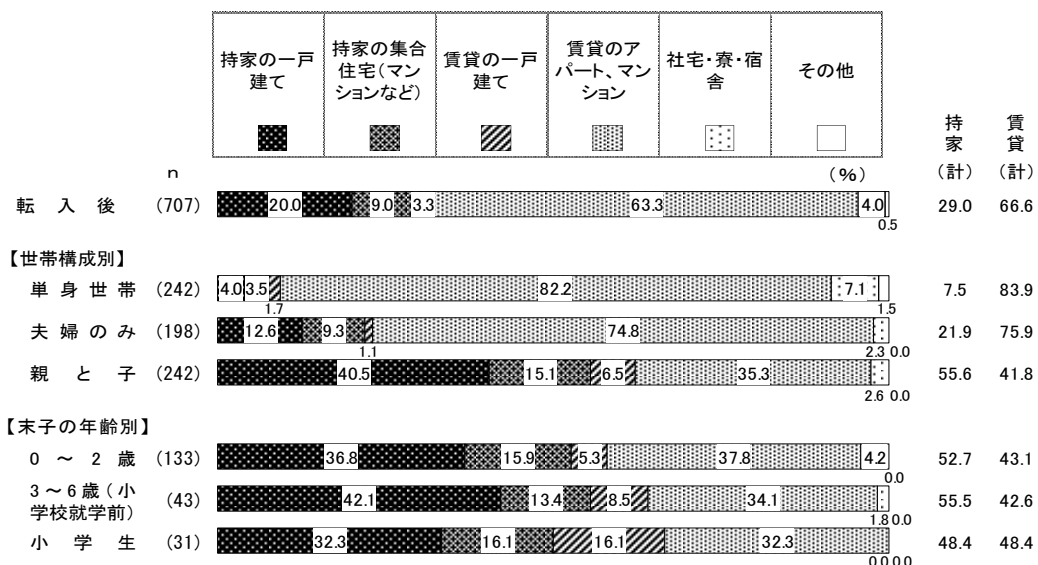
転入後の住居形態を世帯構成別で見ると、『親と子』における持家の割合が55.6%を占め、転入前から43.3%増加することから、子どものいる世帯は住宅購入を機に転入し、賃貸から持家へと変化することがうかがえる。また、単身世帯では転入前の持ち家から転出後は賃貸となる割合が増加することから、実家を出て賃貸に引越しをする様子が見えてくる。

末子の年齢別で見ると、末子の年齢が上がるにつれて「賃貸の一戸建て」の割合がわずかに増加している。（それぞれ5.3%、8.5%、16.1%）

図表 - 2-14 住居所有形態（世帯構成／末子の年齢別）



【転入後の住居所有形態】



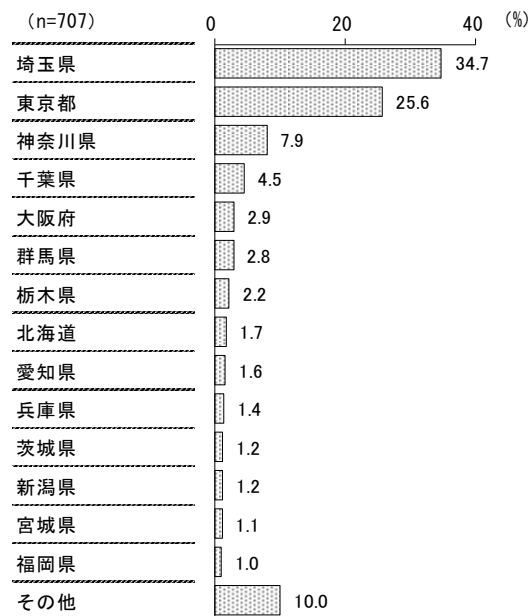
8. 転入前の居住地

問2. (2) 転入前のお住まいはどちらになりますか。

(1) 転入前の居住地（都道府県）

転入前の居住地は、「埼玉県」の割合が34.7%と最も高く、「東京都」(25.6%)、「神奈川県」(7.9%)、「千葉県」(4.5%)と続く。約6割の人が埼玉県と東京都の2都県からの転入者であり、一都三県からの転入者では7割強(72.7%)を占める。

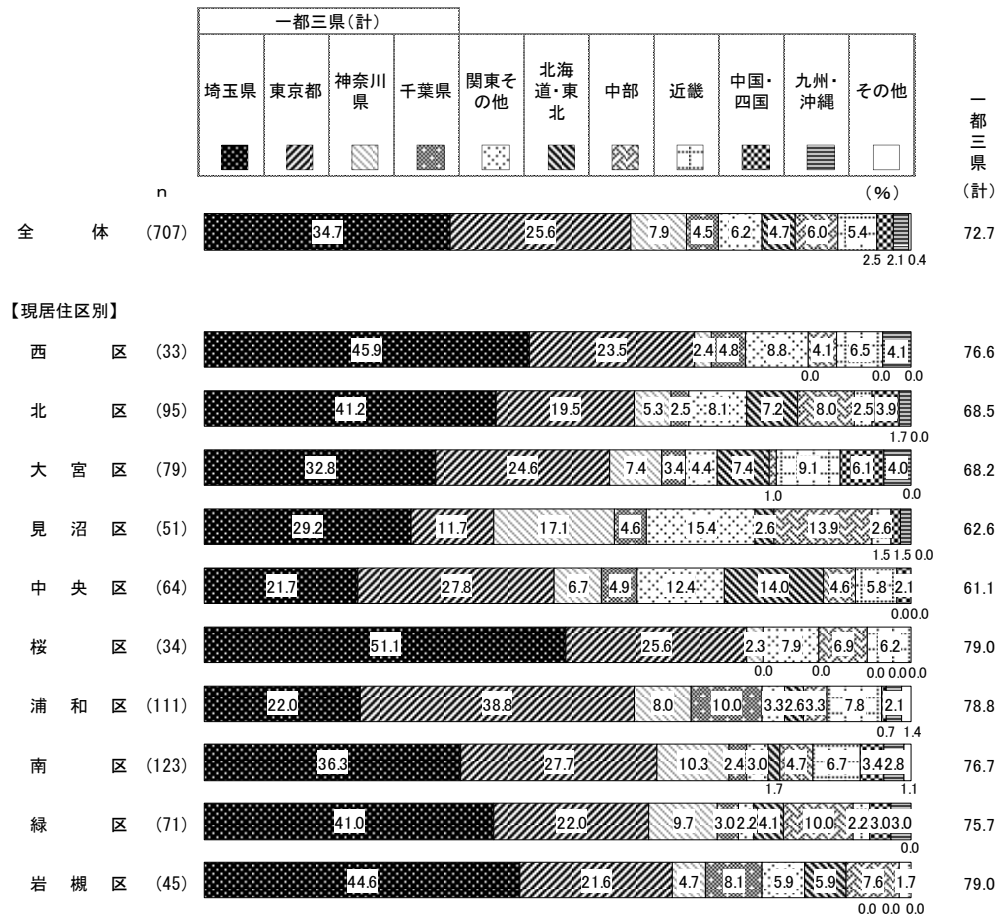
図表 - 2-15 転入前の居住地（都道府県）



※1.0%を下回る選択肢は「その他」として記載

現居住区別で見ると、『桜区』は「埼玉県」からの転入者の割合が全区の中で最も高く（51.1%）、『浦和区』は「東京都」からの転入者の割合が全区の中で最も高い（38.8%）。

図表 - 2-16 転入前の居住地（現居住区別）



(2) 転入前の居住地（市区町村）

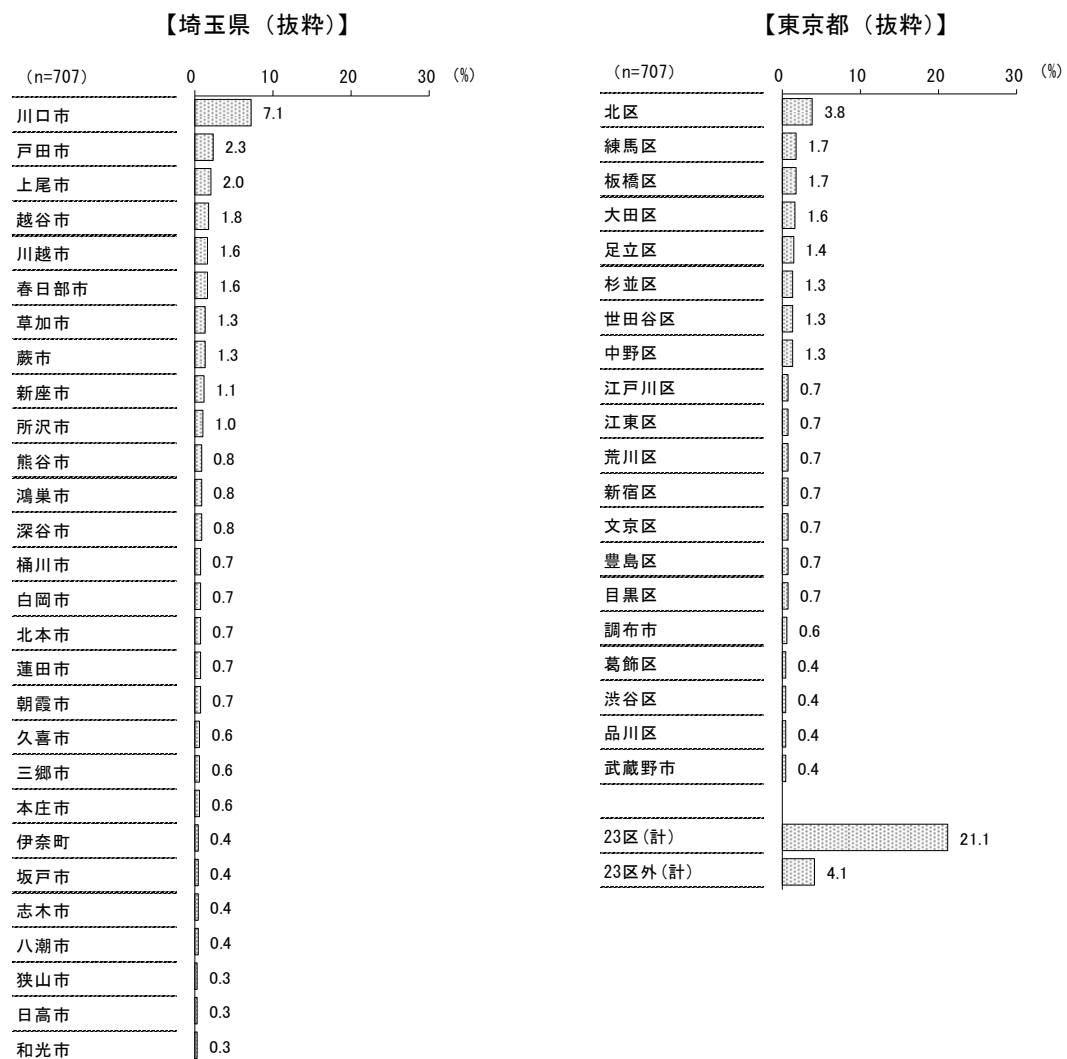
転入前の居住地を、一都三県それぞれの市区町村で見ると、『埼玉県』では「川口市」の割合が転入者全体の7.1%を占め、次いで、「戸田市」(2.3%)、「上尾市」(2.0%)、「越谷市」(1.8%)の順となる。

『東京都』では、「北区」の割合が3.8%を占め、「練馬区」(1.7%)、「板橋区」(1.7%)と続く。さいたま市への転入者のうち、東京23区の割合は21.1%を占める。

『千葉県』では、「船橋市」(1.0%)の割合が最も高く、「千葉市」(0.7%)、「柏市」(0.7%)と続く。

『神奈川県』では、「横浜市」(2.8%)の割合が最も高く、次いで「川崎市」が2.7%を占める。

図表 - 2-17 【一都三県抜粋】転入前の居住地（市区町村）



※「さいたま市」の回答を除く

9. 転入前の最寄り駅

問2. (3) 転入前の住所の最寄り駅を教えてください。

転入前の最寄り駅は、「西川口駅」が2.1%と最も高く、「戸田公園駅」が1.6%、「東川口駅」が1.4%と続く。

図表 - 2-18 【上位抜粋】転入前の最寄り駅

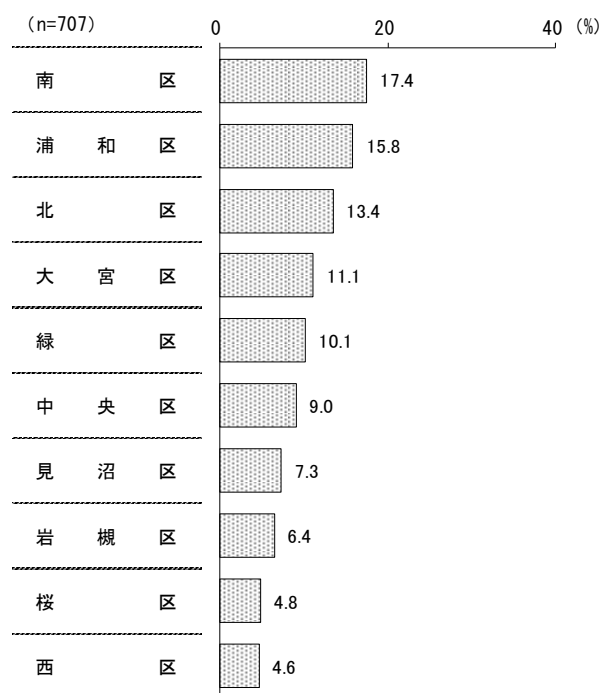


10. 現在の居住区

問2.（4）現在のお住まいの区を教えてください。

現在の居住区は、「南区」が17.4%を占め最も高く、「浦和区」（15.8%）、「北区」（13.4%）と続く。さいたま市内で人口の多い「南区」や「浦和区」への転入者が多く、一方で人口が少ない「西区」「桜区」への転入者は5%を下回り少ない。

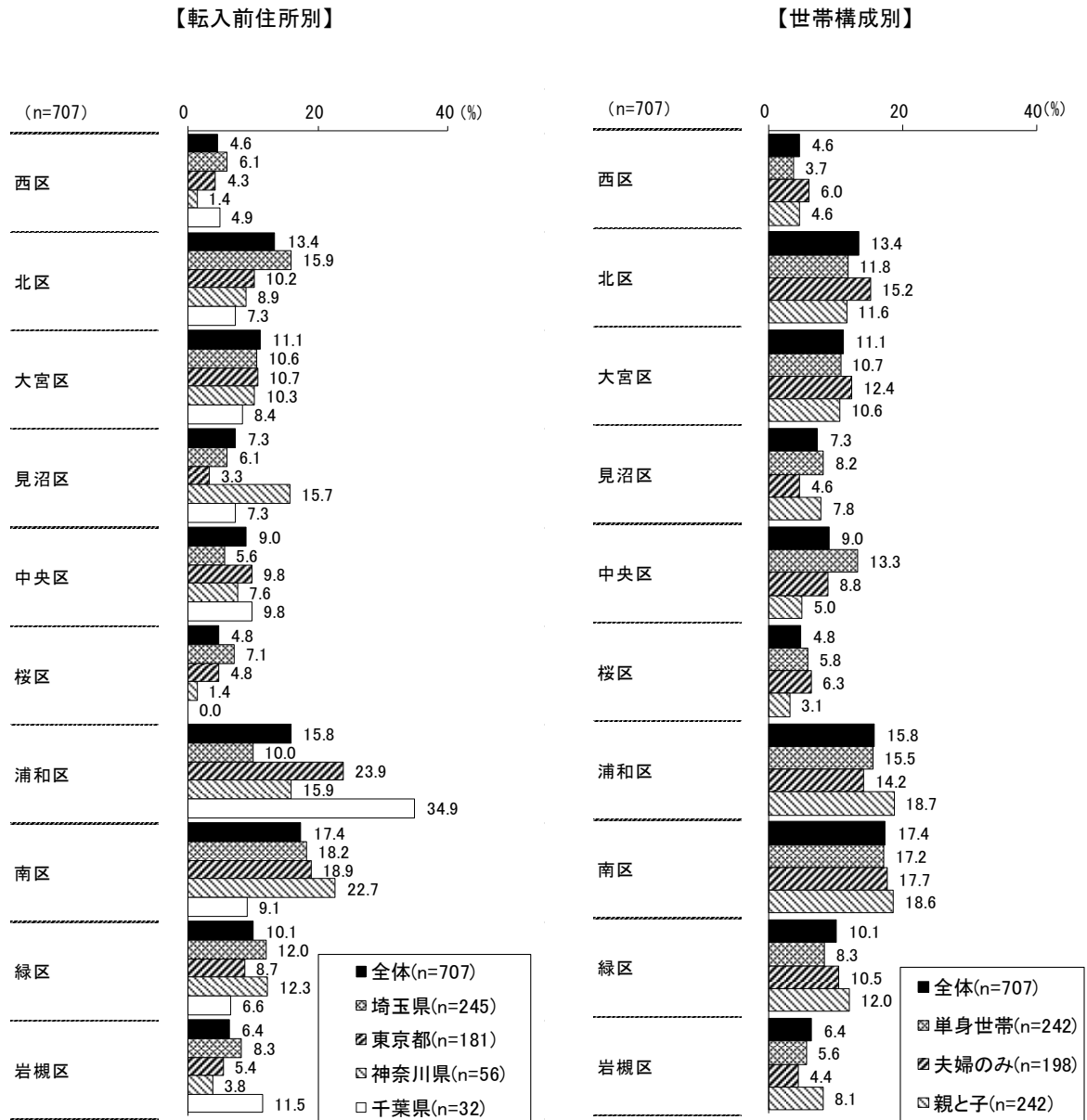
図表 - 2-19 現在の居住区（全体）



転入前の居住地（一都三県）別で見ると、『埼玉県』『神奈川県』からの転入者が最も多いのは「南区」となり、『東京都』『千葉県』からの転入者が最も多いのは「浦和区」となる。特に、『千葉県』からの転入者のうち3割以上が「浦和区」を選択しており他区に比べ特に多い。

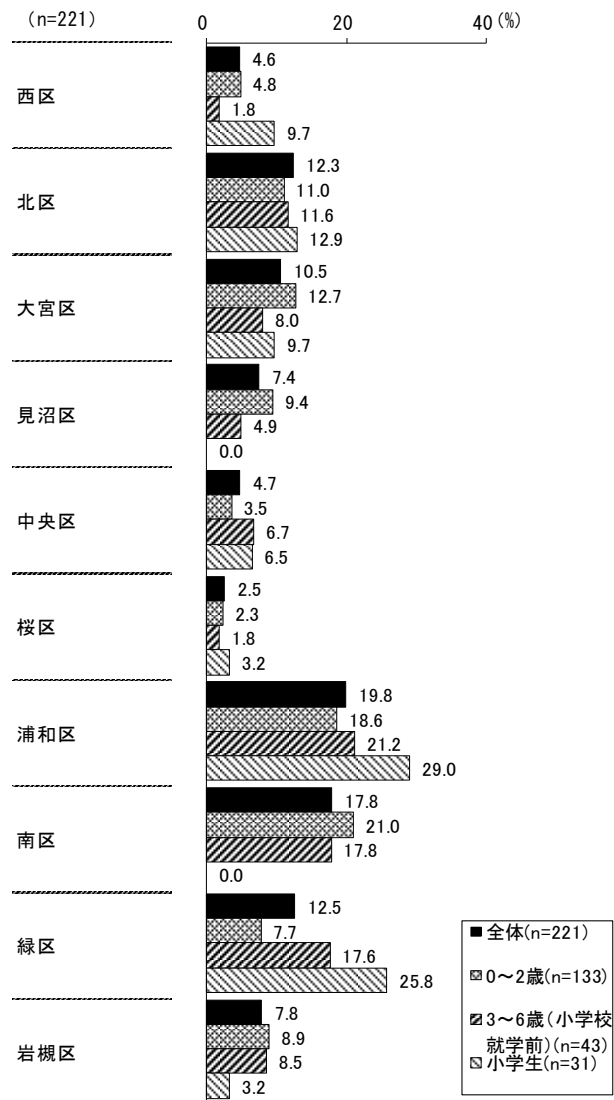
世帯構成別で見ると、『単身世帯』『夫婦のみ』の転入者が最も多いのは「南区」となり、『親と子』の転入者が最も多いのは「浦和区」となる。

図表 - 2-20 現在の居住区（転入前住所／世帯構成別）



末子の年齢別で見ると、3歳以上の子どもを持つ世帯の転入が最も多いのは「浦和区」となり、『0～2歳』の子どもを持つ世帯の転入が最も多いのは「南区」となる。区毎の状況を見ると、小学生の子どもを持つ世帯の転入が多いのは「浦和区」、「緑区」、「西区」となり、子どもの年齢に応じて、区を選び方が異なることがうかがえる。

図表 - 2-2 1 現在の居住区（末子の年齢別）



1.1. 現在の最寄り駅

問2. (5) 現住所の最寄り駅を教えてください。

現住所における最寄り駅は、「浦和駅」が10.8%と最も割合が高く、「大宮駅」が10.6%、「南浦和駅」が9.0%と続く。複数の路線が乗り入れる駅が、転入先の最寄り駅として比較的多く選ばれていることが分かる。

図表 - 2-2 2 現在の最寄り駅（全体）

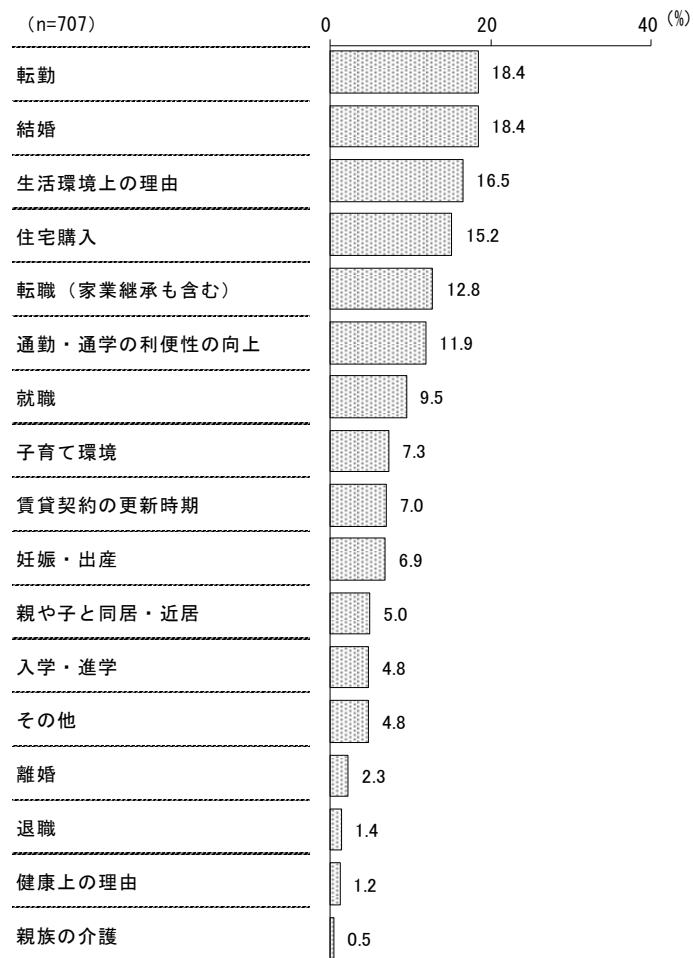


12. 転入のきっかけ

問3. (1) 転入のきっかけのうち特に大きかったものは何ですか。(3つまで)

転入のきっかけとしては、「転勤」(18.4%)、「結婚」(18.4%)の割合が最も高く、「生活環境上の理由」が16.5%と続く。その他回答では、「同棲」(16件)、「社宅が廃止になるため」「出店の為」「大型犬飼育」等が挙げられた。

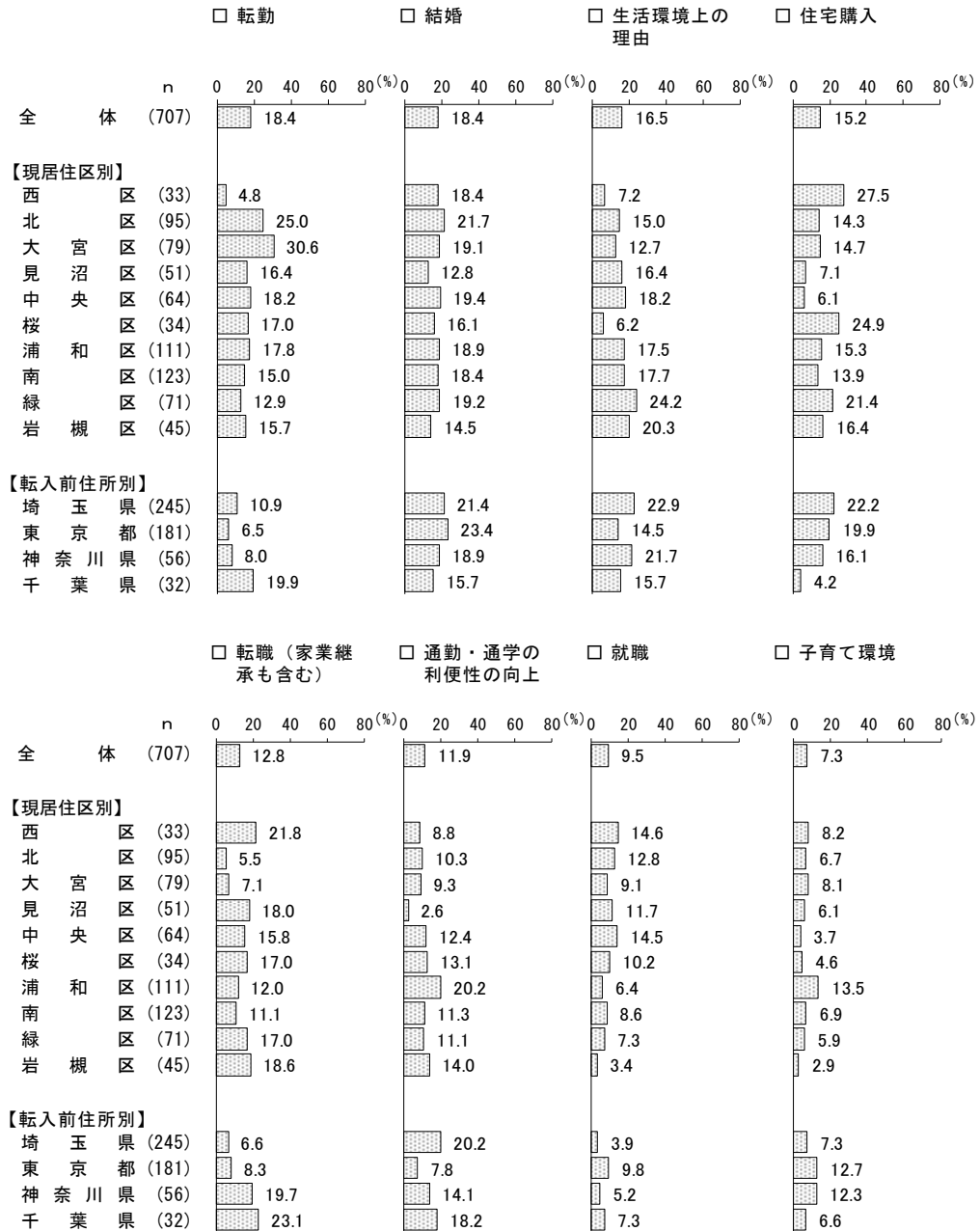
図表 - 2-23 転入のきっかけ(全体)



転入のきっかけを現居住区別で見ると、『大宮区』において、「転勤」をきっかけとする転入者が3割を超え、『浦和区』においては「子育て環境」や「通勤通学の利便性の向上」をきっかけとする割合が他区に比べ比較的高い。また、『西区』『桜区』『緑区』への転入者において、「住宅購入」をきっかけとする割合が比較的高い。

転入前住所別で見ると、『埼玉県』からの転入者において、「生活環境上の理由」「住宅購入」「結婚」「通勤・通学の利便性の向上」の割合が高く、『東京都』においては「結婚」をきっかけとする転入者が多い。

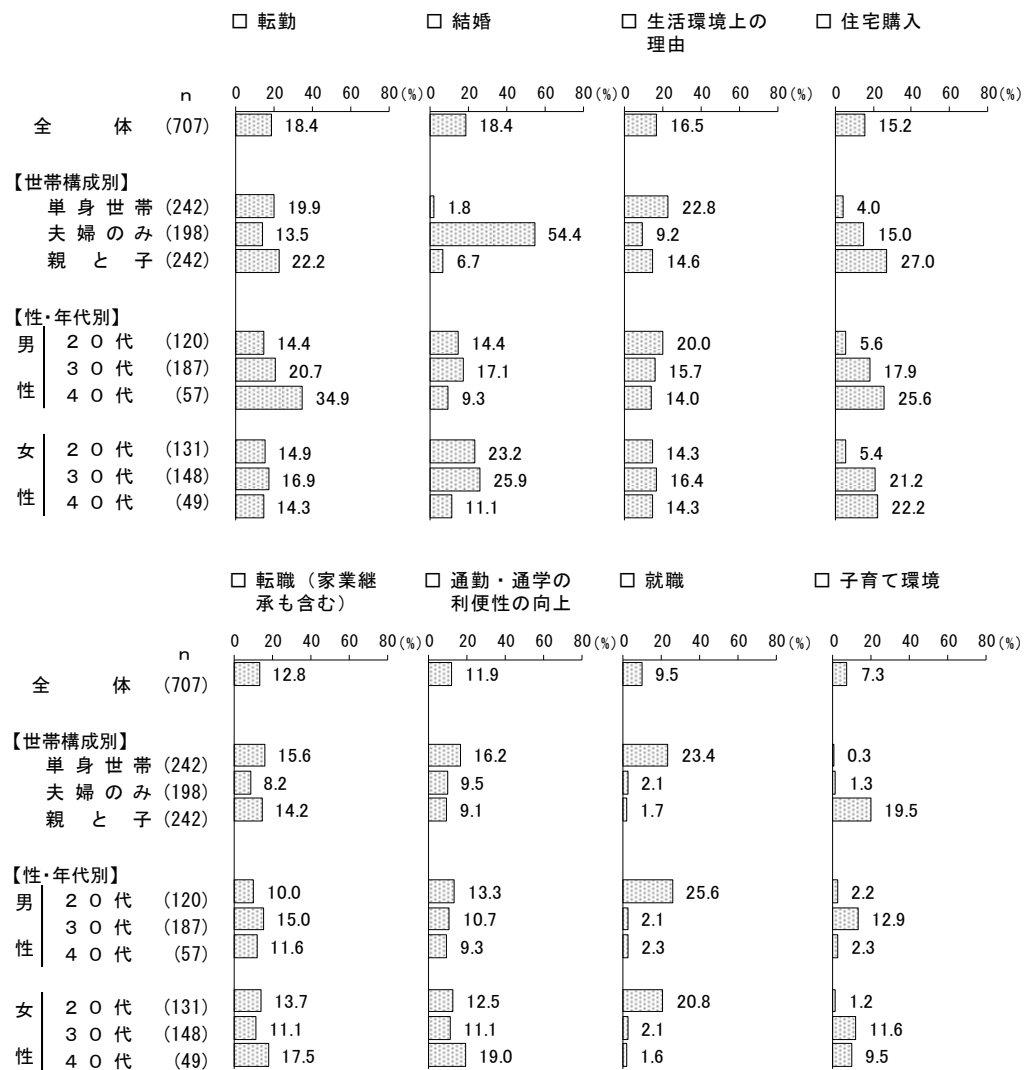
図表 - 2-24 転入のきっかけ（現居住区／転入前住所別）—上位8項目



世帯構成別で見ると、『夫婦のみ』の世帯の過半数が「結婚」をきっかけとし、『単身世帯』の2割強が就職をきっかけとしてさいたま市へ転入している。また、『親と子』の3割弱が「住宅購入」、約2割が「子育て環境」をきっかけとしている。

性・年代別で見ると、『40代男性』の3割以上が「転勤」をきっかけとしている。

図表 - 2-25 転入のきっかけ（世帯構成／性・年代別）



13. さいたま市を選んだ理由

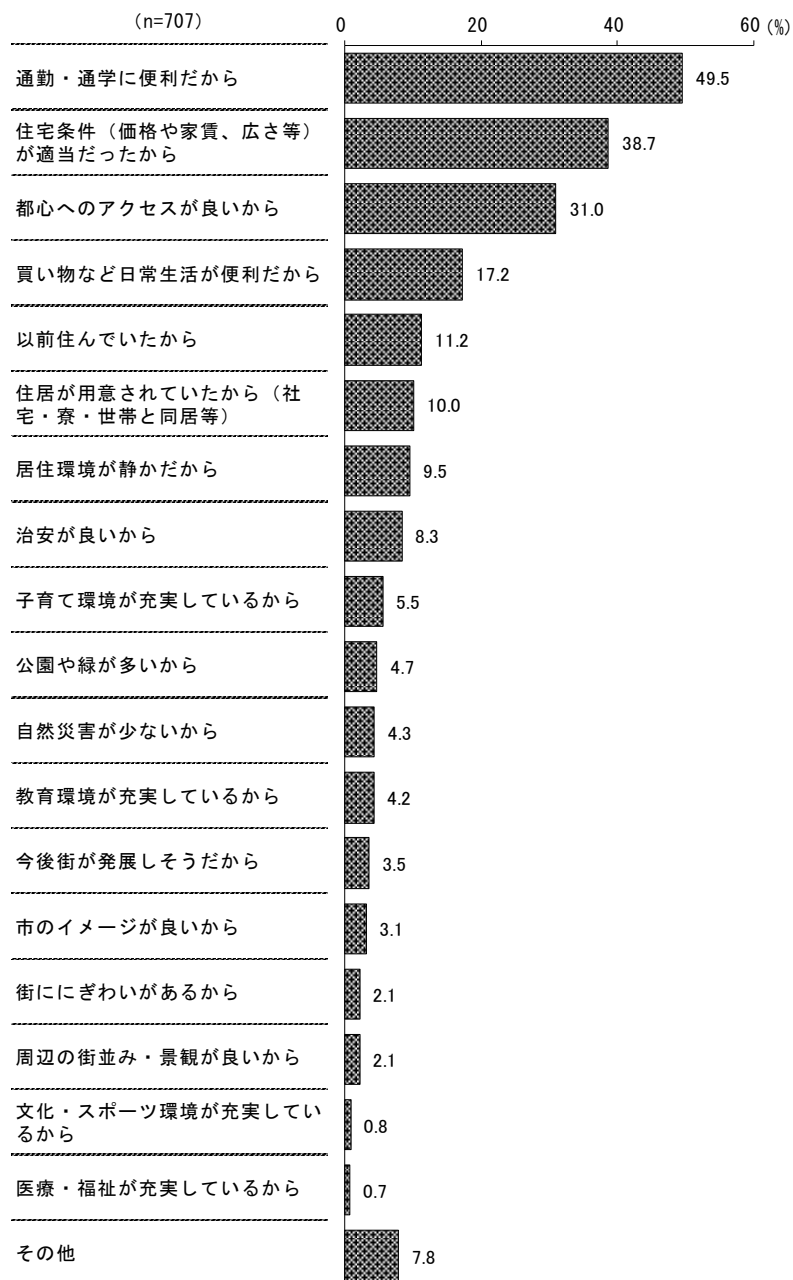
問3. (2) さいたま市を選んだ理由は何ですか。

次の項目の中で、特に重視したものを3つまで教えてください。

さいたま市を選んだ理由として、49.5%が「通勤・通学に便利だから」を挙げており、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）が適当だったから」が38.7%、「都心へのアクセスが良いから」が31.0%、「買い物など日常生活が便利だから」が17.2%と続く。「以前住んでいたから」も11.2%と一定数存在することが分かる。

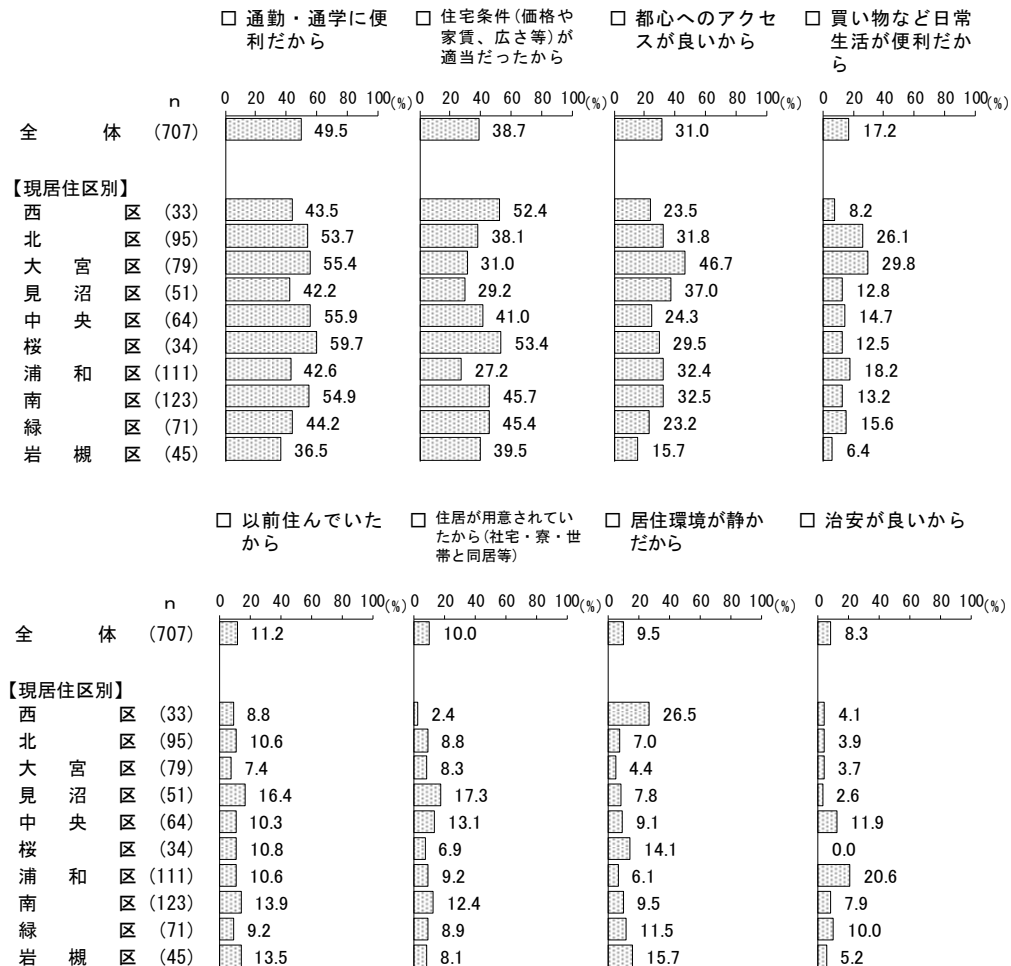
上位3項目のうち、2項目が交通の便を理由としており、転入理由として重要視されていることが分かる。

図表 - 2-26 さいたま市を選んだ理由・重視したもの（全体）



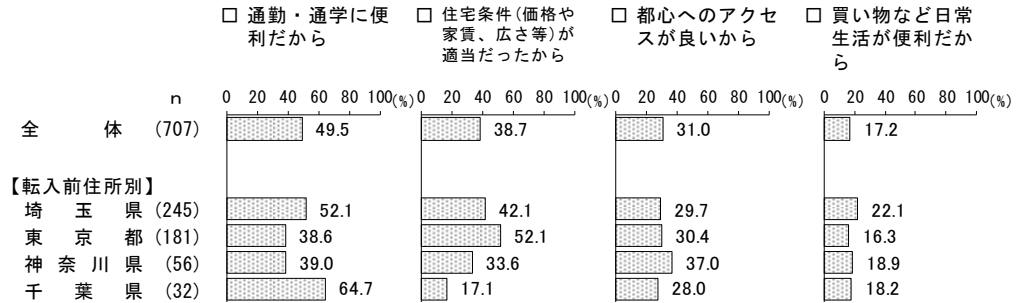
現居住区別で見ると、『桜区』『中央区』『大宮区』『南区』『北区』の5区において、「通勤・通学に便利だから」を重視する人が半数を超えるのに対し、『岩槻区』では3割強とやや低い。また、『桜区』『西区』の2区において、「住宅条件(価格や家賃、広さ等)が適当だったから」を半数以上の人が重視している。他区と比較して、『大宮区』『北区』では日常生活の利便性、『西区』では居住環境の静かさ、『浦和区』では治安の良さを理由とする人が多く、区ごとの特徴的な側面を重視し、さいたま市への転入を決めている人が一定数存在することが分かる。

図表 - 2-27 さいたま市を選んだ理由（現居住区別）—上位8項目



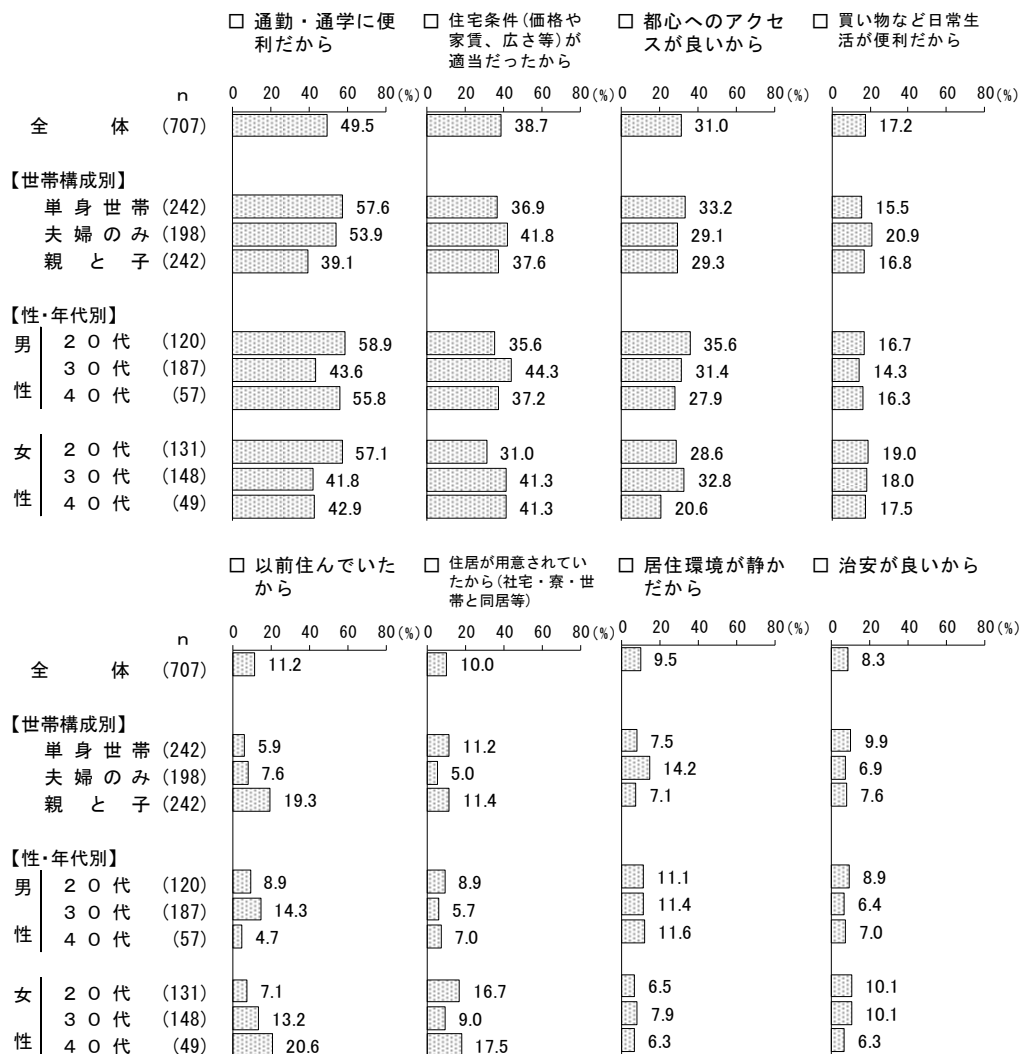
転入前住所別で見ると、『千葉県』からの転入者のうち6割以上が「通勤・通学に便利だから」を転入の理由としており、『埼玉県』でも同様に過半数の人が通勤・通学の利便性をさいたま市への転入理由としている。『東京都』からの転入者は、住宅条件を理由としている人が半数を超え多い。

図表 - 2-28 さいたま市を選んだ理由（転入前住所別）—上位4項目



世帯構成別に見ると、『単身世帯』『夫婦のみ』世帯の半数以上が「通勤・通学に便利だから」をさいたま市への転入理由として挙げている。また、他の世帯と比較して、「以前住んでいたから」の割合が『親と子』の世帯でやや高く、約2割を占める。

図表 - 2-29 さいたま市を選んだ理由（世帯構成／性・年代別）—上位8項目



世帯構成ごとに現居住区別で見ると、＜単身世帯＞では、どの区においても、通勤・通学の利便性や都心へのアクセス、住宅条件が決め手となっているが、『浦和区』においては、治安面も2割以上の人が考慮していることが分かる。＜夫婦のみ＞では、単身世帯と同様に交通アクセスが理由となっているが、『北区』『緑区』において、日常生活での利便性が重要視されているほか、『西区』『岩槻区』において居住環境の静かさ、『西区』『桜区』において住宅条件も理由となることが分かる。＜親と子＞では、『中央区』への転入者において、通勤・通学を理由としている割合が高く、『大宮区』『中央区』において日常生活の利便性を重要視した転入者が多く見られた。

図表 - 2-30 さいたま市を選んだ理由（世帯構成／現居住区別）—上位8項目

(%)

単身世帯		回答数(n)	問3(2)さいたま市を選んだ理由で特に重視したもの(3つまで)							
			通勤・通学に 便利だから	住宅条件(価 格や家賃、広 さ等)が適当 だったから	都心へのアク セスが良いか ら	買い物など日 常生活が便利 だから	以前住んでい たから	住居が用意さ れていたから (社宅・寮・ 家族と同居等)	居住環境が静 かだから	治安が良いか ら
回答数		242	57.6	36.9	33.2	15.5	5.9	11.2	7.5	9.9
問 2 (4) さい たま 市に 現在 お住 まい る区	西区	9	46.9	55.6	53.1	14.8	14.8	0.0	23.5	0.0
	北区	29	57.4	38.7	37.1	25.0	4.7	4.7	5.5	5.5
	大宮区	26	67.4	15.4	45.9	27.5	0.0	11.2	5.1	5.1
	見沼区	20	49.4	28.1	34.8	10.7	6.7	26.4	0.0	6.7
	中央区	32	53.5	41.0	13.9	4.9	6.6	16.3	4.9	9.7
	桜区	14	69.8	50.8	34.1	30.2	11.1	0.0	19.0	0.0
	浦和区	37	59.2	29.5	35.1	17.6	6.3	11.9	5.7	24.1
	南区	42	65.2	44.4	46.2	13.1	7.0	8.8	8.3	7.5
	緑区	20	38.1	47.5	18.2	6.6	0.0	17.1	13.3	14.4
	岩槻区	13	57.0	33.1	5.8	5.8	9.9	5.8	5.8	11.6
夫婦のみ		回答数(n)	問3(2)さいたま市を選んだ理由で特に重視したもの(3つまで)							
			通勤・通学に 便利だから	住宅条件(価 格や家賃、広 さ等)が適当 だったから	都心へのアク セスが良いか ら	買い物など日 常生活が便利 だから	以前住んでい たから	住居が用意さ れていたから (社宅・寮・ 家族と同居等)	居住環境が静 かだから	治安が良いか ら
回答数		198	53.9	41.8	29.1	20.9	7.6	5.0	14.2	6.9
問 2 (4) さい たま 市に 現在 お住 まい る区	西区	12	44.8	64.5	17.8	0.0	0.0	6.6	30.9	0.0
	北区	30	57.8	41.1	23.7	37.8	9.6	7.0	12.2	2.6
	大宮区	25	52.7	23.6	47.3	23.6	0.0	0.0	3.2	0.0
	見沼区	9	46.9	46.9	32.1	8.7	14.8	0.0	14.8	0.0
	中央区	17	55.8	41.0	37.8	22.5	12.2	13.5	19.9	12.2
	桜区	12	65.8	64.0	29.7	0.0	0.0	6.3	17.1	0.0
	浦和区	28	46.8	26.2	32.9	26.2	5.6	2.8	9.1	21.4
	南区	35	63.2	50.5	23.8	14.3	14.3	6.7	9.8	9.8
	緑区	21	47.9	43.0	25.3	30.6	10.2	3.8	20.4	6.4
	岩槻区	9	42.3	42.3	9.0	9.0	0.0	0.0	33.3	0.0
親と子		回答数(n)	問3(2)さいたま市を選んだ理由で特に重視したもの(3つまで)							
			通勤・通学に 便利だから	住宅条件(価 格や家賃、広 さ等)が適当 だったから	都心へのアク セスが良いか ら	買い物など日 常生活が便利 だから	以前住んでい たから	住居が用意さ れていたから (社宅・寮・ 家族と同居等)	居住環境が静 かだから	治安が良いか ら
回答数		242	39.1	37.6	29.3	16.8	19.3	11.4	7.1	7.6
問 2 (4) さい たま 市に 現在 お住 まい る区	西区	11	35.4	33.3	7.1	12.1	14.2	0.0	19.2	12.1
	北区	28	47.6	34.5	29.0	19.4	12.3	14.7	4.8	0.0
	大宮区	26	46.5	46.5	46.5	36.1	22.6	14.4	5.2	6.1
	見沼区	19	40.6	27.7	48.8	19.4	30.6	11.2	7.1	0.0
	中央区	12	61.1	30.5	19.5	32.4	19.5	6.5	6.5	13.0
	桜区	8	30.9	41.2	20.6	0.0	27.9	20.6	0.0	0.0
	浦和区	45	26.9	26.4	28.6	14.1	17.5	9.4	4.7	17.5
	南区	45	40.7	44.7	27.6	12.9	20.6	17.1	10.7	7.0
	緑区	29	45.4	48.1	21.1	11.9	15.4	7.3	4.6	7.3
	岩槻区	20	22.7	39.2	28.4	6.8	20.4	6.8	10.8	4.0

14. さいたま市を選んだ具体的な理由

問3. (3)(2) で選んだ内容について、具体的に教えてください。(自由記述)

具体的な理由について、回答のあった531件の回答を(2)の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 2-31 さいたま市を選んだ具体的な理由

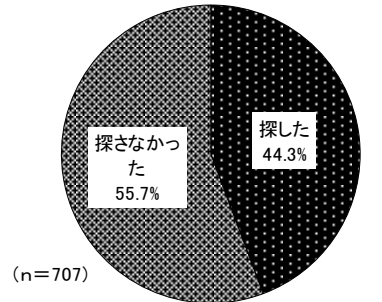
分類内容	自由回答(一部抜粋)	件数
通勤・通学に便利だから	・二人の勤務地から中間のため(20代男性、緑区) ・ 新幹線通勤 をする会社の条件に合う場所だったから(30代男性、西区)	215
住宅条件(価格や家賃、広さ等)が適当だったから	・都内だと広さを求めると家賃が高くなる為、埼玉で 広さを求めて 引っ越した(30代男性、浦和区) ・家族が増えたので、間取りが広く、自然の多い、今後の街の発展を考えたため(40代男性、西区)	149
都心へのアクセスが良いから	・ 大宮 から都内へのアクセスが良い(20代女性、見沼区) ・ 湘南新宿ライン が通っているから(20代女性、緑区)	108
買い物など日常生活が便利だから	・休みの日などに最寄駅で買い物などが楽しめる街に住みたいと考えており、都心の職場からアクセスできてその条件にも当てはまる候補が大宮だった(20代男性、大宮区) ・駅から歩いて家に着くまで、生活するために 必要なものがすべて揃っている (20代男性、見沼区)	83
住居が用意されていたから(社宅・寮・家族と同居等)	・ 実家 があるから(30代女性、南区) ・会社が用意した 借り上げ寮 がさいたま市にあったから(40代女性、中央区)	47
以前住んでいたから	・夫婦2人ともさいたま市の出身で土地勘があったのと、都内に希望の家を買う予算は出せなかったため(30代女性、中央区)	40
治安が良いから	・浦和住みの知人から浦和が治安がいい、夜遅くまで働くなら 夜道も安心して歩ける 場所がいいと聞いた(20代女性、浦和区) ・特に犯罪や事故、事件などの噂を聞かない(20代女性、岩槻区)	36
居住環境が静かだから	・ある程度 都会 の喧騒から離れたかった(20代女性、西区) ・のどかな環境で過ごしやすい、 騒音がない (20代女性、北区)	32
公園や緑が多いから	・ 大宮公園 が近くにあり、いいと思ったから(30代女性、大宮区) ・浦和駅は駅前が充実しているのに公園が多いから(30代男性、浦和区)	30
子育て環境が充実しているから	・評判のいい 公立校 や塾が近場にある(30代女性、浦和区) ・ 保育園 が多く、子育てしやすい環境だと思った(30代男性、浦和区)	25
教育環境が充実しているから	・現在2才の子育て中で、幼稚園などから英語を教えている所が多い事、小学1年生から英語があることが魅力。街も住みやすく、利便性に富む(30代男性、南区) ・通いたい小学校の学区内にした(30代女性、岩槻区)	20
今後街が発展しそうだから	・ 再開発 工事も進んでおり、今後家を買うことも考えて生活環境が発展しているさいたま市に転入を決めた(30代女性、緑区) ・引っ越し場所を検討する際に、担当してくださった仲介業者の方からこれから発展していくからさらに住みやすくなる旨を聞いたから(20代女性、大宮区)	14
自然災害が少ないから	・ 水害が少なく 、地盤が安定しているところを住宅として購入したかったため(30代女性、浦和区) ・ハザードマップにおいて、洪水や津波、土砂災害の危険性もなく、また過去にそのような 災害の履歴がない ことから安心して生活を送れると感じた(20代男性、浦和区)	13
医療・福祉が充実しているから	・小児がん拠点病院である県立医療センターへのアクセスが良い(30代女性、浦和区) ・子育てする際に、産婦人科が近くにあることが必要のため(30代女性、桜区)	8
街ににぎわいがあるから	・仕事が休みの日は大宮や都内に遊びに行けたり、周りも栄えているので住みやすいと思ったから(20代男性、北区) ・学校の数が多く、若い世代の活気あふれる街が良い(40代男性、南区)	7
市のイメージが良いから	・通勤時間の短縮、 さいたま市の活動は印象が良く 、さいたま市内のいくつかの候補で今の拠点に住んでいる(20代女性、南区) ・さいたま市はすべてが整っているから(30代女性、緑区)	6
周辺の街並み・景観が良いから	・新しい建物ばかりで緑もあり気に入った(30代女性、岩槻区) ・別所沼公園や緑道、荒川までのサイクリングロードなど緑が多い(20代女性、南区) ・公園、遊歩道があり日々の散歩がしやすい(40代男性、浦和区)	5
文化・スポーツ環境が充実しているから	・ 浦和レッズ が大好きで埼玉スタジアム周辺に住みたいと思っていたので(20代男性、緑区)	2
その他	・現住所へは単身赴任終了で、戻ってきたため(30代男性、北区) ・夫婦共に両親が埼玉在住のため、子育てのサポートの受けやすさを考慮(30代男性、浦和区) ・大宮駅がハブ駅で北陸、東北、東京、あらゆる方面をカバーしている立地であるため(40代男性、大宮区)	114

15. 新住居を探すとき、さいたま市以外の地域の探索状況

問3. (4) 新たなお住まいを探すとき、さいたま市以外の地域を探しましたか。

さいたま市以外の探索状況は、「探さなかった」が55.7%、「探した」が44.3%と、さいたま市以外を探さなかった転入者が過半数を占める。

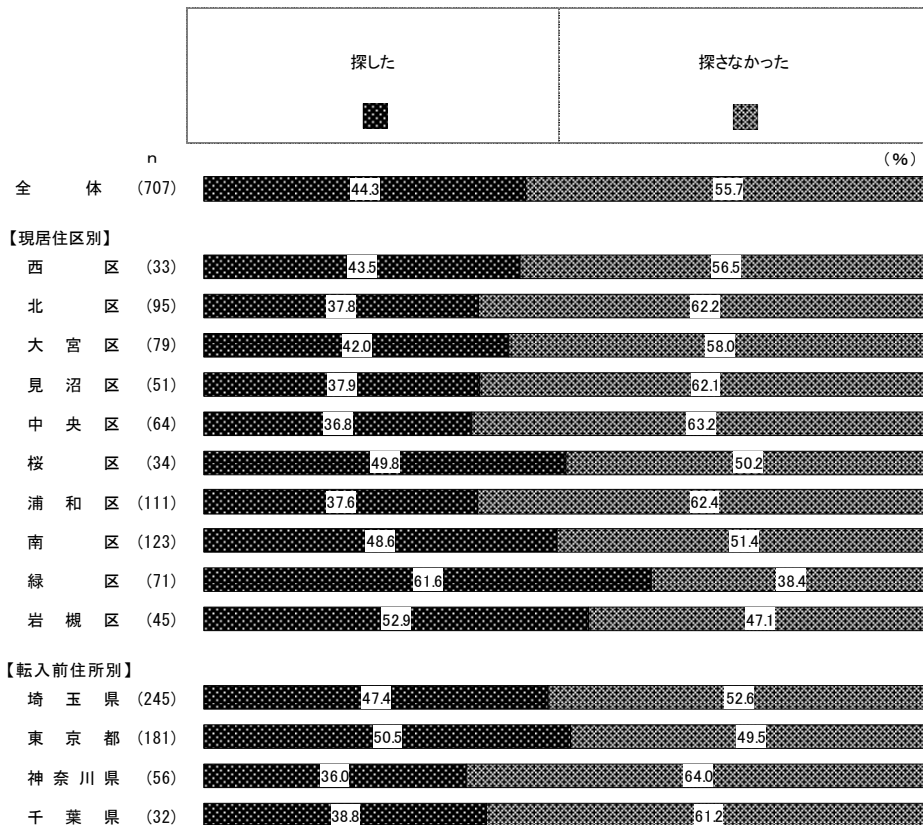
図表 - 2-3 2 さいたま市以外の探索状況（全体）



現居住区別で見ると、『緑区』で6割以上の人「探した」と回答する一方で、『中央区』や『浦和区』、『北区』、『見沼区』では「探さなかった」人が6割以上を占める。

転入前住所別で見ると、『神奈川県』『千葉県』からの転入者の6割以上が、さいたま市以外を探索しないまま、転入に至っている。

図表 - 2-3 3 さいたま市以外の探索状況（現居住区／転入前住所別）



16. 探索した都道府県／自治体名／最寄り駅

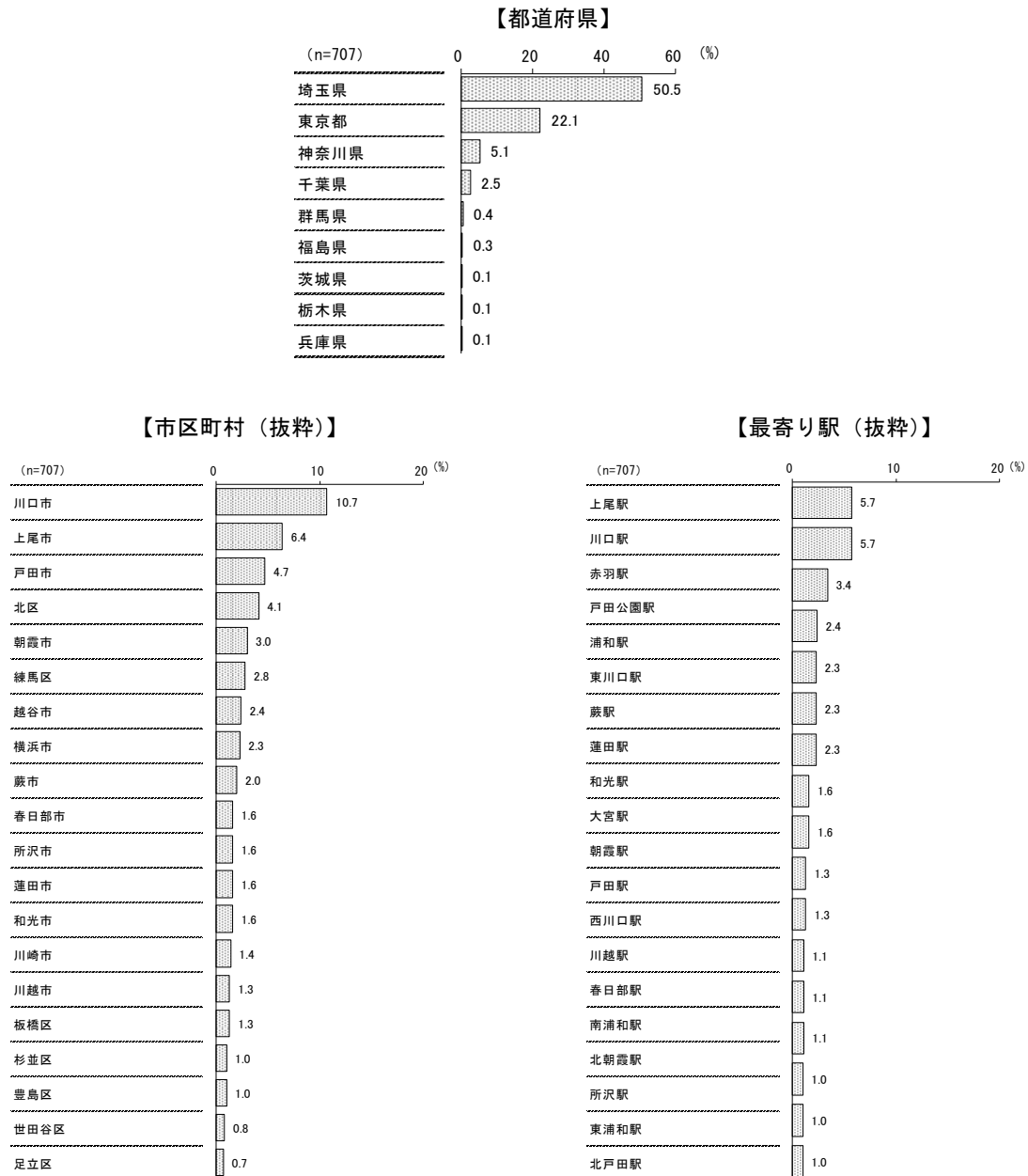
問3. (5)(4)で「1. 探した」とお答えの方に伺います。どの地域で探しましたか。
上位3つまでの自治体名とその最寄り駅を教えてください。

上位3つの回答を統合すると、探索した都道府県は「埼玉県」の割合が50.5%と最も高く、次いで「東京都」が22.1%となっている。

さいたま市以外で最も探索されていた自治体は「川口市」(10.7%)となった。次いで、「上尾市」(6.4%)、「戸田市」(4.7%)となる。

また、最寄り駅については、「上尾駅」(5.7%)、「川口駅」(5.7%)が並び、「赤羽駅」(3.4%)が続く。京浜東北線や埼京線のほか、武蔵野線や東武アーバンパークラインなど、本市から東西南北に走る路線の沿線駅が多く挙げられている。

図表 - 2-34 さいたま市以外の探索地域（全体）



※「さいたま市」の回答を除く

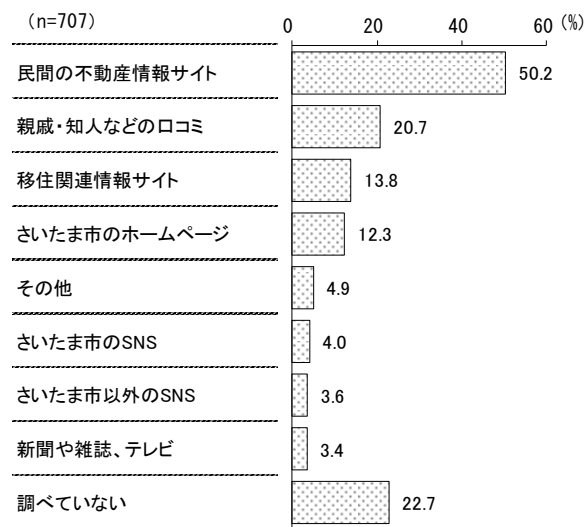
17. 転入に関する情報源

問3. (6) 転入に関する情報収集で活用したものを教えてください。(複数選択可)

転入に関する情報源として、最も活用されたものは「民間の不動産情報サイト」(50.2%)となり、「調べていない」(22.7%)、「親戚・知人などの口コミ」が20.7%と続く。その他回答では、「YouTube」、「Googleマップ」、「会社の提携不動産屋」等が挙げられた。

半数以上が民間の不動産情報を追う中、情報収集を行わずに転入を決める人が一定数存在している。

図表 - 2-35 転入に関する情報源（全体）



また、前述の「調べてない」と回答した、転入に際し情報を得ていない転入者について着目すると、情報源を『調べていない』転入者におけるさいたま市を選んだ理由として「住居が用意されていたから」とした転入者が3割弱となっているが、通勤・通学の利便性や交通アクセス、住宅条件なども加味していることが分かる。

同様に転入後の住居形態では、情報源を『調べていない』転入者のうち、「社宅・寮・宿舍」が約1割を占めており、動かしようのない状況で情報を得ない転入者がいる一方で、「賃貸のアパート、マンション」が半数程度と、転入先について調べずに住居を決める人が一定数存在することが分かる。

図表 - 2-36 さいたま市を選んだ理由（転入に関する情報源別）

(%)

		回答数(n)	問3(2)さいたま市を選んだ理由で特に重視したもの(3つまで)							
			通勤・通学に 便利だから	住宅条件(価 格や家賃、広 さ等)が適当 だったから	都心へのアク セスが良いか ら	買い物など日 常生活が便利 だから	以前住んでい たから	住居が用意さ れていたから (社宅・寮・ 家族と同居等)	居住環境が静 かだから	治安が良いか ら
回答数(n)		707	49.5	38.7	31.0	17.2	11.2	10.0	9.5	8.3
転 入 に 関 する 情 報 源	新聞や雑誌、テレビ	24	61.5	36.6	41.3	23.5	5.6	0.0	13.1	20.7
	さいたま市のSNS	28	39.4	41.0	32.7	19.7	12.2	15.0	14.2	8.3
	さいたま市以外のSNS	25	45.1	52.2	54.0	25.2	3.1	3.1	4.0	12.4
	さいたま市のホームページ	87	43.9	47.0	39.0	19.1	14.2	6.9	9.1	14.8
	移住関連情報サイト	98	51.9	51.0	31.9	20.5	11.9	0.8	22.1	12.6
	民間の不動産情報サイト	355	53.8	48.0	33.9	23.2	7.0	2.6	11.5	11.2
	親戚・知人などの口コミ	146	46.3	42.0	30.5	26.9	7.2	6.4	11.7	14.9
	その他	35	38.1	45.8	38.4	14.5	14.5	12.3	4.5	10.7
調べていない		160	39.9	21.1	20.9	9.9	17.9	26.4	6.5	2.8

図表 - 2-37 転入後の住居所有形態（転入に関する情報源別）

(%)

		回答数(n)	問2(1)転入後の住居所有形態					
			持家の一戸建て	持家の集合住宅(マンションなど)	賃貸の一戸建て	賃貸のアパート、マンション	社宅・寮・宿舍	その他
回答数(n)		707	20.0	9.0	3.3	63.3	4.0	0.5
転入に関する情報源	新聞や雑誌、テレビ	24	14.5	3.3	0.0	82.2	0.0	0.0
	さいたま市のSNS	28	31.9	13.0	2.8	42.9	4.7	4.7
	さいたま市以外のSNS	25	25.2	6.2	10.6	58.0	0.0	0.0
	さいたま市のホームページ	87	35.3	10.3	5.8	46.9	1.8	0.0
	移住関連情報サイト	98	16.4	10.5	3.5	69.5	0.0	0.0
	民間の不動産情報サイト	355	14.1	10.0	3.8	70.3	1.6	0.2
	親戚・知人などの口コミ	146	19.3	7.4	5.3	67.0	1.1	0.0
	その他	35	22.3	12.3	0.0	58.7	6.8	0.0
調べていない		160	25.6	10.1	3.6	49.0	10.7	1.0

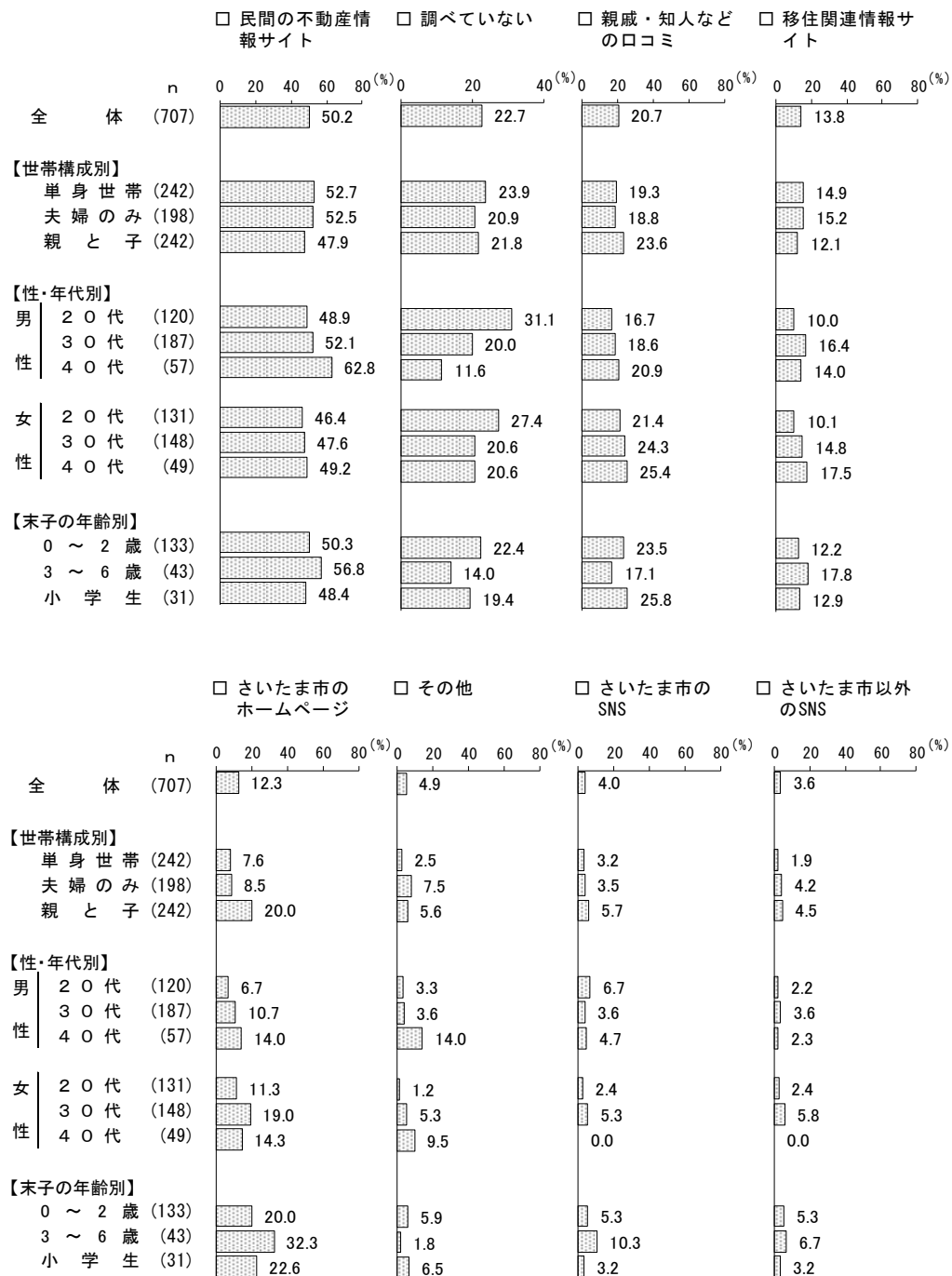
世帯構成別で見ると、『親と子』において「さいたま市のホームページ」を2割の人が活用している。

性・年代別で見ると、『20代男性』の3割以上が「調べていない」としており、年代が上がるにつれて割合が下がる。

末子の年齢別で見ると、『3～6歳』において3割以上が「さいたま市のホームページ」を確認しており、子どもがいる家庭の中でも、特に自治体情報を確認する世帯であることが分かる。

また、「さいたま市のSNS」についても、全体の割合こそ少ないものの、『親と子』の世帯や『3～6歳』の子どもを持つ世帯で、他の世帯構成と比べてやや高くなっている。

図表 - 2-38 転入に関する情報源（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目



18. さいたま市の居住予定年数

問4. (1) さいたま市にどれくらい継続して住む予定ですか。

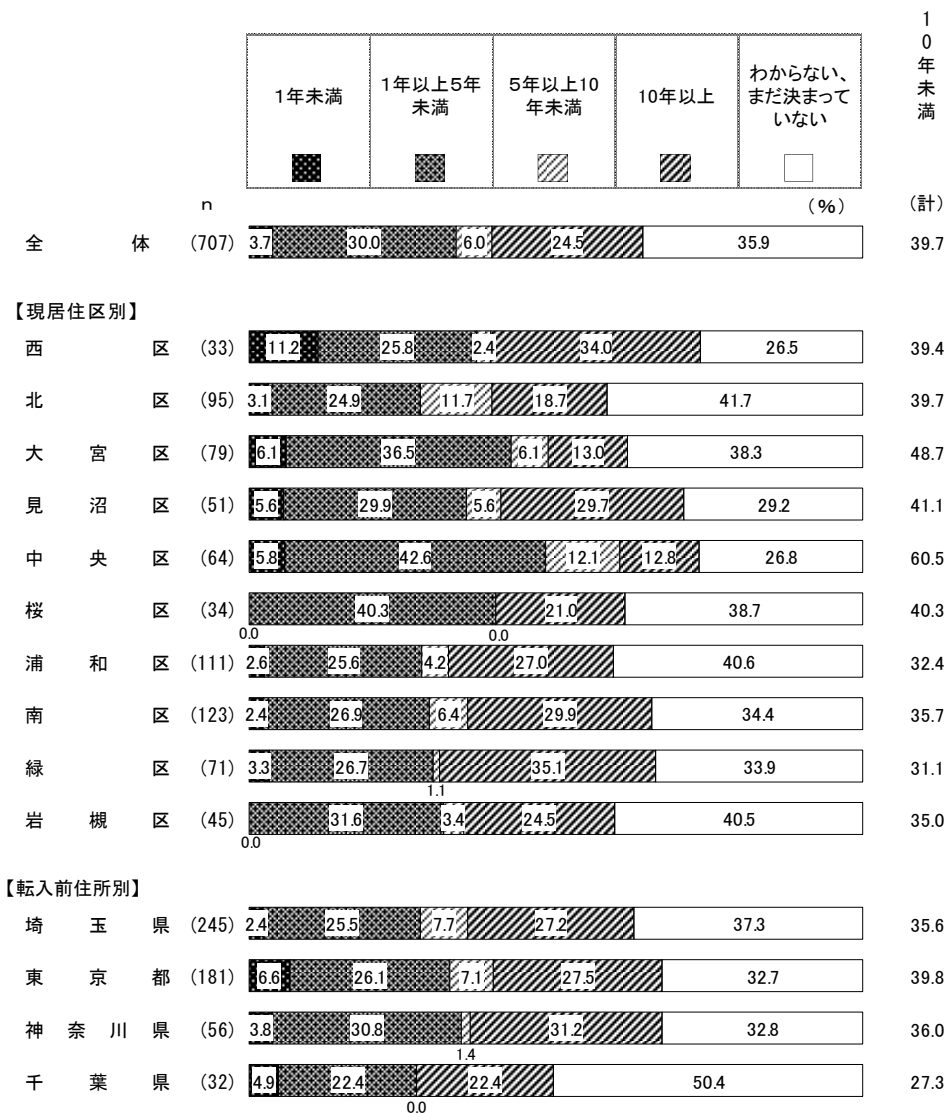
転入者における、さいたま市の居住予定年数は、「わからない、まだ決まっていない」が35.9%と最も高く、「1年以上5年未満」が30.0%、「10年以上」が24.5%と続く。

約3分の1が未定である中、約4割の転入者は居住予定を10年未満と回答している。

現居住区別で見ると、『緑区』や『西区』で10年以上の居住予定を示す人が多い（各35.1%、34.0%）。一方で、『大宮区』では13.0%、『中央区』では12.8%と1割強に留まる。

転入前住所別で見ると、『千葉県』からの転入者において、半数以上がどの程度継続して住むか未定であることが分かる。

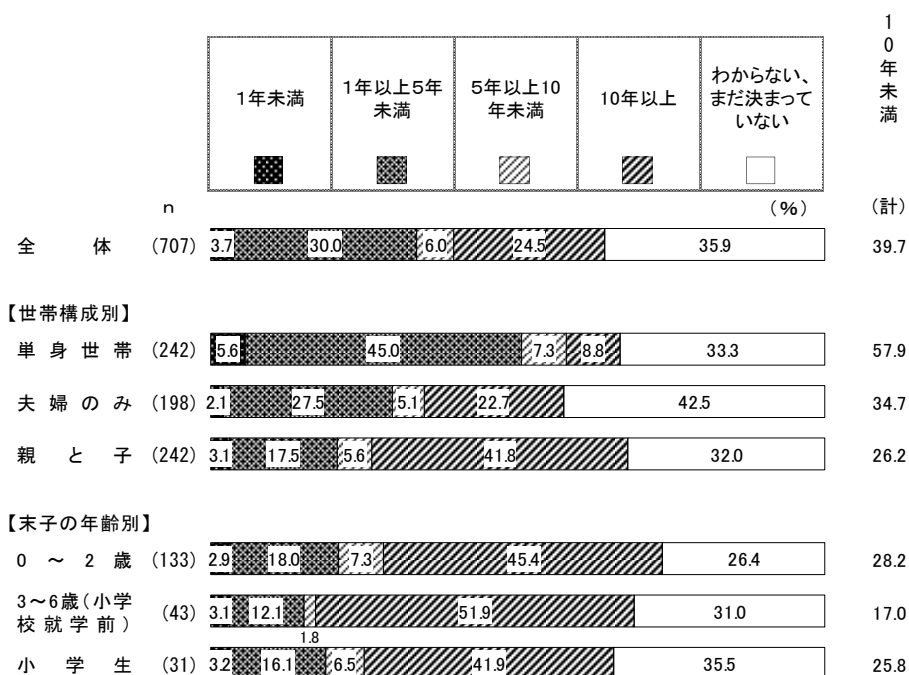
図表 - 2-39 さいたま市の継続居住年数意向（現居住区／転入前住所別）



世帯構成別で見ると、『単身世帯』において、「1年以上5年未満」が45.0%を占めるのに対し、『親と子』では「10年以上」が41.8%を占める。ライフステージによって、今後の居住年数の見通しが異なることがうかがえる。

末子の年齢別で見ると、『3～6歳』の世帯では、居住予定年数を10年未満とする層が17.0%と比較的少ない。小学校就学前を一つの区切りとして、引越しをする傾向がうかがえる。

図表 - 2-40 さいたま市の継続居住年数意向（世帯構成／末子の年齢別）



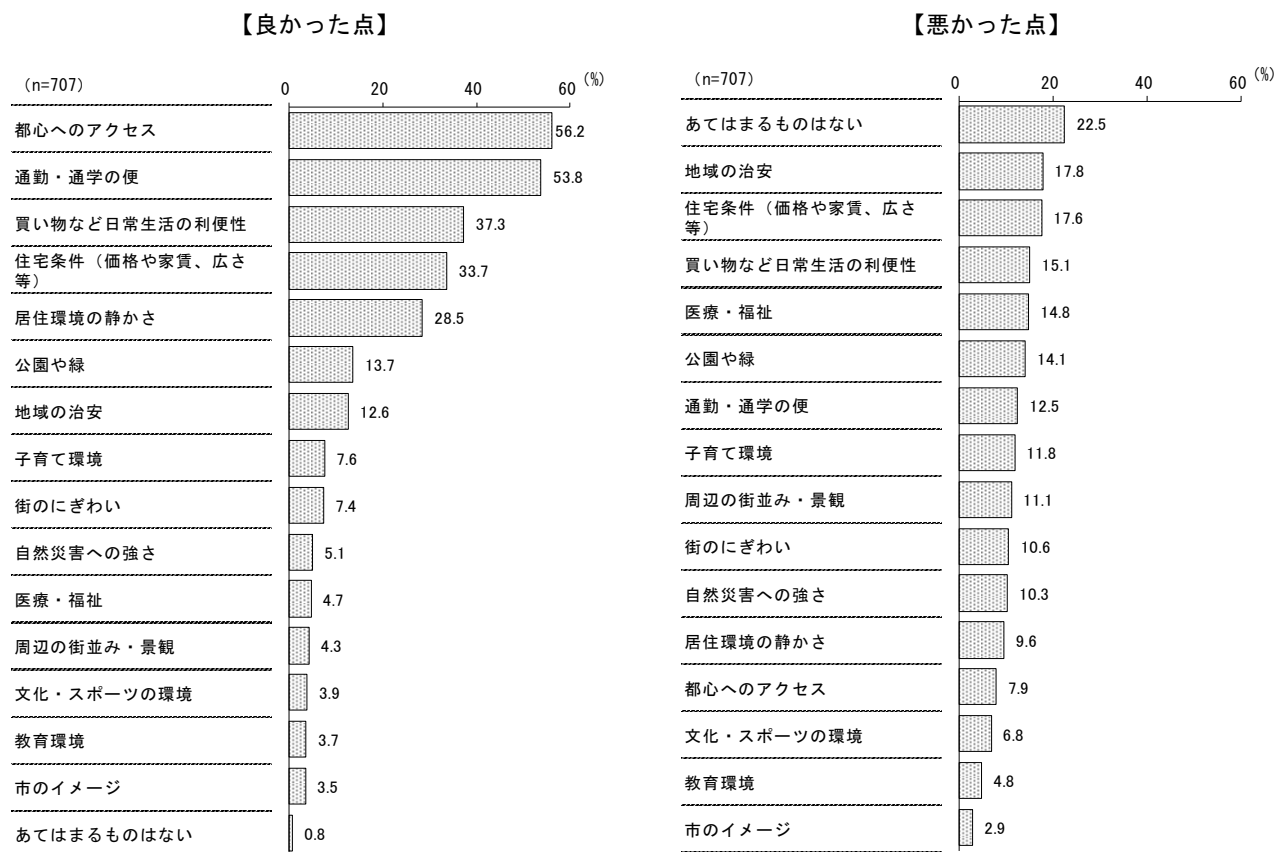
19. 実際に住んでみて良かった点／悪かった点

問4. (2) 実際にさいたま市に住んでみて、良かった点と悪かった点を教えてください。(それぞれ3つまで)

さいたま市に住んで良かった点として、「都心へのアクセス」が56.2%、「通勤・通学の便」が53.8%と、半数以上の人が交通の利便性を評価している。次いで、「買い物など日常生活の利便性」(37.3%)、「住宅条件(価格や家賃、広さ等)」(33.7%)、「居住環境の静かさ」(28.5%)と、住む土地としての魅力も感じられていることがうかがえる。

一方、さいたま市に住んで悪かった点として、「あてはまるものはない」が22.5%と最も多かった。それ以外では、「地域の治安」が17.8%、「住宅条件(価格や家賃、広さ等)」が17.6%、「買い物など日常生活の利便性」が15.1%となった。

図表 - 2-4 1 さいたま市に住んで良かった点／悪かった点(全体)



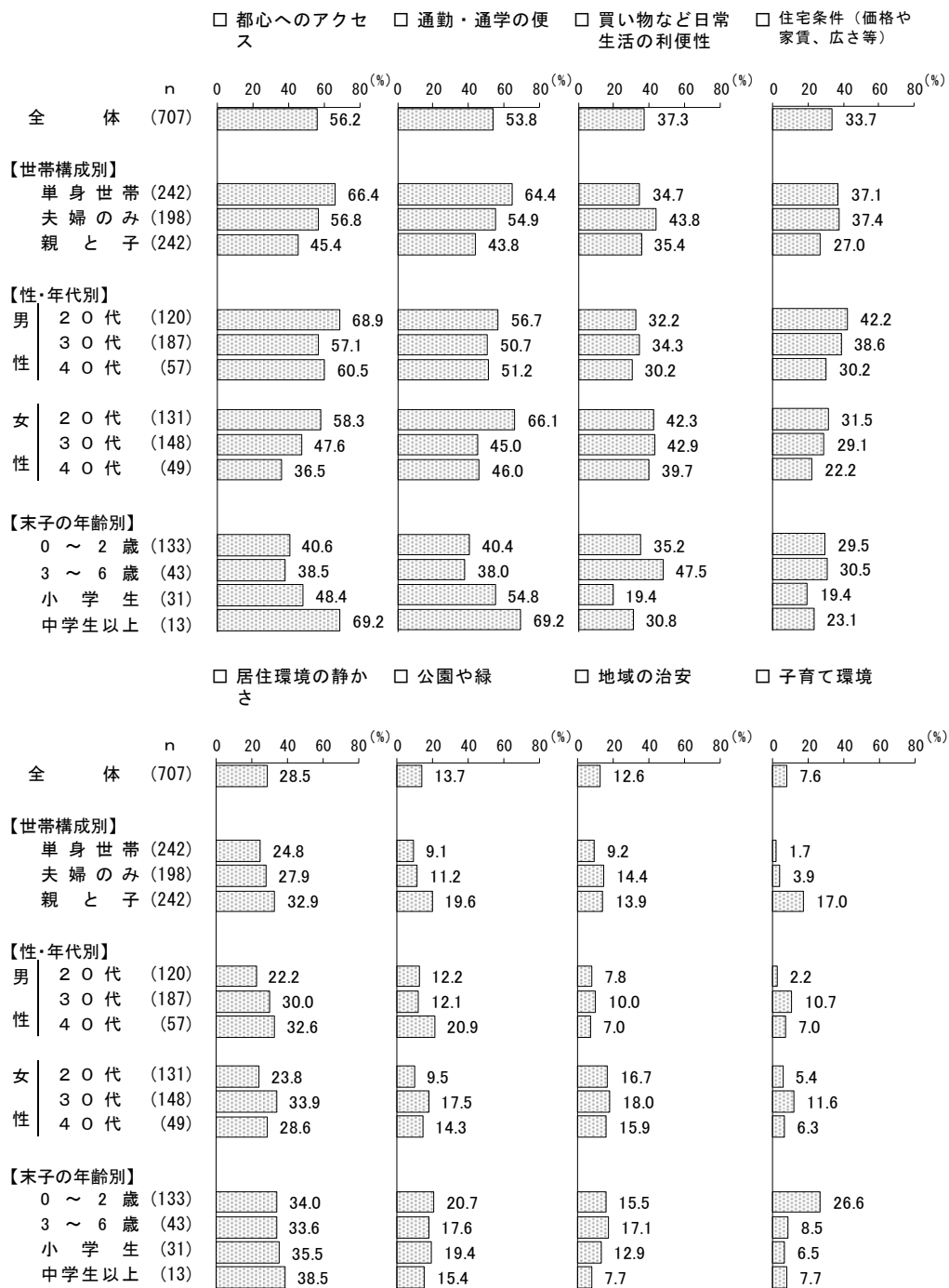
(1) さいたま市に住んで良かった点

世帯構成別で見ると、『親と子』においては、単身世帯や夫婦のみの世帯と比較して「居住環境の静かさ」や「公園や緑」「子育て環境」など、さいたま市に対して住まいとしての良さを感じていることがうかがえる。

性・年代別で見ると「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」の割合が若い世代ほど高くなっており、若年層向け住居の条件が、良い印象を抱かれていることが分かる。

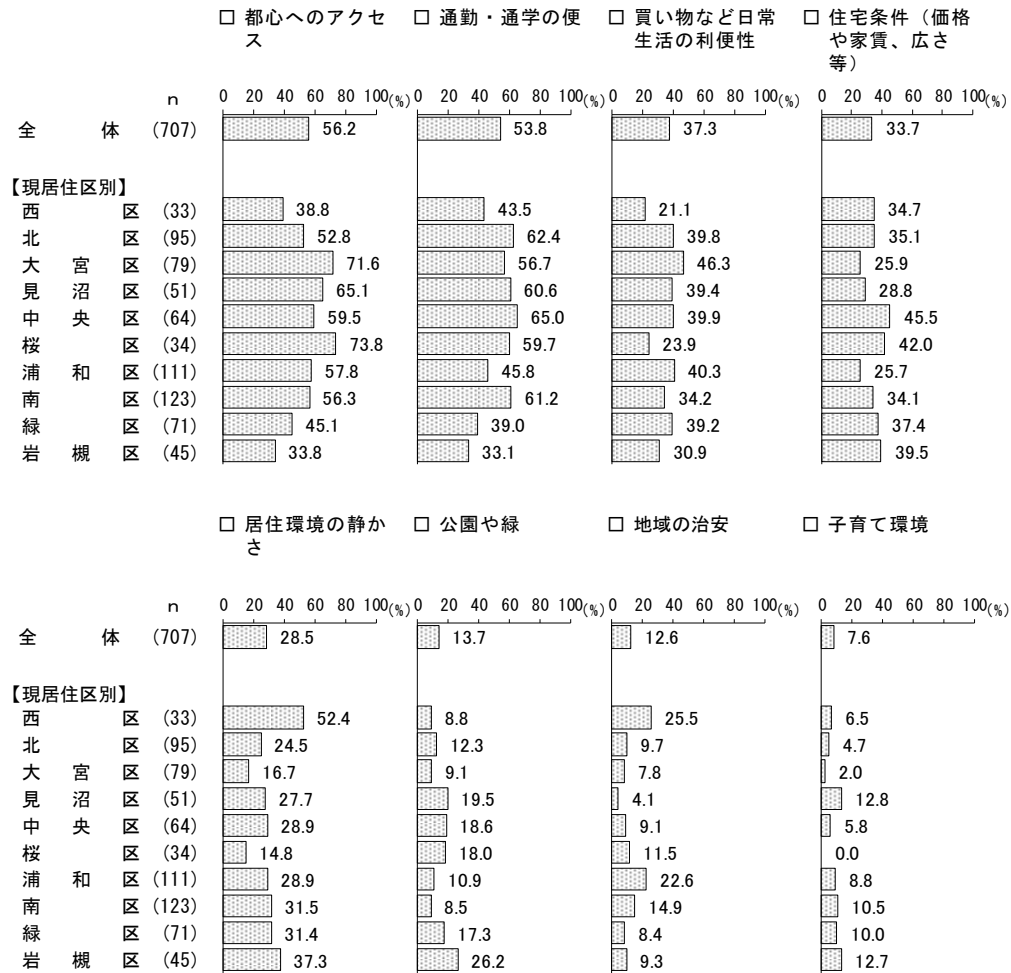
末子の年齢別で見ると、『小学生』の子どもを持つ世帯の半数以上が、「通勤・通学の便」を良かった点として評価している。また、中高生以上の子どもを持つ世帯ではさらに7割弱が「通勤・通学の便」を良かった点としている。

図表 - 2-42 さいたま市に住んで良かった点（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目



現居住区別で見ると、『西区』において、過半数の人が「居住環境の静かさ」を良かった点として挙げており、特に居住環境が評価されていることがうかがえる。また、他の区と比較して、『西区』や『浦和区』で、それぞれ2割以上の人が、地域の治安を良かった点として挙げている。

図表 - 2-43 さいたま市に住んで良かった点（現居住区別）—上位8項目



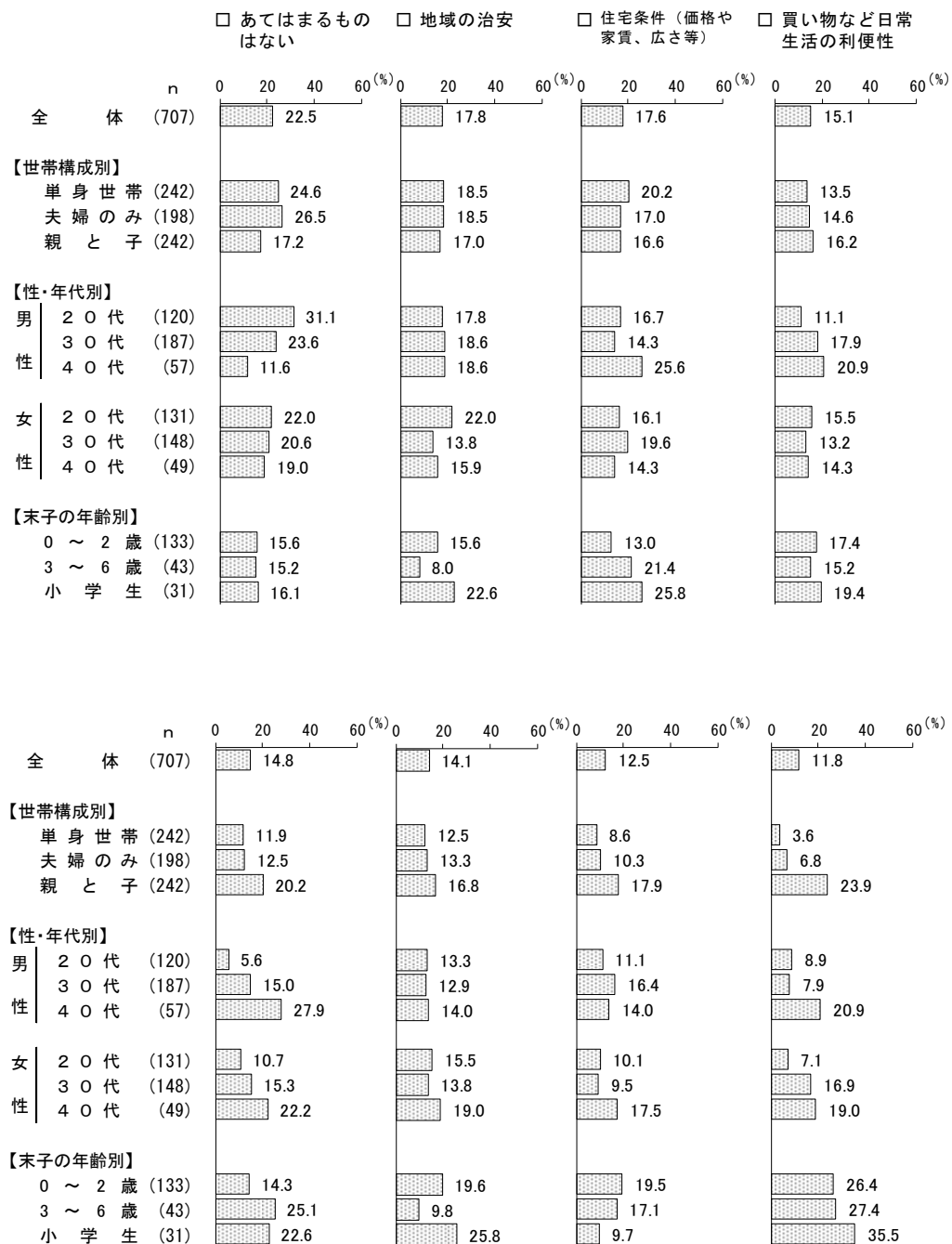
(2) さいたま市に住んで悪かった点

世帯構成別で見ると、『親と子』において、「子育て環境」「医療・福祉」が悪かったとする人が2割を超える。

性・年代別で見ると、男女ともに年齢が上がるにつれて「医療・福祉」の割合が上がる。

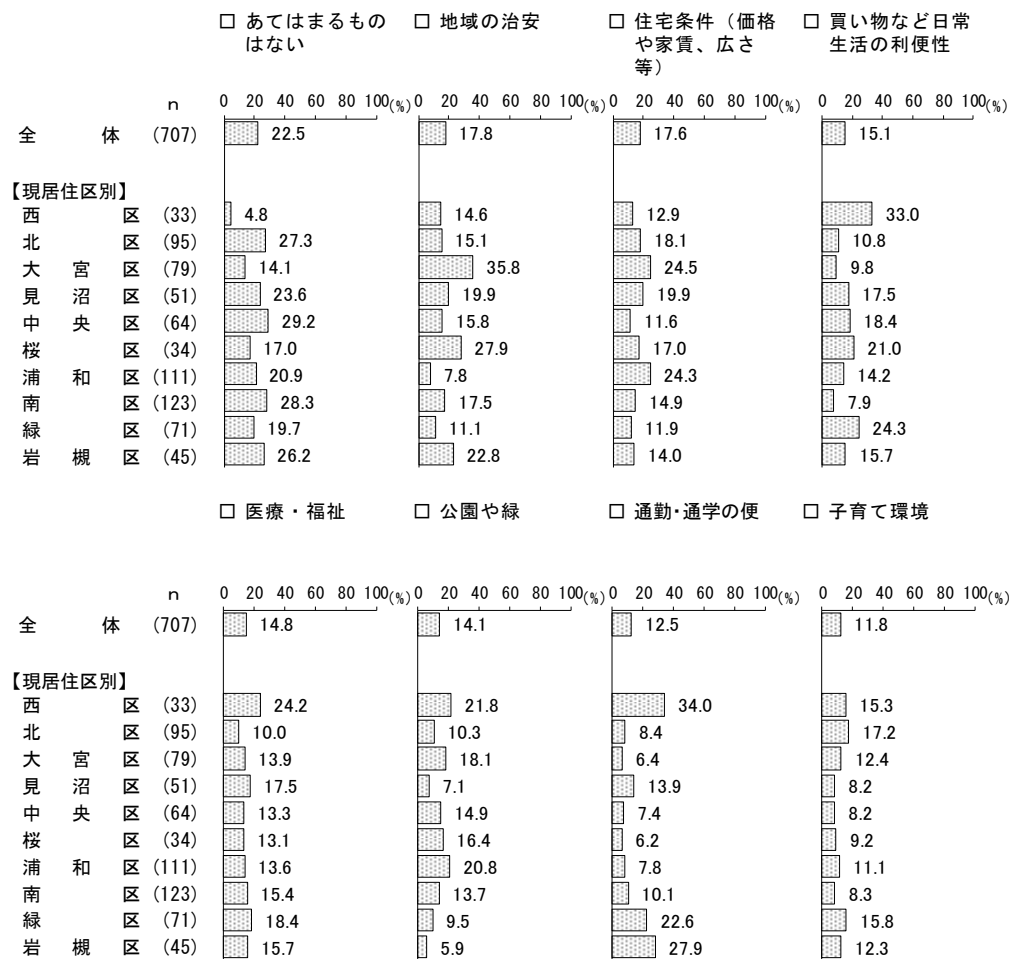
末子の年齢別で見ると、「地域の治安」「公園や緑」において、『3～6歳』の子を持つ世帯は1割を下回るのに対し、『小学生』の子を持つ世帯では2割以上が「悪かった点」に挙げている。

図表 - 2-44 さいたま市に住んで悪かった点（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目



現居住区別で見ると、『大宮区』において「地域の治安」が、『西区』において「通勤・通学の便」「買い物など日常生活の利便性」がそれぞれ3割を超える。

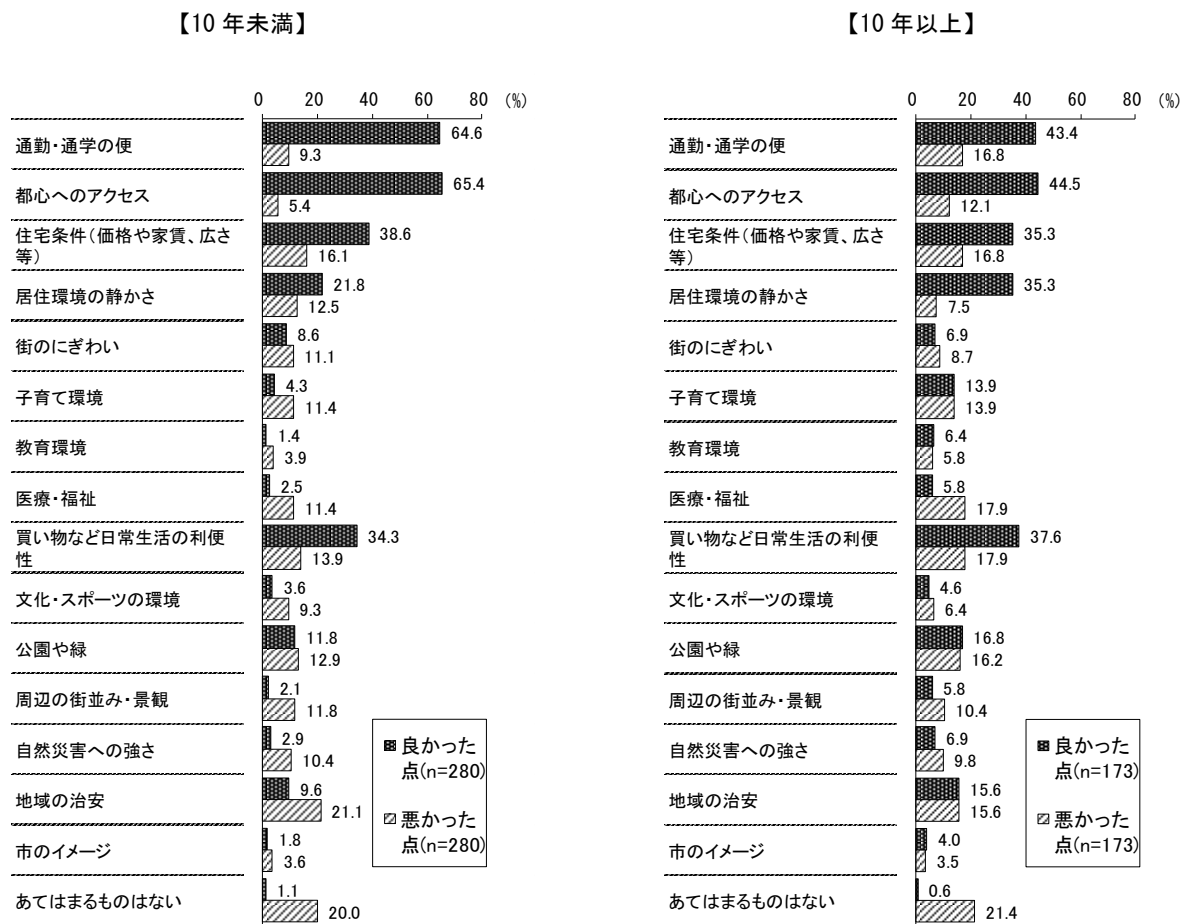
図表 - 2-45 さいたま市に住んで悪かった点（現居住区別）—上位8項目



(3) 良かった点／悪かった点 居住予定年数別 結果

さいたま市の居住予定年数を10年未満、10年以上に分け、それぞれさいたま市に住んで良かった点、悪かった点を比較すると、さいたま市への居住予定年数が『10年未満』の転入者のうち、良かった点に対し悪かった点の回答割合が高い項目は、「あてはまるものはない」を除き10項目存在し、「地域の治安」については10ポイント以上の差が見られた。さいたま市への居住予定年数が『10年以上』の転入者のうち、良かった点に対し悪かった点の回答割合が高い項目は、「あてはまるものはない」を除き5項目であり、「医療・福祉」については10ポイント以上の差が見られた。居住予定年数が『10年以上』の転入者については、悪かった点の理由として「道路渋滞」「通勤ラッシュ」「外国人」が多く挙げられた。また、「小児科の少なさ」「予約しないと受診でない病院が多い」「病院の待ち時間が長い」などの不満が多く見られた。

図表 - 2-46 さいたま市に住んで良かった点／悪かった点（居住予定年数別）



20. 実際に住んでみて具体的に良かった点

問4. (3)(2) で選んだ良かった点について具体的に教えてください。(自由記述欄)

具体的に良かった点について、回答のあった430件（「特になし」等を除く）の回答を（2）の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 2-47 具体的に良かった点

分類内容	自由回答（一部抜粋）	件数
都心へのアクセス	・都内の主要駅への 乗り換えが少ない (40代男性、南区) ・電車で30分程度なのは良いと思う(30代男性、北区)	186
買い物など日常生活の利便性	・マンションのすぐ近くに スーパー が多い(30代女性、北区) ・駅近だと スーパー が必ずあり、ショッピングに行きやすい(20代男性、中央区)	156
通勤・通学の便	・人口密度が高く時間によっては満員電車のことが多いが、電車が多く、通勤はしやすい(20代女性、見沼区) ・大宮駅まで行けば基本的にどこにでも 通いやすい (20代女性、北区)	114
住宅条件(価格や家賃、広さ等)	・東京都心界限と比較した際の賃料の 安さと専有面積 (30代男性、中央区) ・希望の 金額で広さ を確保できたため(30代女性、緑区)	94
居住環境の静かさ	・繁華街がなくて静かで良い(30代女性、北区) ・住宅地の為、基本静かに暮らせる(30代女性、浦和区)	93
公園や緑	・子供を遊ばせられる 大きな公園 が多い(30代女性、南区) ・ 大宮公園 が広くて気に入っている 見沼にも緑地が多い(30代女性、大宮区)	59
地域の治安	・不審者が出るとすぐにメールが来る、住んで1年経つがまだ怖い思いをしたことがない(30代女性、浦和区) ・夜になるととても静かで誰も居ないのかと思うくらい。こんなに警察を見る地域は初めてで 安心出来る (40代女性、西区)	48
子育て環境	・都内に比べて ファミリー層や一軒家 が多くて、街がきれいで静かで落ち着いている。道も広くてきれい(30代女性、南区) ・ 出産・育児のサポート が手厚かった(30代男性、南区)	35
医療・福祉	・長い間 子供の医療費 が無料なのが特に助かる(30代女性、緑区) ・個人病院も含め 病院が多い ので助かる(20代女性、見沼区)	27
自然災害への強さ	・海がなくて良い(20代女性、北区) ・地震も大きい揺れなどもない為、 地盤に関して安心 できる(30代女性、浦和区) ・過去に洪水や津波、土砂災害等の履歴もなく、ハザードマップ上も 安全なエリア である点(20代男性、浦和区)	20
教育環境	・南区は浦和区に隣接しているので教育水準が高い気がする。 英語教育 にも力を入れているところが魅力的(40代女性、南区) ・ 図書館 などが多く教育環境に適していると感じる(20代女性、浦和区)	19
文化・スポーツの環境	・ 浦和レッズ のホームゲームの日は街が赤くなる光景が圧巻でした(20代男性、緑区) ・スポーツ施設も多く、これからこどもの習い事やレジャーを探していきたい(30代女性、南区)	14
街のにぎわい	・飲み屋街があり賑わっている(40代男性、大宮区) ・平日であっても人が多いので街の賑わいを感じる(20代男性、北区)	13
周辺の街並み・景観	・キレイな建物ばかりで景色が良い(30代女性、岩槻区) ・都内に比べてファミリー層や一軒家が多くて、街がきれいで静かで落ち着いている。道も広くてきれい(30代女性、南区)	11
市のイメージ	・行政の広報誌などから、それぞれの区が、 さいたま市の魅力 を引き出そうとしているのが伝わる(30代女性、北区) ・さいたま市の散策や活動を追って見て、さいたま市に住み続けたいと思うようになった(20代女性、南区)	8

2.1. 実際に住んでみて具体的に悪かった点

問4. (4)(2) で選んだ悪かった点について具体的に教えてください。(自由記述欄)

具体的に悪かった理由について、回答のあった331件（「特になし」等を除く）の回答を（2）の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 2-48 具体的に悪かった理由

分類内容	自由回答(一部抜粋)	件数
医療・福祉	・小児科や耳鼻科が 人口の割に少ない と感じる。予約が取れず、診察してもらえなかったことが多い。そのため戸田市や川口市に遠出して小児科に行くことがあった。もっと増やして欲しい(30代女性、緑区) ・東京都には女性への医療(不妊治療等)の制度が豊富だったのに対しあまりないと感じる(30代女性、浦和区) ・障がい者福祉の少なさ(東京都との比較)(30代男性、大宮区)	83
住宅条件(価格や家賃、広さ等)	・以前住んでいた川越市よりは 家賃相場が高い ため、賃貸物件を探すのに苦労した(30代女性、北区) ・住みやすさの反面、価格は高いと感じる(20代女性、浦和区)	79
地域の治安	・ 外国人 が多くゴミ出しのルール違反や駐輪場の荒らしや住宅街でのボール遊びで迷惑している(20代女性、南区) ・最寄り駅まで歩いていくにはやや遠く、夜などは道が暗くてこわい(40代女性、見沼区)	73
公園や緑	・人が多すぎる。公園も緑も手入れされておらずもったいない。全体的に汚い、ゴミが多い(40代女性、大宮区) ・ 街中に自然が少なく コンクリートだらけで、夏の暑さが際立っている(30代男性、北区)	70
買い物など日常生活の利便性	・駅周辺はスーパーなど充実しているが10分ほど歩いたところだと周辺にスーパーなどが ない と不便(20代女性、桜区) ・南浦和駅には必要最低限のお店(スーパーやドラッグストアなど)は揃っているが、生活を豊かにするような食品惣菜店やゆったりと席に座れるカフェなどが残念(20代女性、南区)	60
子育て環境	・ 子育て支援センターや児童館 などが北区近辺に関しては不便、不十分に感じた。駐車スペースがなかったり、古かったりと子どもを遊ばせることが難しい。特に夏は屋内施設が重宝するのに、選択肢が少なくて困る。いつも上尾市の児童館を利用している(30代女性、北区) ・ 保育園 の空きが少ないもしくはなく、希望の園に入れなかったりすることがある。大宮駅周辺の商業施設は自動ドアが少なく、ベビーカーで買い物に入るのがとても困難(30代男性、大宮区)	57
周辺の街並み・景観	・古い建物が目に付く(40代男性、大宮区) ・公共の道路に植えてある草木が、夏場は伸び放題になっていて、なかなか 整備されていない のが勿体ないと感じる(30代女性、緑区)	56
通勤・通学の便	・JRまでバスを利用するしかないが、 バスが大幅に遅延 することが多い(20代男性、緑区) ・夫が都内へ通勤しているが、北浦和駅までバスが必要、浦和駅で上野東京ラインに乗り換えが必要、 通勤ラッシュ が大変(30代女性、緑区)	51
居住環境の静かさ	・国道沿いのため、夜も音がうるさい(20代女性、浦和区) ・さいたま新都心駅前にムクドリが多く鳴き声が騒がしい(30代女性、大宮区)	38
自然災害への強さ	・ 豪雨 に弱い(20代女性、西区) ・ 大雨 で道路が水没する(20代男性、桜区)	34
文化・スポーツの環境	・公園が狭い。 ランニングコース がない(20代女性、緑区) ・ 図書館 が少ない(20代女性、北区)	24
都心へのアクセス	・交通需要に対して 幹線道路が不足 しているので渋滞が慢性化している。高速道路の出入り口が遠いので都心含む遠方には出かけにくい(30代男性、北区) ・空港へのアクセスが不便。バスを運行してほしい(30代男性、岩槻区)	22
教育環境	・教育の相談機関が 相談しにくい (30代女性、西区) ・英語教育には力を入れているがその他が平均以下なことが多く心配(30代女性、西区) ・公設学童が少ない(40代女性、緑区)	18
街のにぎわい	・住む以外は何も特徴がない。季節のイベントごとをやっても退屈な街並み(40代男性、南区) ・非常に静かなため、 地域活性化につながる行事 など積極的に入れるべきではと思う(30代男性、浦和区)	14
市のイメージ	・以前暮らしていた神戸や福岡、札幌など同じくらいの人口の都市と比較して街のイメージが薄い。 さいたま市といえば〇〇 のようなものが思いつかない(20代男性、大宮区)	5

3章 転出者調査 調査結果

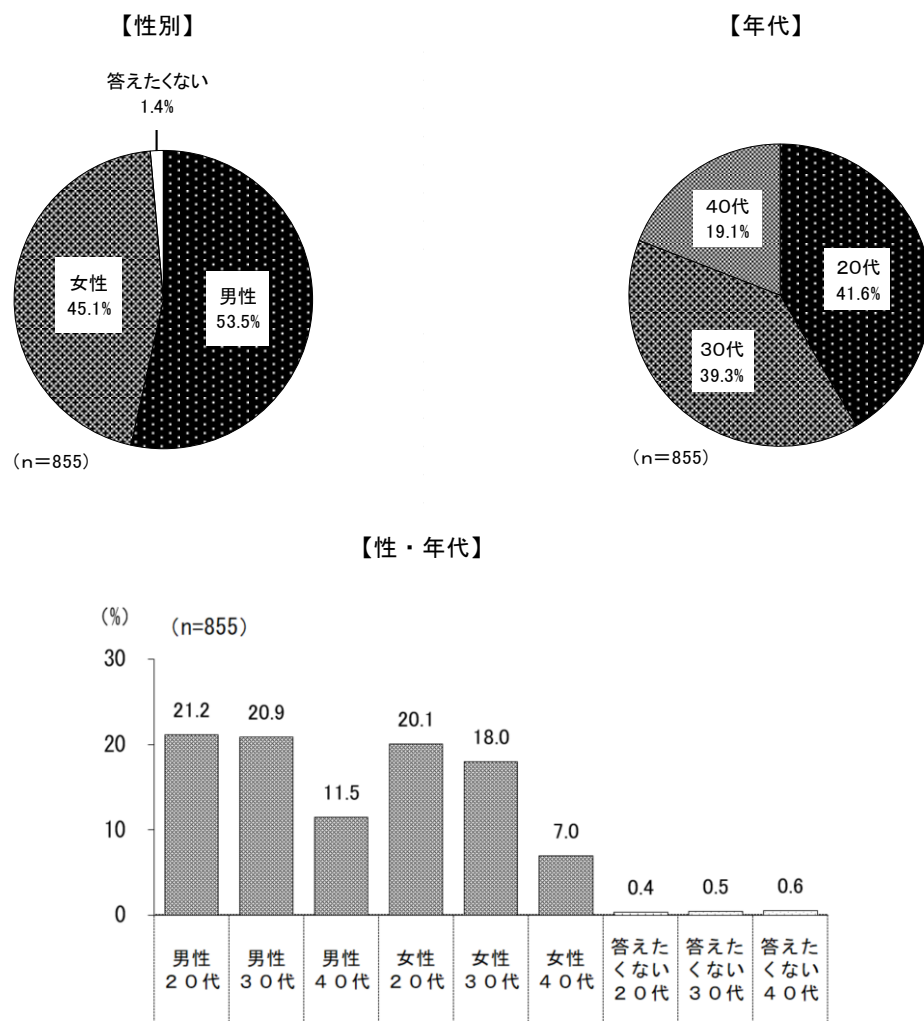
1. 性別／年代

問1. (1) あなたの性別と年代をお答えください。

転出者の性別は、「男性」が53.5%と最も高く、次いで「女性」(45.1%)、「答えたくない」(1.4%)が続く。

転出者の年代は、「20代」が41.6%と最も高く、次いで「30代」(39.3%)、「40代」(19.1%)が続く。なお、抽出時点での年齢に基づいているため、回答時点で50歳以上となった回答者は「40代」として集計を実施している。

図表 - 3-1 性別、年代（全体）

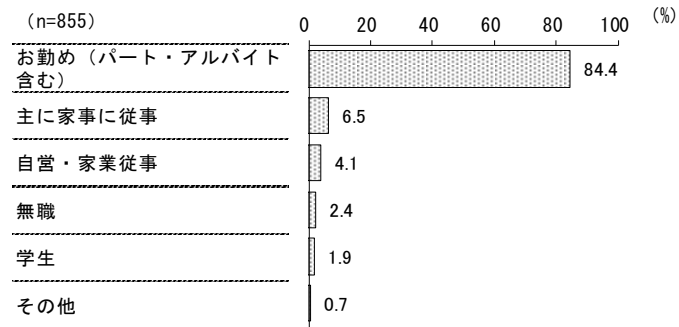


2. 職業

問1. (2) 現在のあなたの職業は次のうちどれに当てはまりますか。

転出者の職業は、「お勤め（パート・アルバイト含む）」が84.4%と最も高く、次いで「主に家事に従事」（6.5%）、「自営・家業従事」（4.1%）が続く。その他回答では、「会社役員」等が挙げられた。

図表 - 3-2 現職業（全体）



3. 世帯構成

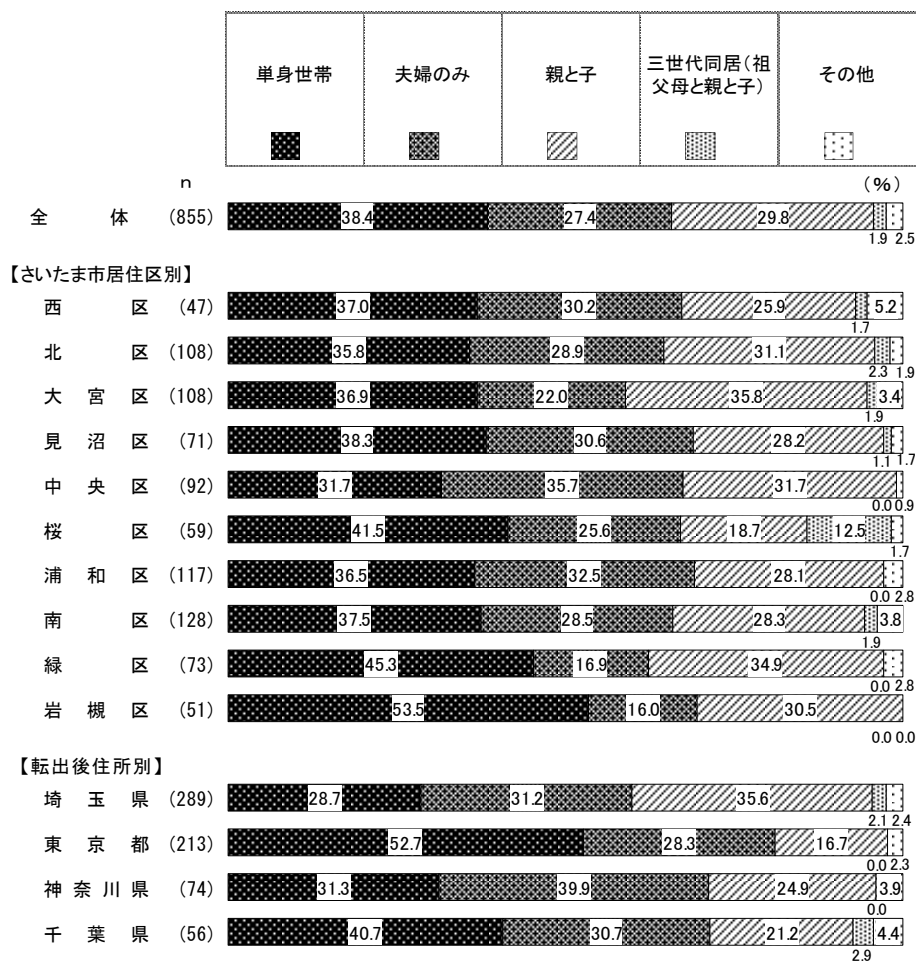
問1. (3) 現在の世帯構成は次のうちどれに当てはまりますか。

転出者の世帯構成は、「単身世帯」が38.4%を占め、「親と子」(29.8%)、「夫婦のみ」(27.4%)と続く。その他回答では、「同棲」(11件)、「同居」(6件)、「四世代同居」等が挙げられた。

転出前のさいたま市居住区別で見ると、『岩槻区』において「単身世帯」が過半数を占める。『桜区』では、「三世代同居(祖父母と親と子)」の割合が1割を超える。

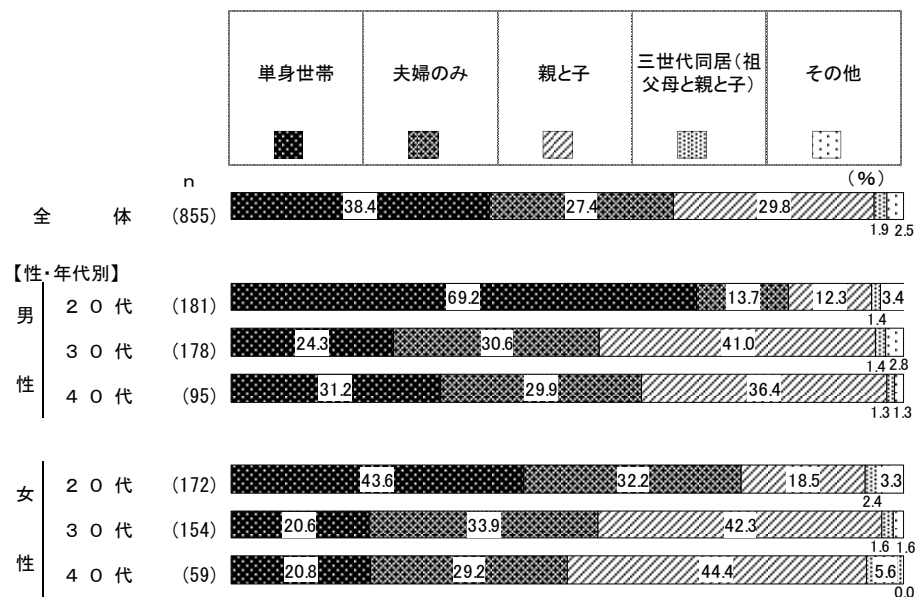
転出後住所別に見ると、『東京都』への転出者において、「単身世帯」が半数を超える。

図表 - 3-3 世帯構成(さいたま市居住区／転出後住所別)



性・年代別で見ると、『20代男性』において「単身世帯」が約7割を占め、『20代女性』においては4割強を占める。また、『40代女性』『30代女性』『30代男性』における「親と子」の割合が4割を超える。

図表 - 3-4 世帯構成（性・年代別）



4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢

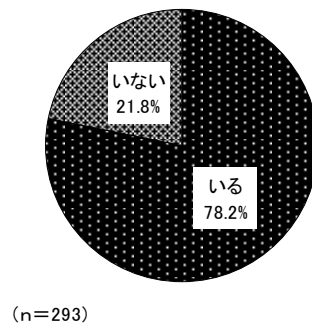
- 問1. (4-1) 同居するお子さん(0歳から学生まで)はいらっしゃいますか。
 (4-2) お子さん(0歳から学生まで)の人数は次のうちどれに当てはまりますか。
 (4-3) 年齢が一番下のお子さんは、次のうちどれに当てはまりますか。

(1) 同居する子どもの有無

転出者と同居する子どもは、「いる」が78.2%、「いない」が21.8%を占める。

なお、本設問は問1.(3) 世帯構成(p.50)において「単身世帯」及び「夫婦のみ」と回答した方以外を対象としている。

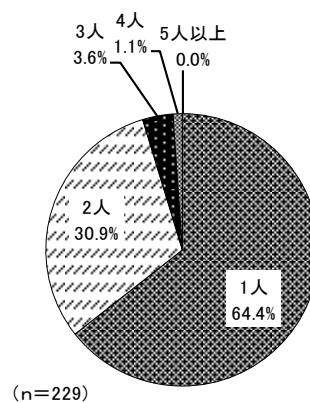
図表 - 3-5 同居する子どもの有無(全体)



(2) 同居する子どもの人数

転出者と同居する子どもは、「1人」が64.4%、次いで「2人」が30.9%を占める。

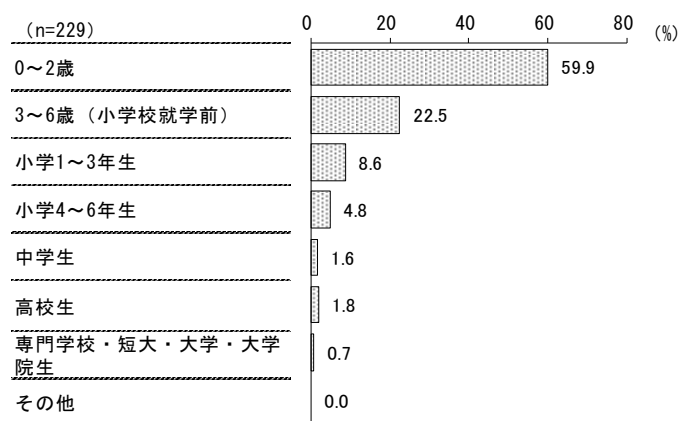
図表 - 3-6 同居する子どもの人数(子どものいる世帯)



(3) 末子の年齢

転出者と同居する子どものうち、末子の年齢は、「0～2歳」が59.9%、「3～6歳」が22.5%を占める。子どもを持つ世帯は、さいたま市への転入（p.10）と同様に、子どもの人数が少なく、小学校就学前の子どもが小さい時期に、転出していくことが分かる。

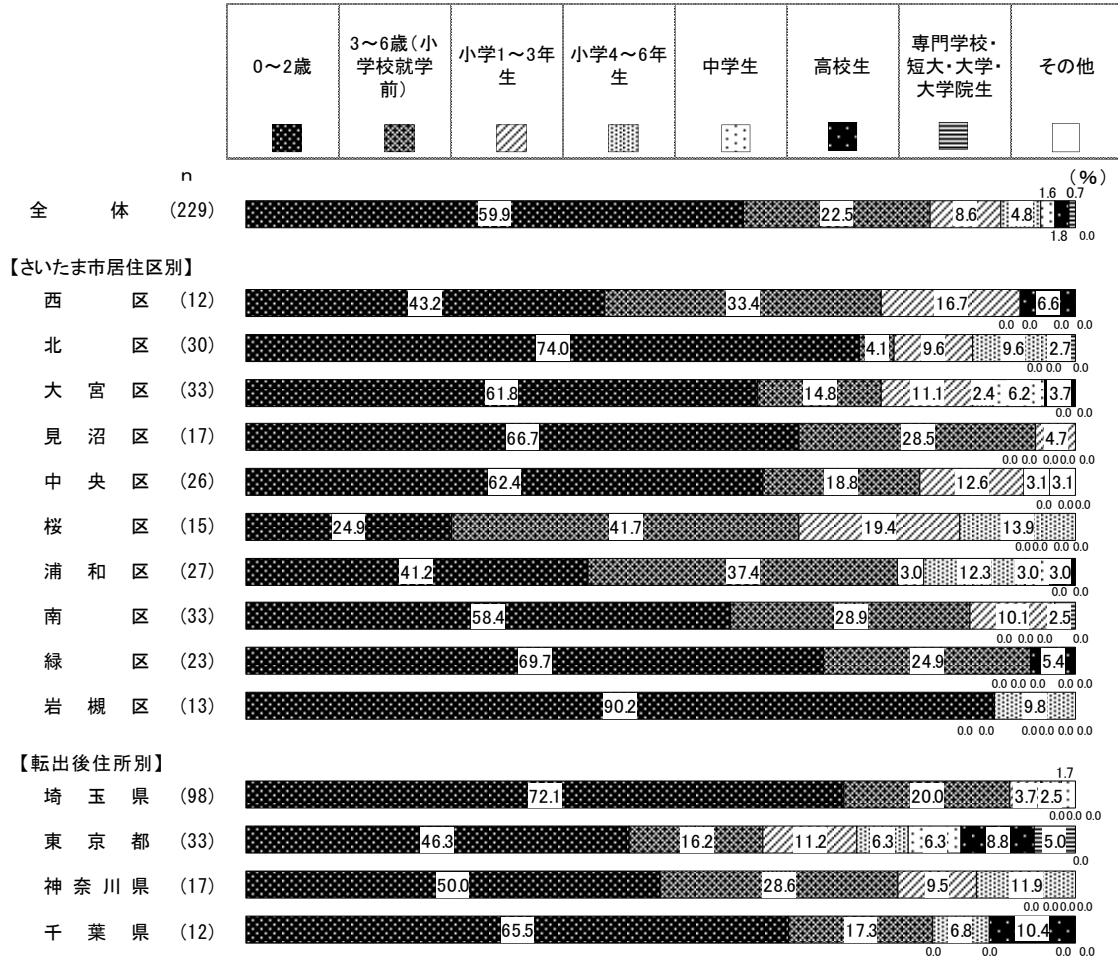
図表 - 3-7 末子の年齢（子どものいる世帯）



転出前のさいたま市居住区別で見ると、『岩槻区』で9割、『北区』で「0～2歳」の割合が7割以上を占める。また、「3～6歳（小学校就学前）」の割合は、『桜区』で4割強、『浦和区』で4割弱、『南区』で3割弱を占める。

転出後住所別で見ると、子どもを持つ世帯における『埼玉県』への転出者のうち、「0～2歳」の子どもを持つ世帯は7割以上を占める。

図表 - 3-8 末子の年齢（さいたま市居住区／転出後住所別）



5. 世帯年収

問1. (5) 世帯年収は次のうちどれに当てはまりますか。

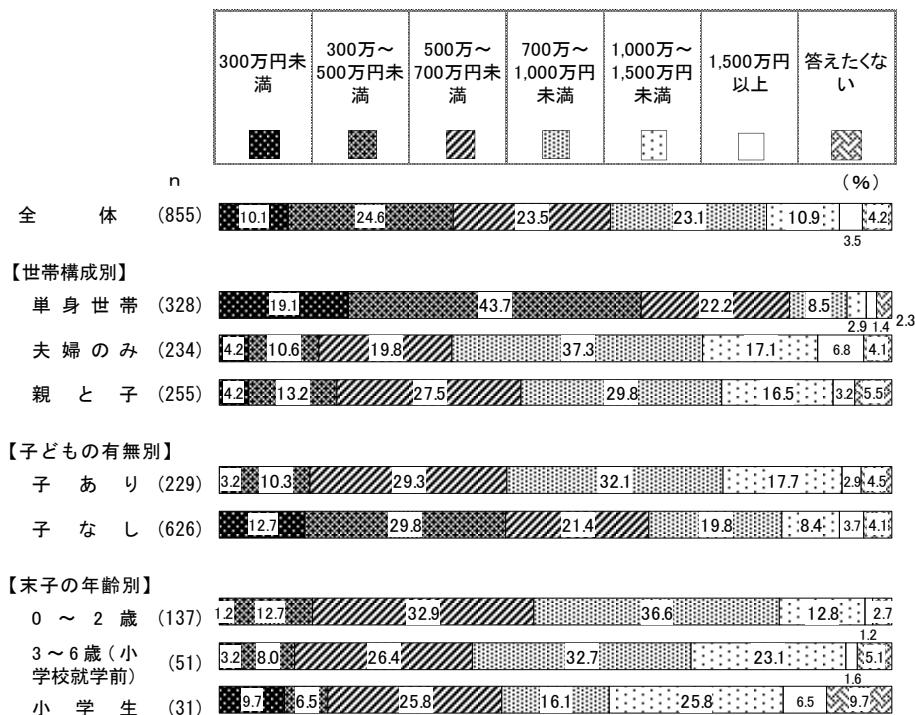
転出者の世帯年収は、「300万～500万円未満」の割合が24.6%と最も高く、「500万～700万円未満」(23.5%)、「700万～1,000万円未満」(23.1%)が続く。

世帯構成別で見ると、『単身世帯』では転入者(p.12)と同様「300万～500万円未満」が最も多く、『夫婦のみ』『親と子』では「700万～1,000万円未満」が最も多くなった。

子どもの有無別で見ると、子どもがいる世帯では半数以上が700万円以上であり、単身世帯を含む子どもがいない世帯では6割以上が700万円以下となる。

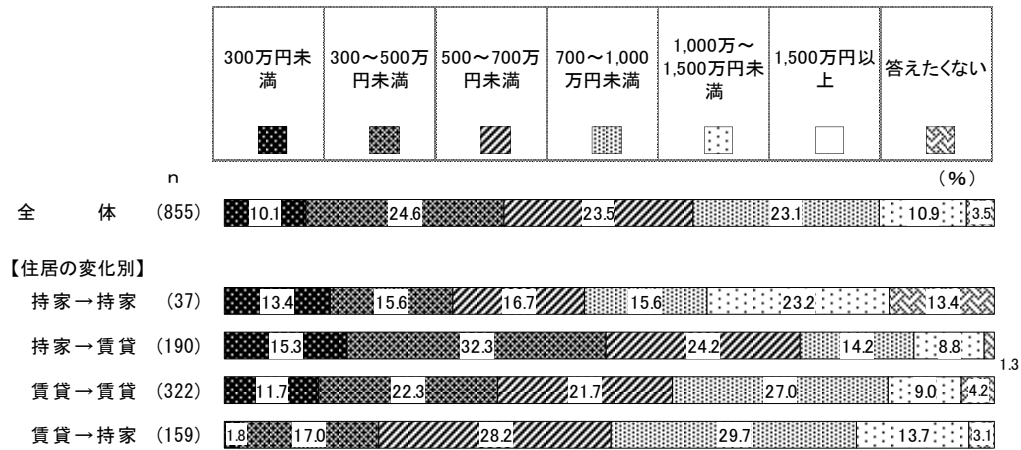
末子の年齢別で見ると、末子の年齢が上がるにつれて「700万～1,000万円未満」の転出者が減少し、反対に「1,000万～1,500万円未満」の割合が上がる。子どもの年齢によって、年齢による収入の増加など就業状況の変化が影響していることがうかがえる。

図表 - 3-9 世帯年収（世帯構成／子どもの有無／末子の年齢別）



住居の変化別で見ると、『持家→持家』と住居が変化した転出者において、「1,000万～1,500万円未満」が2割以上となり、高年収の世帯が多い結果となった。『賃貸→持家』と新たに住居を構えた転出者は、5割弱が700万円以上の世帯であり、前述の子どもを持つ世帯と同様の傾向を示すことから、子どもを持つ世帯が賃貸から持家へと移行する際に、さいたま市から転出していることが考えられる。

図表 - 3-10 世帯年収（住居の変化別）

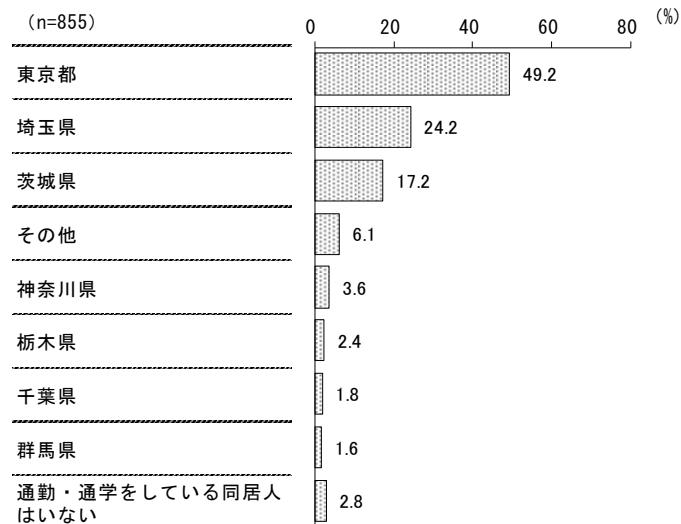


6. 通勤・通学場所

問1. (6) 通勤・通学をしている方（同居の方を含む）は、通勤・通学場所を教えてください。（複数選択可）

転出者の同居家族含めた通勤・通学場所は、「東京都」の割合が49.2%と最も高く、次いで「埼玉県」が24.2%を占める。その他回答では、「大阪府」（18件）、「愛知県」（16件）、「新潟県」（15件）、「北海道」（12件）、「宮城県」（9件）等のほか、「テレワーク」の回答も見られた。

図表 - 3-11 通勤・通学場所（全体）

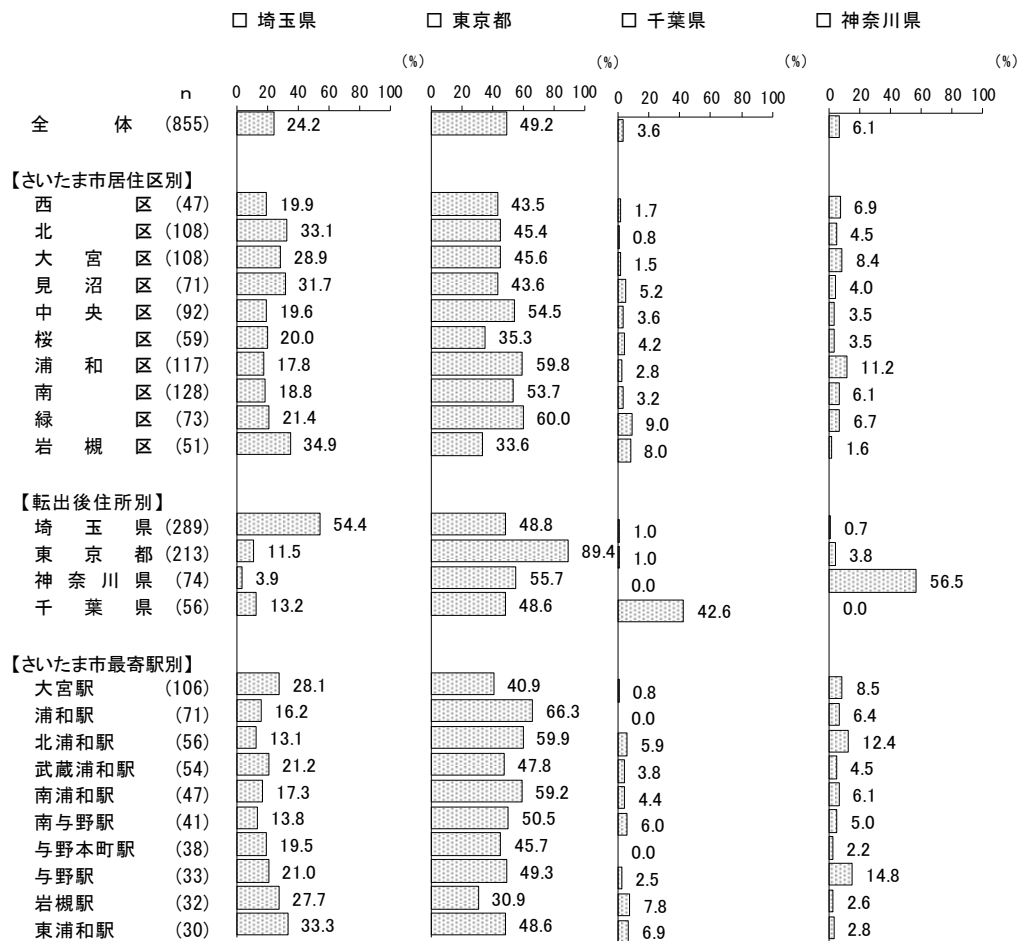


転出前のさいたま市居住区別で見ると、『緑区』において「東京都」への通勤・通学者が6割を占め、『浦和区』においても6割弱を占める。また、『岩槻区』『北区』『見沼区』において「埼玉県」への通勤・通学者が3割を超える。

転出後住所別で見ると、『東京都』への転出者は「東京都」への通勤・通学者が9割弱を占め、『神奈川県』『埼玉県』『千葉県』への転出者においても、5割前後が「東京都」への通勤・通学をしている。

転出前のさいたま市最寄駅別で見ると、『浦和駅』『北浦和駅』『南浦和駅』において、「東京都」への通勤・通学者が6割前後となり、一方『東浦和駅』では「埼玉県」内への通勤・通学者が3割を超える。また、『与野駅』『北浦和駅』から「神奈川県」への通勤・通学者が1割を超える。

図表 - 3-12 【一都三県抜粋】通勤・通学場所（さいたま市居住区／転出後住所／さいたま市最寄駅別）



7. 転出前の住居所有形態／転出後の住居所有形態

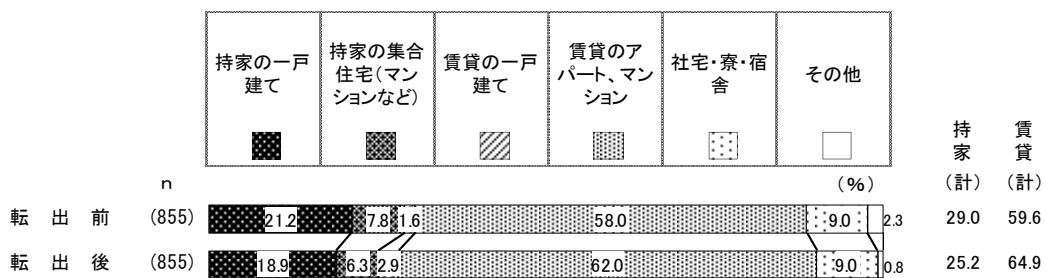
問2. (1) さいたま市から転出される前と後では、住居の所有形態はそれぞれ次のうちどれに当てはまりますか。

転出前の住居形態は、「賃貸のアパート、マンション」の割合が58.0%と最も高く、「持家の一戸建て」が21.2%と続く。その他回答では、「実家（親名義含む）」(15件)、「シェアハウス」等が見られた。

転出後の住居形態は、「賃貸のアパート、マンション」の割合が62.0%と最も高く、「持家の一戸建て」が18.9%と続く。その他回答では、「実家（親名義含む）」(6件)、「親戚の家」等が見られた。

転出前後では持家の割合が3.8ポイント減少した。これは、実家を出て独立した単身者などの影響と推察される。

図表 - 3-13 転出前後の住居所有形態（全体）



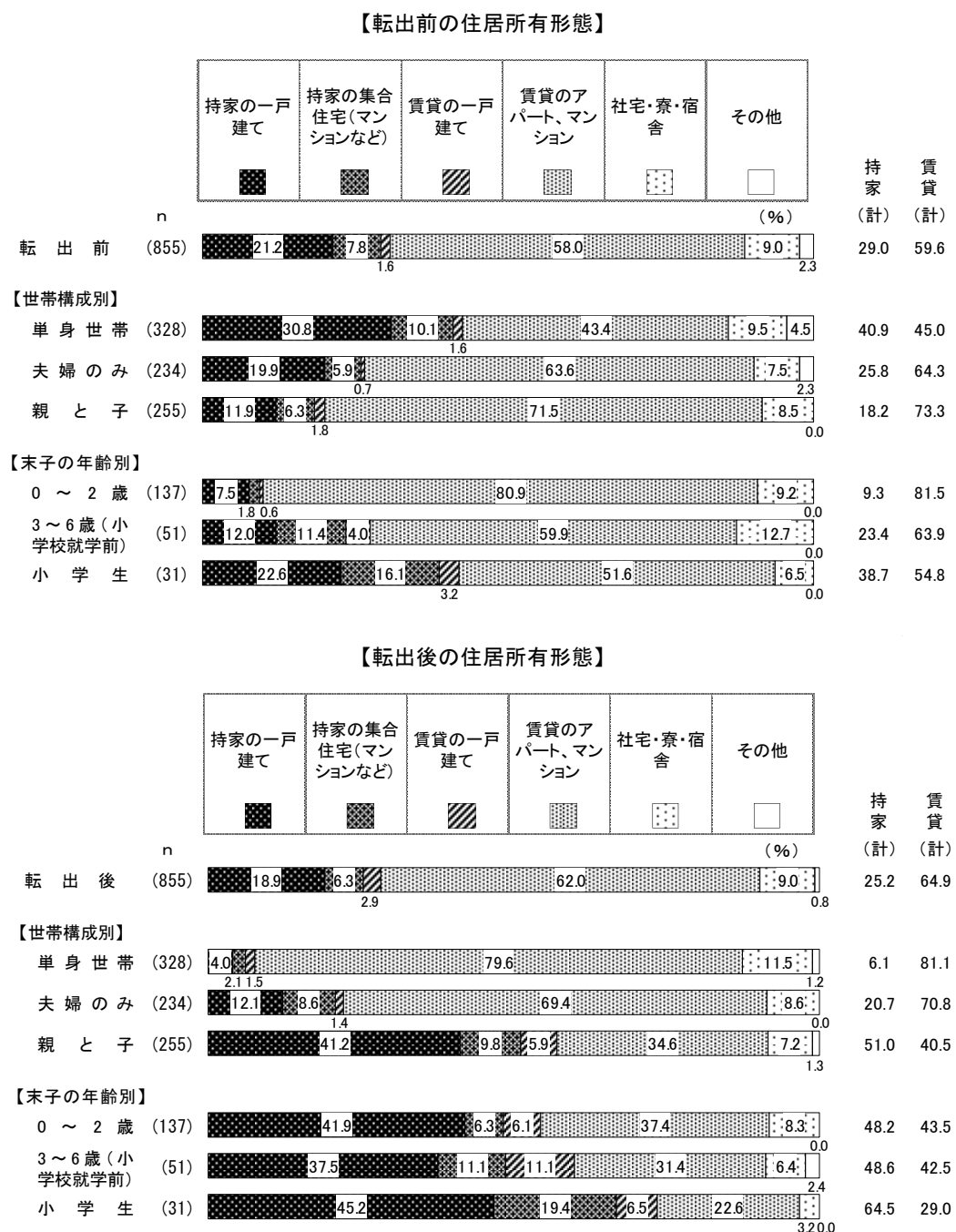
転出前の住居形態を世帯構成別で見ると、転入者（p.16）と同様に『単身世帯』＜『夫婦のみ』＜『親と子』の順で賃貸の割合が高くなり、同時に持家の割合が低くなる。

末子の年齢別で見ると、末子の年齢が上がるにつれて、持家の割合が高くなり、同時に賃貸の割合が低くなる。

転出後の住居形態を世帯構成別で見ると、『親と子』における持家の割合が51.0%を占め、転入前から32.8ポイント増加することから、子どもを持つ世帯では、転入者と同様に転出を機に賃貸から持家への住居所有状況が変化する人が多いことが分かる。

末子の年齢別で見ると、末子の年齢が上がるにつれて「持家の集合住宅（マンションなど）」の割合が増加している。（それぞれ6.3%、11.1%、19.4%）

図表 - 3-14 住居所有形態（世帯構成／末子の年齢別）



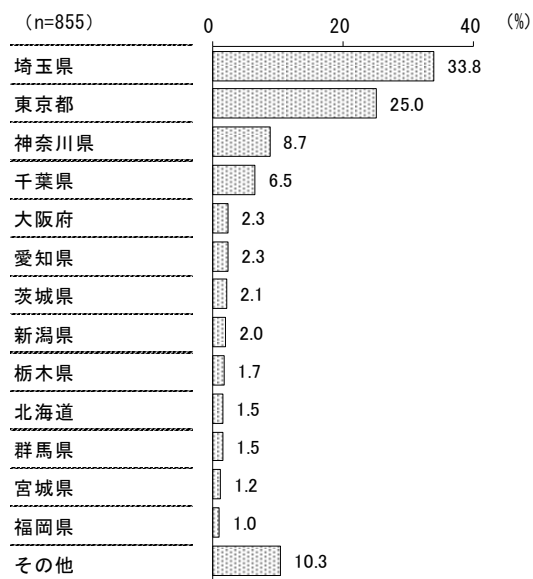
8. 転出先の居住地

問2. (2) さいたま市からの転出先はどちらになりますか。

(1) 転出先の居住地（都道府県）

転出後の居住地は、「埼玉県」の割合が33.8%と最も高く、「東京都」(25.0%)、「神奈川県」(8.7%)、「千葉県」(6.5%)と続き、一都三県への転出者が7割強を占める。

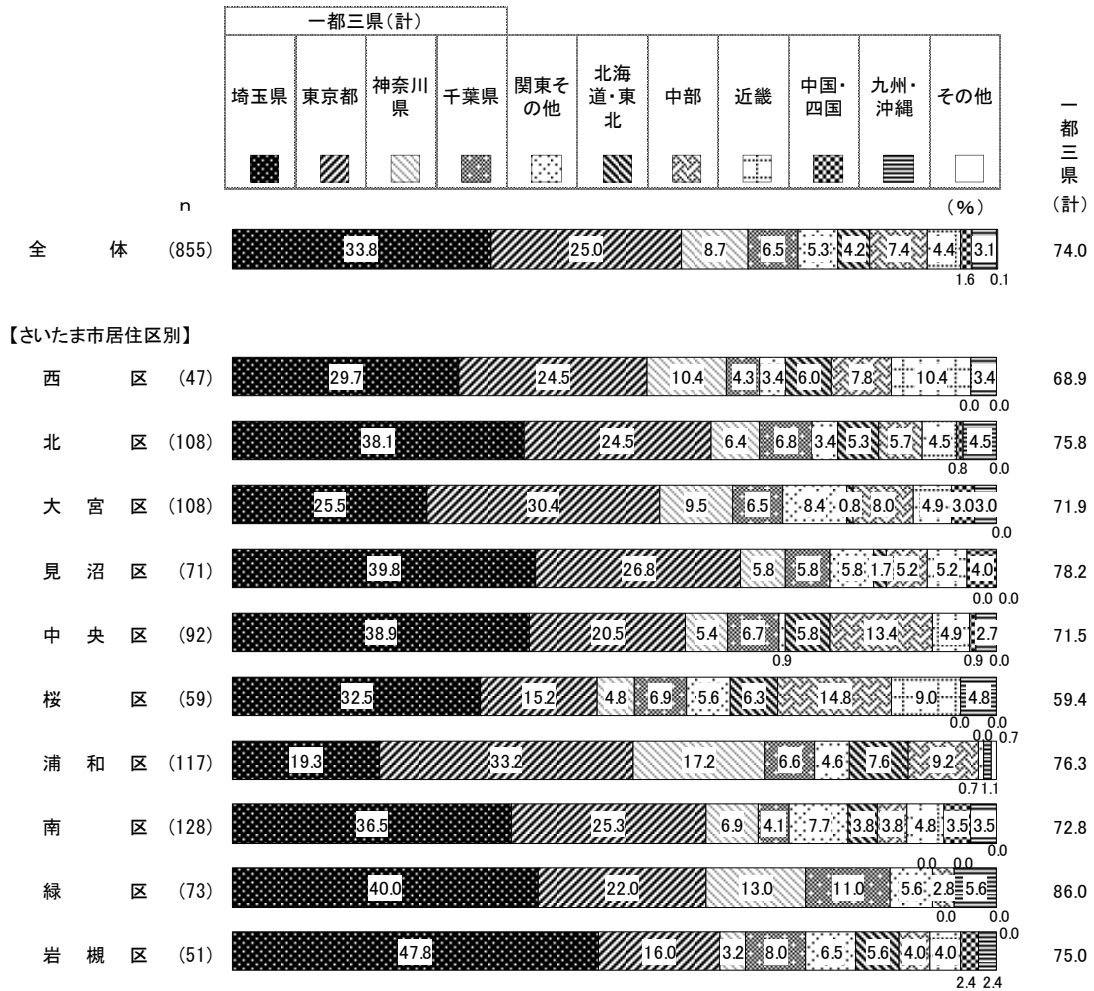
図表 - 3-15 転出後の居住地（都道府県）



※1.0%を下回る選択肢は「その他」として記載

転出前のさいたま市居住区別で見ると、基本的には「埼玉県」への転出者の割合が最も高く、『岩槻区』では約半数を占める一方で、『大宮区』及び『浦和区』では「東京都」への転出者の割合が最も高い。また、『桜区』においては一都三県の占める割合が6割弱と他の区と比較して低く、広範囲への転出がされている区であることがうかがえる。

図表 - 3-16 転出後の居住地（さいたま市居住区別）



また、転出後の居住地について、世帯構成別に転出前のさいたま市居住区別に見ると、＜単身世帯＞においては、『岩槻区』や『中央区』では「埼玉県」、『見沼区』『南区』では「東京都」への転出者が多く見られた。＜夫婦のみ＞世帯では、『岩槻区』『桜区』からの転出者が「埼玉県」へ、『浦和区』『見沼区』からの転出者は「東京都」へ多く見られた。＜親と子＞世帯では、『見沼区』『岩槻区』『北区』からの転出者が「埼玉県」へ、『大宮区』からの転出者が「東京都」へ多く見られた。

図表 - 3-17 転出後の居住地（世帯構成／さいたま市居住区別）

				(%)			
単身世帯		回答数(n)	地域				
			埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	
回答数(n)		328	25.2	34.3	7.1	6.9	
問2 (4) 住まいの区 転出前のお	西区	18	26.7	31.3	4.6	0.0	
	北区	39	23.8	33.9	7.4	10.6	
	大宮区	40	18.5	37.1	9.3	6.2	
	見沼区	27	22.6	44.4	7.5	3.0	
	中央区	29	36.6	32.5	2.8	9.9	
	桜区	25	23.3	21.6	8.3	8.3	
	浦和区	43	10.6	37.5	8.6	6.7	
	南区	48	26.9	41.1	6.4	3.4	
	緑区	33	31.0	32.4	12.4	10.5	
	岩槻区	27	41.3	21.0	0.0	9.1	
夫婦のみ		回答数(n)	地域				
			埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	
回答数(n)		234	38.5	25.8	12.6	7.3	
問2 (4) 住まいの区 転出前のお	西区	14	37.1	25.7	20.1	0.0	
	北区	31	43.2	28.2	6.6	5.2	
	大宮区	24	27.6	20.7	22.4	13.7	
	見沼区	22	41.5	32.2	5.7	9.4	
	中央区	33	36.3	21.2	12.5	6.3	
	桜区	15	51.4	18.9	0.0	13.6	
	浦和区	38	25.8	36.4	22.7	4.3	
	南区	36	43.8	23.6	9.0	5.6	
	緑区	12	46.7	16.6	10.0	20.1	
	岩槻区	8	55.0	19.9	10.0	0.0	
親と子		回答数(n)	地域				
			埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	
回答数(n)		255	40.3	14.0	7.2	4.7	
問2 (4) 住まいの区 転出前のお	西区	12	23.3	19.9	10.1	0.0	
	北区	34	50.1	9.8	6.1	2.4	
	大宮区	39	28.7	34.0	3.2	3.2	
	見沼区	20	65.3	0.0	4.0	0.0	
	中央区	29	45.1	8.4	0.0	4.3	
	桜区	11	37.1	7.3	7.3	0.0	
	浦和区	33	24.9	22.2	18.7	10.0	
	南区	36	34.5	5.7	6.7	4.5	
	緑区	25	48.4	12.9	11.3	8.1	
	岩槻区	16	55.4	5.2	5.2	10.5	

(2) 転出後の居住地（市区町村）

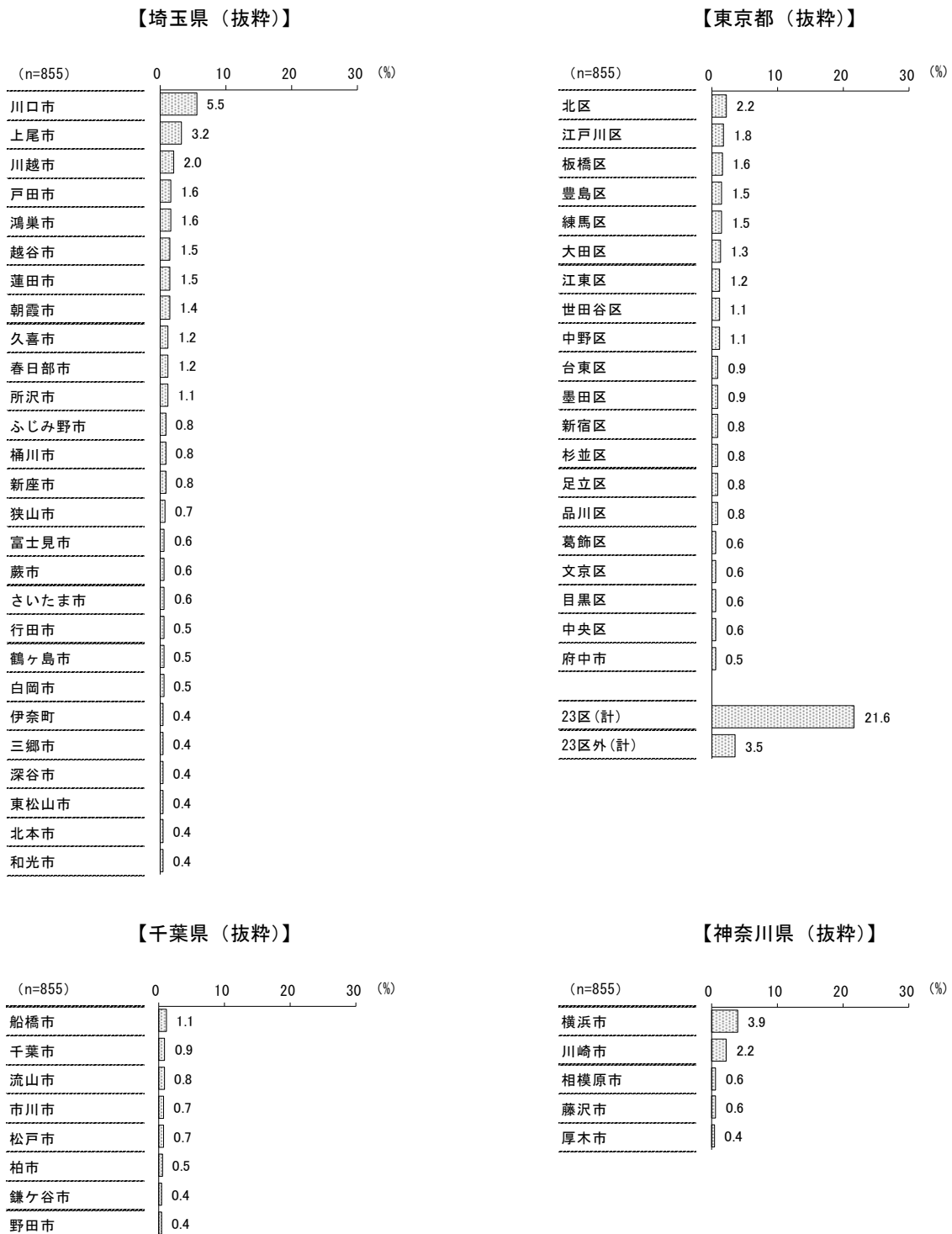
転出後の居住地を、一都三県それぞれの市区町村で見ると、『埼玉県』では「川口市」の割合が転出者全体の5.5%を占め、次いで、「上尾市」(3.2%)、「川越市」(2.0%)の順となる。

『東京都』では、「北区」の割合が2.2%を占め、「江戸川区」(1.8%)、「板橋区」(1.6%)と続く。さいたま市からの転出者のうち、東京23区への転出者の割合は21.6%を占める。

『千葉県』では、「船橋市」(1.1%)の割合が最も高く、「千葉市」(0.9%)、「流山市」(0.8%)と続く。

『神奈川県』では、「横浜市」(3.9%)の割合が最も高く、次いで「川崎市」が2.2%と続く。

図表 - 3-18 【一都三県抜粋】転出後の居住地（市区町村）

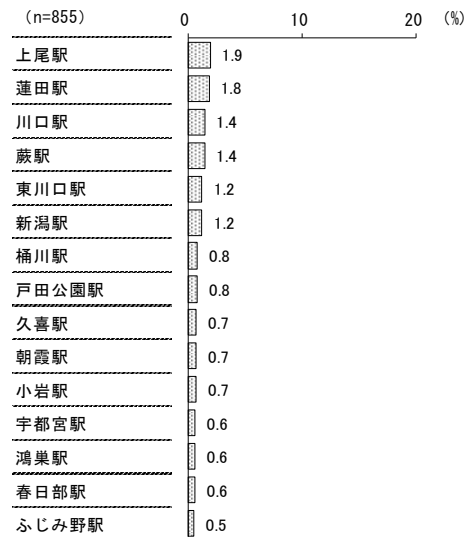


9. 転出先の最寄り駅

問2. (3) 転出先の住所の最寄り駅を教えてください。

転出後の最寄り駅は、「上尾駅」が1.9%と最も高く、「蓮田駅」が1.8%、「川口駅」が1.4%と続く。

図表 - 3-19 【上位抜粋】転出後の最寄り駅

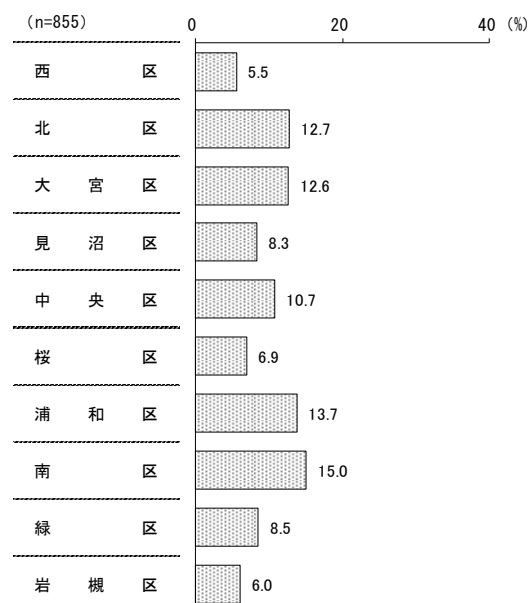


10. 転出前の居住区

問2. (4) 転出前のお住まいの区を教えてください。

転出前（さいたま市）の居住区は、「南区」が15.0%と最も高く、「浦和区」（13.7%）と続く。

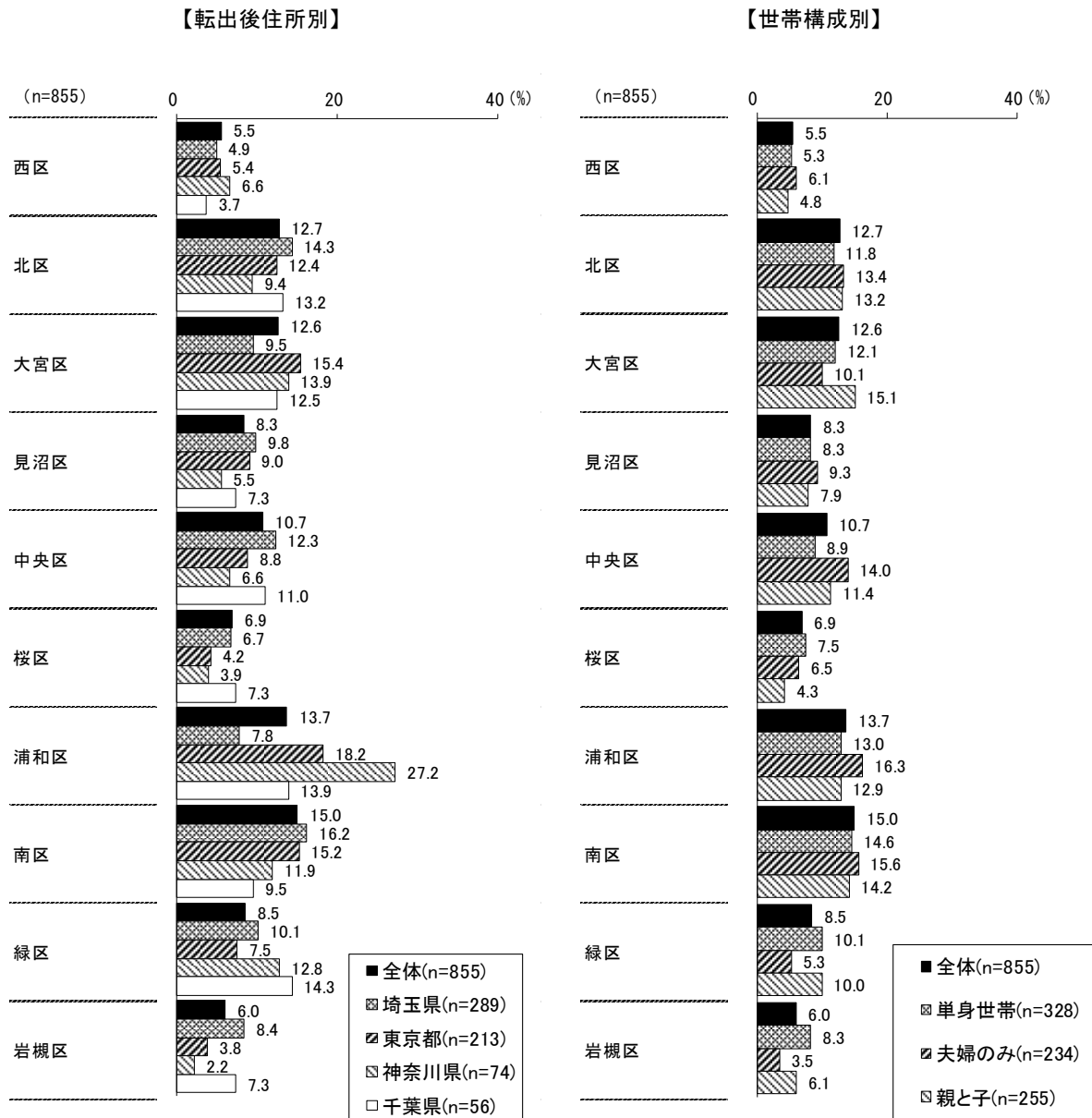
図表 - 3-20 転出前（さいたま市）の居住区（全体）



転出後の居住地（一都三県）別で見ると、『埼玉県』への転出者が最も多いのは「南区」となり、『東京都』、『神奈川県』への転出者が最も多いのは「浦和区」、『千葉県』への転出者が最も多いのは「緑区」となる。

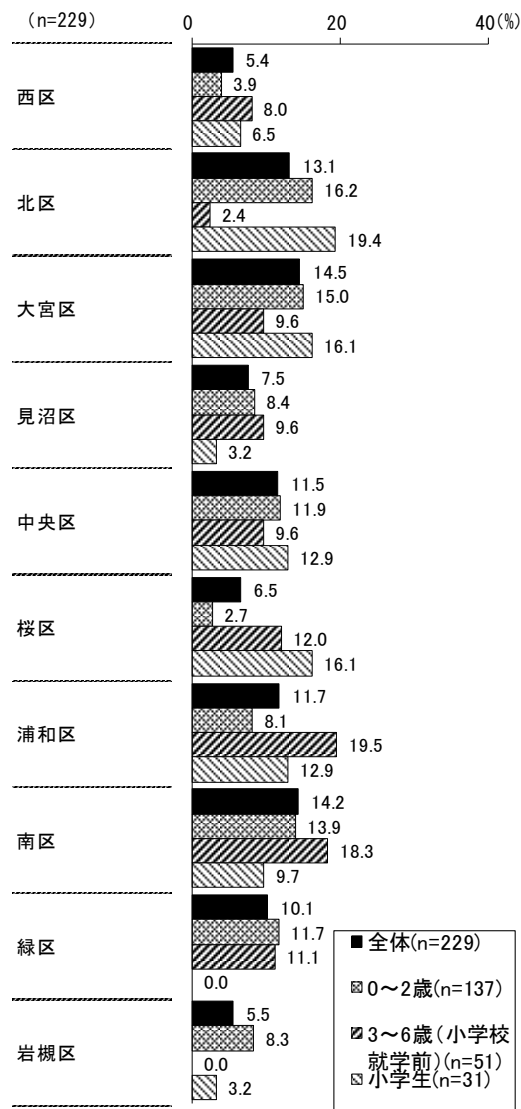
世帯構成別で見ると、『単身世帯』の転出者が最も多いのは「南区」となり、『夫婦のみ』の転出者が最も多いのは「浦和区」、『親と子』の転出者が最も多いのは「大宮区」となる。

図表 - 3-2 1 転出前（さいたま市）の居住区（転出後住所／世帯構成別）



末子の年齢別で見ると、『0～2歳』『小学生』の子どもを持つ世帯の転出が最も多いのは「北区」となり、『3～6歳』の子どもを持つ世帯の転出が最も多いのは「浦和区」となる。区毎の状況で見ると、「桜区」では『0～2歳』、「北区」では『3～6歳』の割合が他の年齢に比べて低く、「緑区」では『小学生』、「岩槻区」では『3～6歳』においては回答が見られなかった。

図表 - 3-22 転出前（さいたま市）の居住区（末子の年齢別）

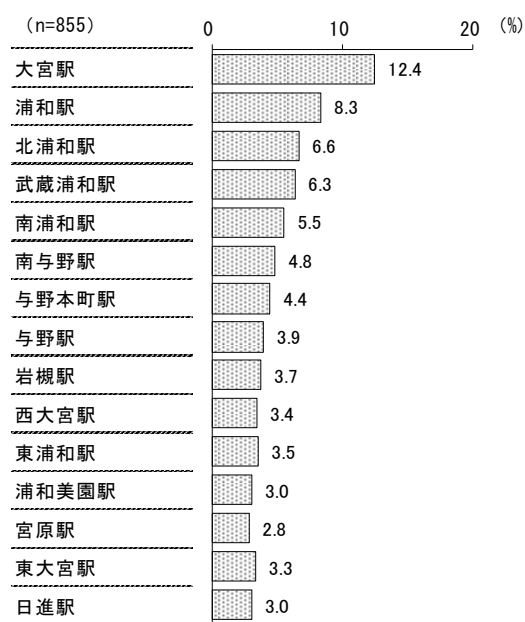


1.1. 転出前の最寄り駅

問2. (5) 転出前のご住所の最寄り駅を教えてください。

転出前の最寄り駅は、「大宮駅」の割合が12.4%と最も高く、「浦和駅」が8.3%、「北浦和駅」が6.6%と続く。

図表 - 3-23 【上位抜粋】転出前（さいたま市）の最寄り駅（全体）



12. さいたま市の継続居住年数

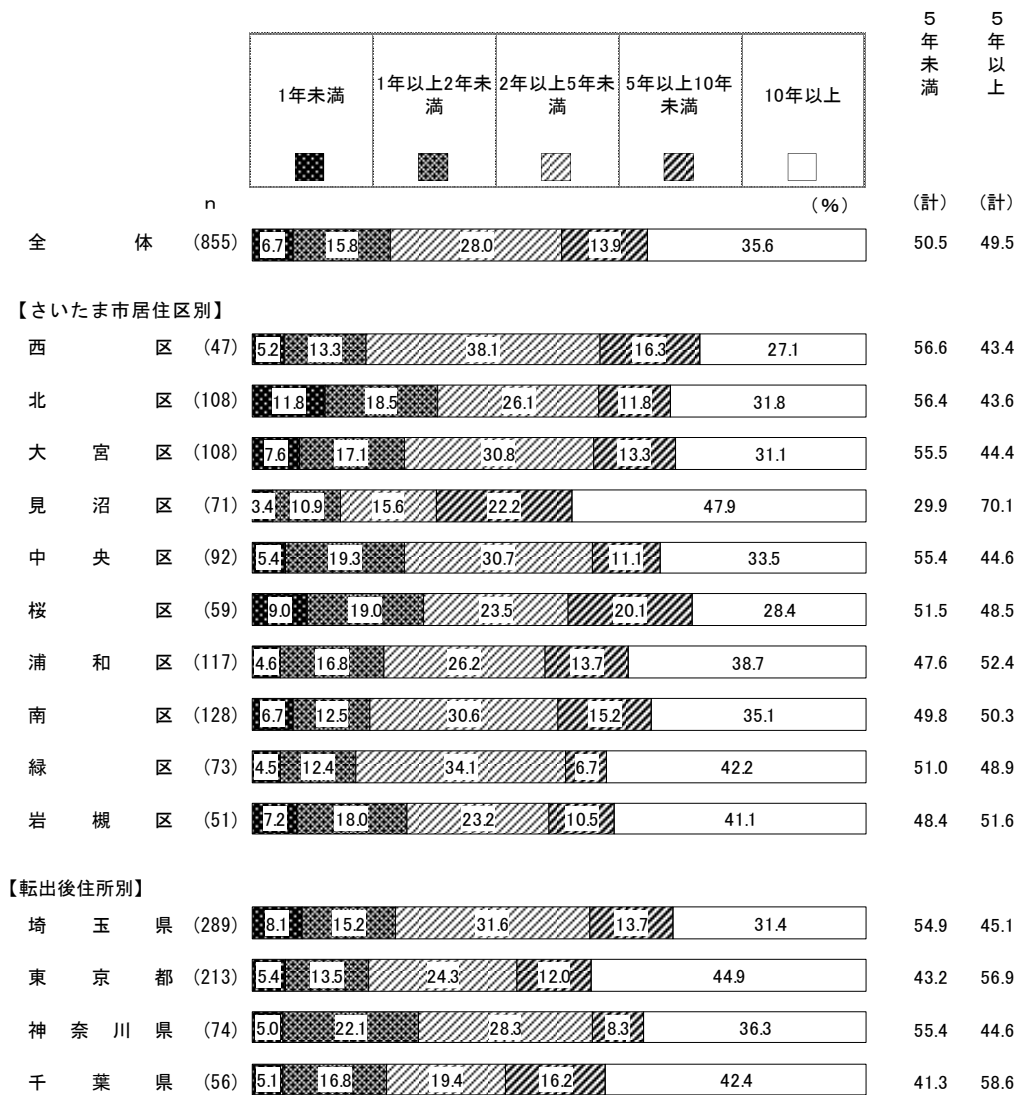
問2. (6) さいたま市にどれくらい継続して住んでいましたか。

さいたま市の継続居住年数は、「10年以上」の割合が35.6%と最も高く、「2年以上5年未満」(28.0%)、「1年以上2年未満」(15.8%)と続く。継続年数が5年未満と5年以上の転出者の割合はおよそ半々となった。

さいたま市居住区別で見ると、『見沼区』において「10年以上」居住していた転出者が約半数を占める。

転出後住所別で見ると、「10年以上」の回答は、『埼玉県』『神奈川県』への転出者と比較して、『東京都』『千葉県』への転出者の割合が高い。

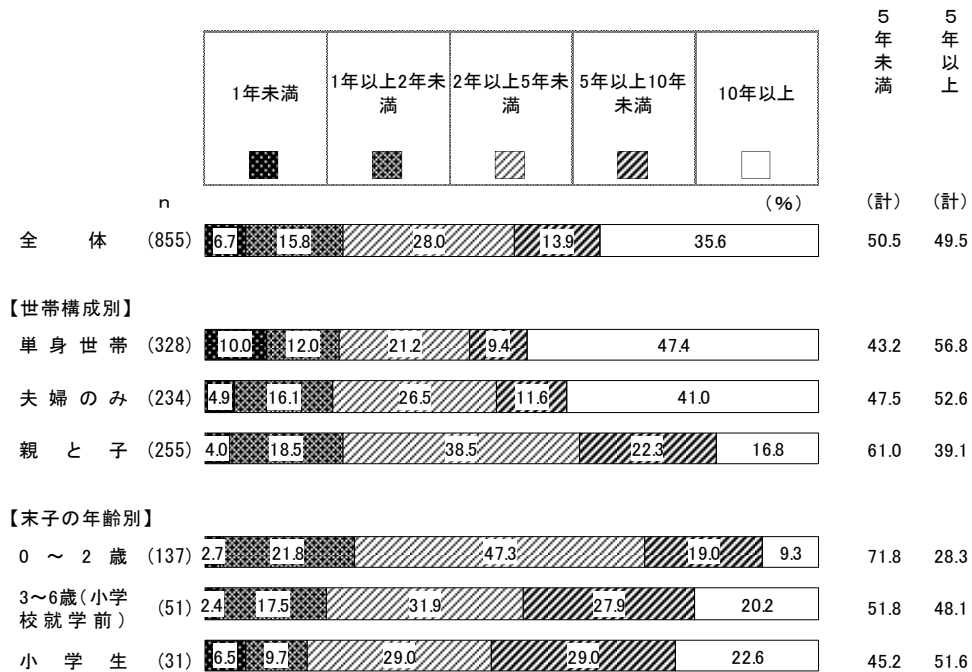
図表 - 3-24 さいたま市の継続居住年数（さいたま市居住区／転出後住所別）



世帯構成別で見ると、『親と子』において、居住年数が10年未満の転出者が8割を超える。子どものいる世帯では、概ね10年未満の期間で環境を見直すことがうかがえる。

末子の年齢別で見ると、『0～2歳』の子どもを持つ世帯において、「2年以上5年未満」の割合が約半数を占める。また、子どもの年齢が上がるにつれ、継続居住年数が長くなる傾向がある。

図表 - 3-25 さいたま市の継続居住年数（世帯構成／末子の年齢別）

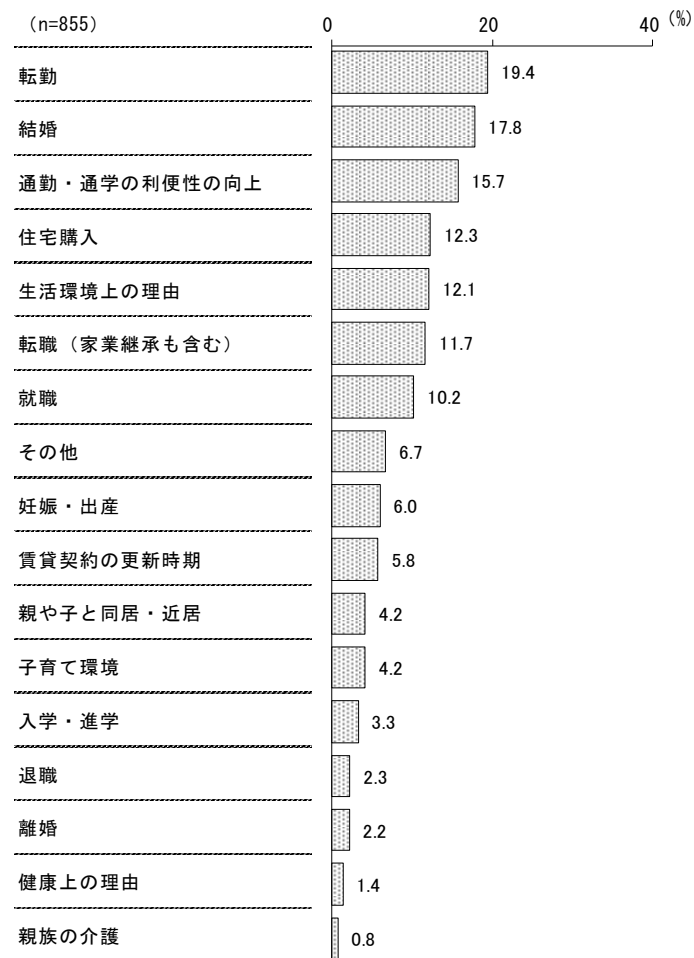


13. 転出のきっかけ

問3. (1) 転出のきっかけのうち特に大きかったものは何ですか。(3つまで)

転出のきっかけとしては、「転勤」(19.4%)の割合が最も高く、「結婚」(17.8%)、「通勤・通学の利便性の向上」(15.7%)が続く。その他回答では、「同棲」(14件)、「一人暮らし」(10件)、「家賃が高い」「治安の悪化のため」「地元に戻る」等が挙げられた。

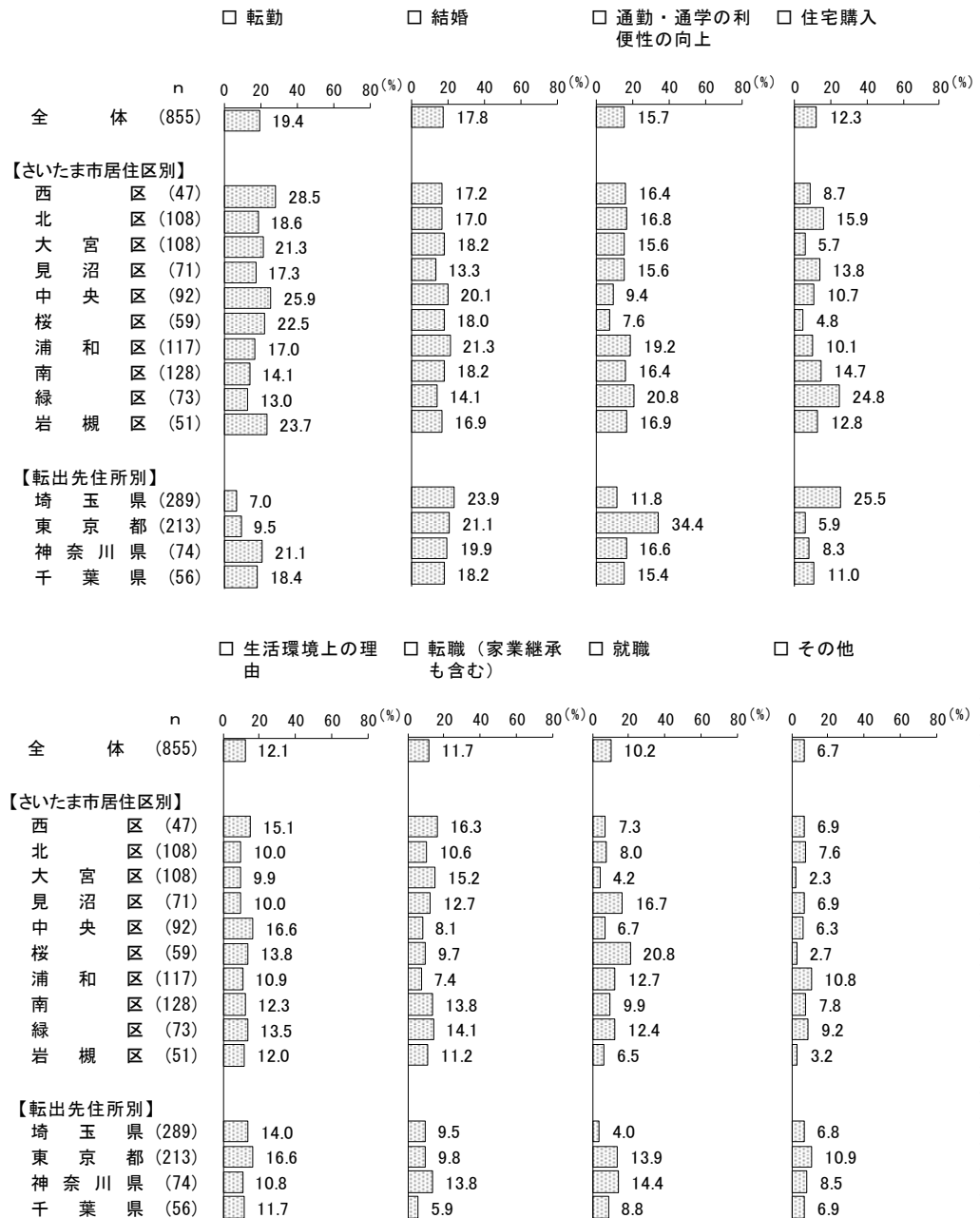
図表 - 3-26 転出のきっかけ(全体)



転出のきっかけをさいたま市居住区別で見ると、『緑区』において、「住宅購入」をきっかけとする転出者が2割を超え比較的多い。また、『見沼区』『桜区』においては、「就職」をきっかけとする転出者が他区と比べ多い。

転出後住所別で見ると、『埼玉県』への転出者において、「住宅購入」の割合が比較的高く、『東京都』においては「通勤・通学の利便性の向上」をきっかけとする転出者の割合が高い。

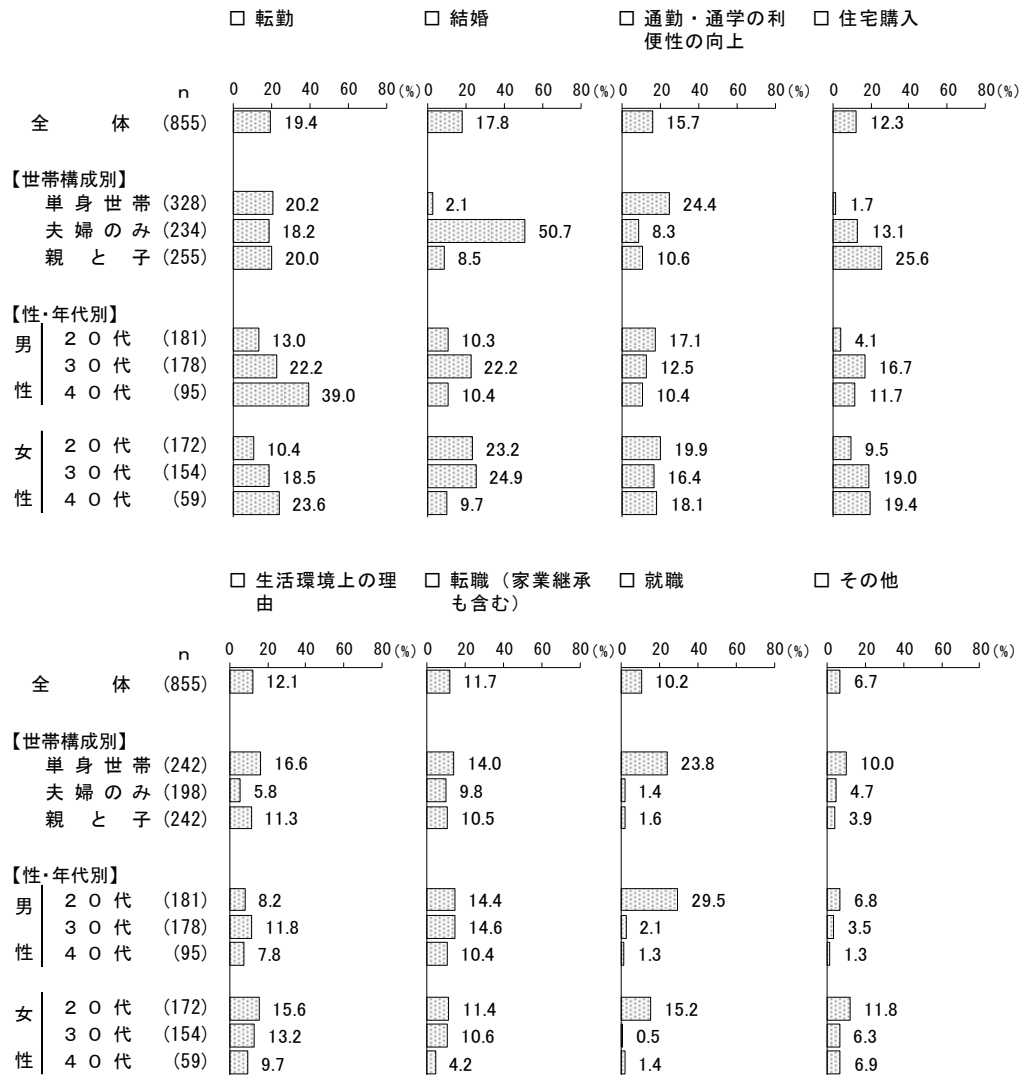
図表 - 3-27 転出のきっかけ（さいたま市居住区／転出後住所別）―上位8項目



世帯構成別で見ると、『夫婦のみ』の世帯では、半数以上が「結婚」をきっかけとしていることが分かる。また、『単身世帯』では「通勤・通学の利便性の向上」「就職」、『親と子』の世帯では「住宅購入」が他の世帯構成と比較して割合が高い。

性・年代別で見ると、『40代男性』の約4割が「転勤」をきっかけとし、20代では男女とも「就職」をきっかけとする割合が高い。

図表 - 3-28 転出のきっかけ（世帯構成／性・年代別）

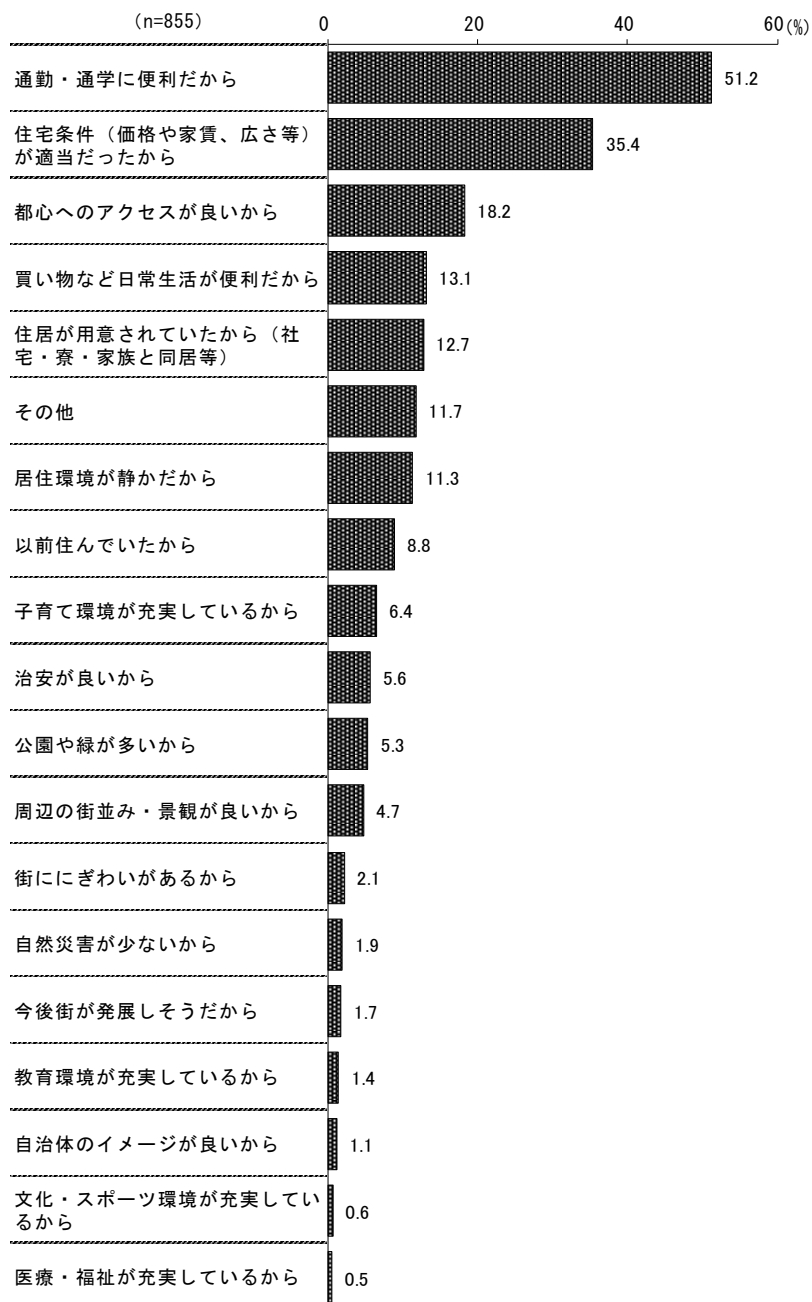


14. 転出先の自治体を選んだ理由

問3. (2) 転出先の自治体を選んだ理由は何ですか。
次の項目の中で、特に重視したものを3つまで教えてください。

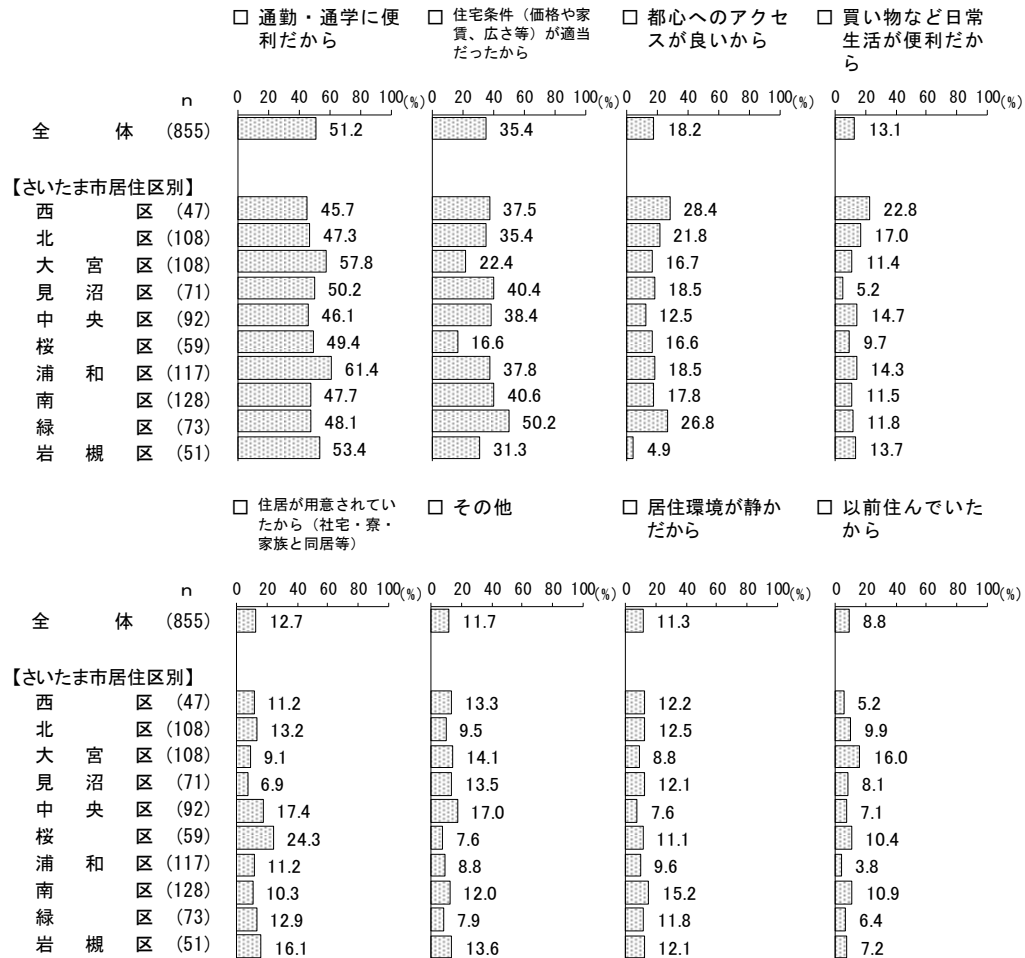
転出先の自治体を選んだ理由として、51.2%が「通勤・通学に便利だから」を挙げており、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）が適当だったから」が35.4%、「都心へのアクセスが良いから」が18.2%と続く。上位4項目に着目すると、転入者の重要視する項目（p. 28）と一致しており、自治体を選定する理由として重要視されていることが改めて分かる。

図表 - 3-29 転出先の自治体を選んだ理由・重視したもの（全体）



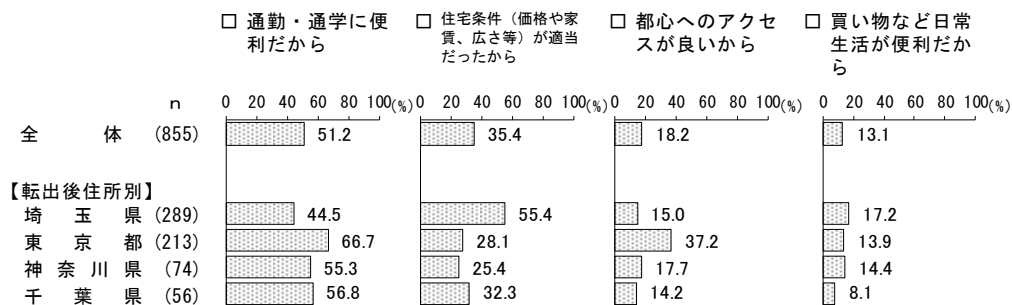
さいたま市居住区別で見ると、『浦和区』からの転出者において、6割以上が「通勤・通学に便利だから」を重視した点として挙げており、『緑区』からの転出者においては、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）が適当だったから」の割合が半数を超える。

図表 - 3-30 転出先の自治体を選んだ理由（さいたま市居住区別）—上位8項目



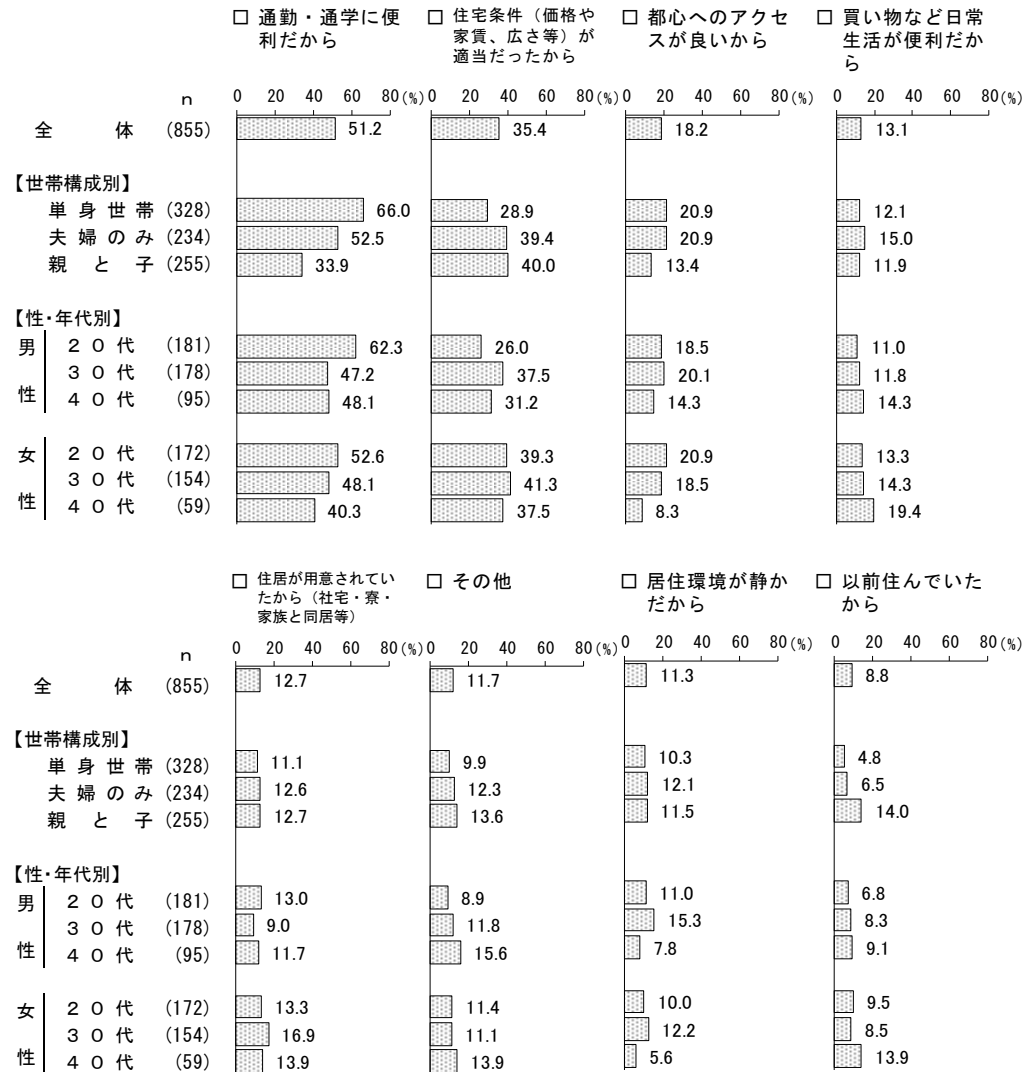
転出後住所別で見ると、『東京都』への転出者のうち6割以上が「通勤・通学に便利だから」、4割弱が「都心へのアクセスが良いから」を挙げており、『埼玉県』への転出者では「住宅条件（価格や家賃、広さ等）が適当だったから」の割合が半数を超える。

図表 - 3-31 転出先の自治体を選んだ理由（転出後住所別）—上位4項目



世帯構成別で見ると、『単身世帯』『夫婦のみ』世帯では「通勤・通学に便利だから」の割合が半数を超える。

図表 - 3-3 2 転出先の自治体を選んだ理由（世帯構成／性・年代別）—上位8項目



15. 転出先の自治体を選んだ具体的な理由

問3. (3)(2) で選んだ内容について、具体的に教えてください。(自由記述)

具体的な理由について、回答のあった625件の回答を(2)の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 3-33 転出先の自治体を選んだ具体的な理由

分類内容	自由回答(一部抜粋)	件数
通勤・通学に便利だから	・都内の勤務地まで 乗り換えなしで30～40分 で行ける(20代男性、調布市) ・首都高が近く通勤に便利(20代女性、東京都中央区) ・勤務地である川崎、蒲田へのアクセスがよく、時間が短縮した(20代女性、横浜市)	261
住宅条件(価格や家賃、広さ等)が適当だったから	・マンションが安かったため。本当は武蔵浦和が良かったが、マンション分譲価格が高く買えなかった(30代男性、戸田市) ・住宅は値段の割に階層が高い。広く利便性が高かった(20代女性、東京都板橋区)	184
住居が用意されていたから(社宅・寮・家族と同居等)	・寮施設が用意されていたから(20代男性、藤沢市) ・実家へ帰ったため(20代男性、枚方市)	99
買い物など日常生活が便利だから	・今年子どもが産まれたため、子持ち世帯に優しく、買い物する場所や保育園が充実した地域に住みたかったため(20代女性、東京都北区) ・上尾駅は駅から離れてもスーパー等のお店が栄えているため(30代男性、上尾市) ・東京都との県境に位置し、スーパーやドラッグストア等、生活に必要な施設が徒歩5分圏内に概ね揃っているから(20代女性、川口市)	68
都心へのアクセスが良いから	・勤務地が豊洲であり、一本で行けること。池袋、渋谷、新宿等に行きやすいこと(20代男性、東京都板橋区) ・京王線で20分で新宿に行くことができる(40代女性、三鷹市)	61
以前住んでいたから	・実家の近くに軒家を建てる予定の為、その前に近くに引越したかった(30代女性、川口市) ・以前住んでいて住みやすいので(40代女性、仙台市)	43
居住環境が静かだから	・周りに高い建物がなく、緑に溢れている。鳥や虫の音が心地よい。地域に住んでいる住人達も穏やか(40代女性、つくばみらい市) ・若い子のたまり、バイクの暴走がない(30代女性、児玉郡)	36
治安が良いから	・自宅付近に外国人が少ないため(30代男性、松戸市) ・犯罪発生件数が少ない地域を選びたかった(20代女性、東京都杉並区) ・駅前から平和な雰囲気伝わってよい(30代女性、流山市)	31
子育て環境が充実しているから	・さいたま市ではフルタイムで働いていても第8希望の保育園にしか入れなかったが、戸田市ではフルタイムで働いていれば 人気の保育園でも入園可能 だった(30代男性、戸田市) ・自治体の 子育て支援 が充実している(給食費無料、医療費高卒まで無料、学校の預かり無料)(30代女性、府中市)	28
公園や緑が多いから	・人工的な公園などではなく 自然な形で保護 されている。雑木林などまちづくりと一体的に保護されている(30代男性、国分寺市) ・つくば市は公園・緑が多く、人口も増加しているため、公的施設の整備が行き届いていそうだと考えたため(30代女性、つくば市)	25
周辺の街並み・景観が良いから	・仙台市は都会なのに緑が多く、目に優しい。除草など 街並み整備 もされていて、とてもきれい(30代女性、仙台市) ・ 電線地中化 及び広い歩道、余裕のある落ち着いた街並み(30代男性、流山市)	20
自然災害が少ないから	・ハザードマップで 過去の浸水歴 がほとんどなかった(20代女性、越谷市) ・災害指定区域では無い(30代男性、川越市)	12
教育環境が充実しているから	・子どもが 入学を希望する学校が多数 ある(40代男性、東京都練馬区) ・習い事の種類が多い(40代女性、東京都新宿区) ・学園都市で2km圏内に大学、高校、中学、小学校、幼稚園、保育園すべて揃っているから(30代女性、福岡市)	10
医療・福祉が充実しているから	・医療費がある年齢まで掛からないこと、子を産み育てるために市が専用の窓口を作っていること(不妊治療等も含め)(30代男性、松江市) ・大学病院の多さ(30代男性、東京都豊島区)	9
今後街が発展しそうだから	・春日部駅高架化と中心市街地 再開発 に期待している(30代女性、春日部市) ・大型ショッピングモールなど直近で発展が見られたため(30代男性、上尾市)	5
文化・スポーツ環境が充実しているから	・都心ながら、 区営 のテニスコート、壁打ち施設が近くにあり、定期的に体を動かせるのがよかった(30代女性、東京都文京区)	4
自治体のイメージが良いから	・子育て世代に人気の町だと聞いたから(40代女性、中巨摩郡) ・適度な都市化をしているが個性がある(30代男性、国分寺市)	3
街ににぎわいがあるから	・ 子供の声 が多く聞こえる街だから(20代女性、桶川市)	2
その他	・自身のキャリアアップのために高級住宅地に住もうと思った(20代女性、東京都文京区) ・埼玉の住居が一時的な居住であったため(40代男性、新潟市) ・自然が豊か・海まで車で数分で行ける・冬は雪が降るなど、埼玉県では体験できなかった生活に憧れがあったので移住を決めた。ただし、短期か中期の移住と決めている(30代男性、柏崎市)	113

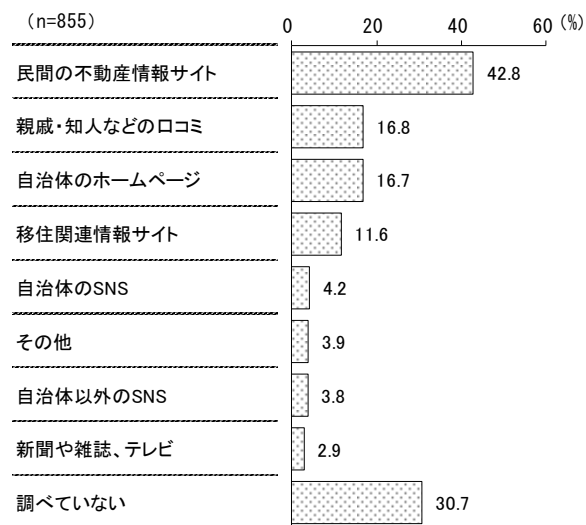
16. 転出に関する情報源

問3. (4) 転出に関する情報収集で活用したものを教えてください。(複数選択可)

転出に関する情報源として、最も活用されたものは「民間の不動産情報サイト」(42.8%)となり、「調べていない」が30.7%、「親戚・知人などの口コミ」が16.8%と続く。その他回答では、「Googleマップ」、「会社からの紹介」「実際に現地へ赴いた」等が挙げられた。

転入者調査と同様、情報収集を行わずに転出を決める人が一定数存在している。

図表 - 3-34 転出に関する情報源（全体）



転出者についても、転入者と同様に、「調べていない」と回答した、転出に際し情報を得ていない転出者について着目した。情報源を『調べていない』転出者における自治体を選んだ理由として「住居が用意されていたから」とした転入者が2割強となり、「以前住んでいから」の割合が2割弱を占める。

同様に転出後の住居形態では、情報源を『調べてない』転入者のうち、「社宅・寮・宿舍」が1割強を占めるが、「賃貸のアパート、マンション」が半数程度、「持家の一戸建て」が3割弱と、就職や転勤による住居の用意がある場合や、実家やその周辺への出戻りにより情報収集を不要とする人等、様々な背景で情報収集を行わない人が存在することが分かる。

図表 - 3-35 転出先の自治体を選んだ理由（転出に関する情報源別）—上位8項目

(%)

		回答数(n)	問3(2)転出先の自治体を選んだ理由で特に重視したもの(3つまで)							
			通勤・通学に便利だから	住宅条件(価格や家賃、広さ等)が適当だったから	都心へのアクセスが良いから	買い物など日常生活が便利だから	住居が用意されていたから(社宅・寮・家族と同居等)	その他	居住環境が静かだから	以前住んでいたから
回答数(n)		855	51.2	35.4	18.2	13.1	12.7	11.7	11.3	8.8
転出に関する情報源	新聞や雑誌、テレビ	25	59.1	26.2	26.2	16.3	3.3	18.0	13.2	6.5
	自治体のSNS	36	43.7	34.5	6.9	12.6	8.0	15.0	5.7	4.6
	自治体以外のSNS	32	31.6	34.2	16.4	7.6	15.2	22.8	12.6	6.4
	自治体のホームページ	143	46.9	39.2	14.1	15.2	15.2	11.3	12.7	7.2
	移住関連情報サイト	99	51.3	47.4	26.5	13.0	7.9	12.0	12.5	3.7
	民間の不動産情報サイト	366	61.9	49.0	24.9	19.8	2.7	10.2	14.7	4.8
	親戚・知人などの口コミ	144	55.2	38.7	19.9	21.7	7.4	12.8	16.7	5.1
	その他	33	44.8	51.0	16.7	21.1	16.1	12.4	13.6	3.8
	調べていない	262	41.5	20.4	10.9	4.4	24.2	14.3	7.0	15.7

図表 - 3-36 転出後の住居所有形態（転出に関する情報源別）

(%)

		回答数(n)	問2(1)転出後の住居所有形態					
			持家の一戸建て	持家の集合住宅(マンションなど)	賃貸の一戸建て	賃貸のアパート、マンション	社宅・寮・宿舍	その他
回答数(n)		855	18.9	6.3	2.9	62.0	9.0	0.8
転出に関する情報源	新聞や雑誌、テレビ	25	3.3	26.2	0.0	60.6	9.9	0.0
	自治体のSNS	36	25.4	5.7	4.6	43.6	20.7	0.0
	自治体以外のSNS	32	15.2	6.4	7.6	56.9	13.9	0.0
	自治体のホームページ	143	24.7	6.0	3.3	56.0	9.2	0.9
	移住関連情報サイト	99	15.7	5.0	7.5	66.4	5.4	0.0
	民間の不動産情報サイト	366	13.8	6.2	3.6	73.5	2.9	0.0
	親戚・知人などの口コミ	144	15.9	4.8	3.4	72.1	3.2	0.6
	その他	33	26.1	12.4	0.0	45.3	16.2	0.0
	調べていない	262	25.9	6.9	0.9	49.4	14.9	1.9

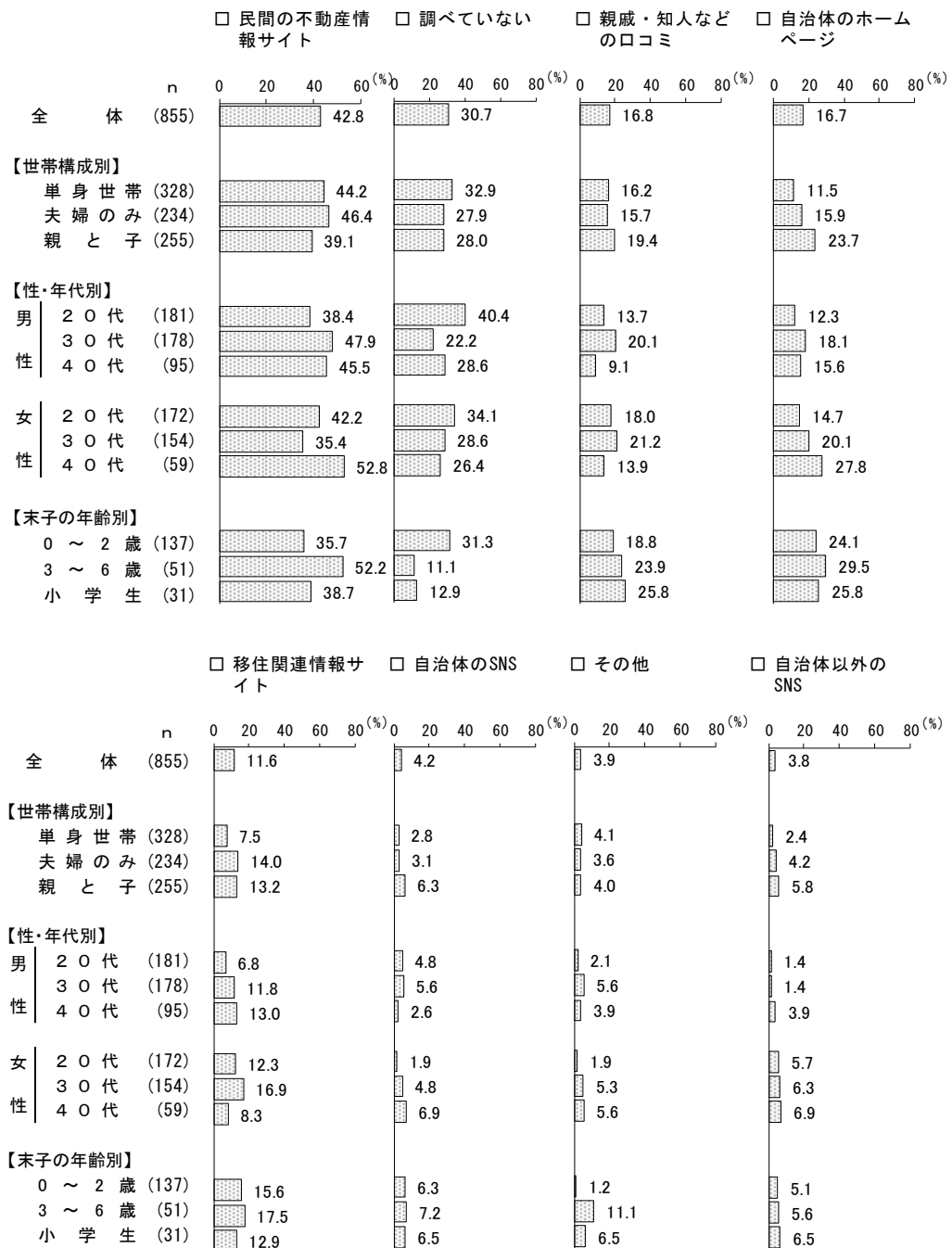
世帯構成別で見ると、『親と子』において「自治体のホームページ」を2割以上の方が活用している。

性・年代別で見ると、『40代女性』の半数以上が「民間の不動産情報サイト」を挙げている。

末子の年齢別で見ると、『3～6歳』の子どもを持つ世帯で「民間の不動産情報サイト」の回答が半数を超える。

また、「自治体のSNS」も、全体の数字こそ少ないものの、「親と子」や「40代女性」、「3～6歳」などで、他の世帯構成や性・年代と比べてやや高くなっている。

図表 - 3-37 転出に関する情報源（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目

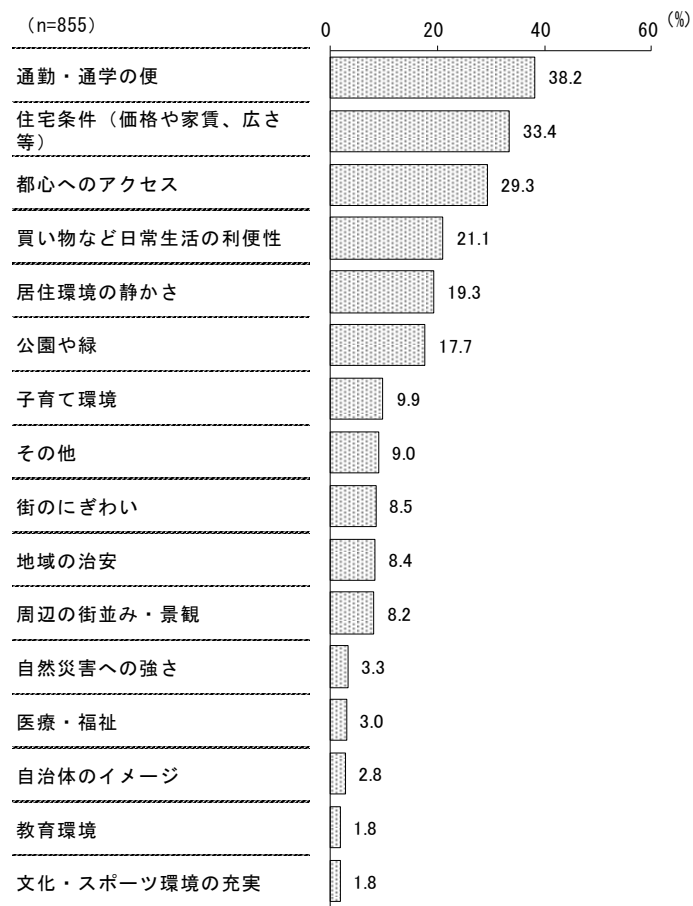


17. 転出先に実際に住んでみて、さいたま市と比較して良かった点

問4. (1) 実際に転出先に住んでみて、さいたま市と比較して良かった点を教えてください。(3つまで)

転出先とさいたま市を比較し、転出先の良かった点として、「通勤・通学の便」の割合が38.2%と最も高く、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」が33.4%、「都心へのアクセス」が29.3%と続く。その他回答では、「そこまで人で混雑していない」「水道代の安さ」等が挙げられたが、「特になし」(11件)、「さいたま市の方が良い」(8件)という回答も多かった。

図表 - 3-38 さいたま市と比較して良かった点（全体）



18. さいたま市の満足していた点／不満足だった点

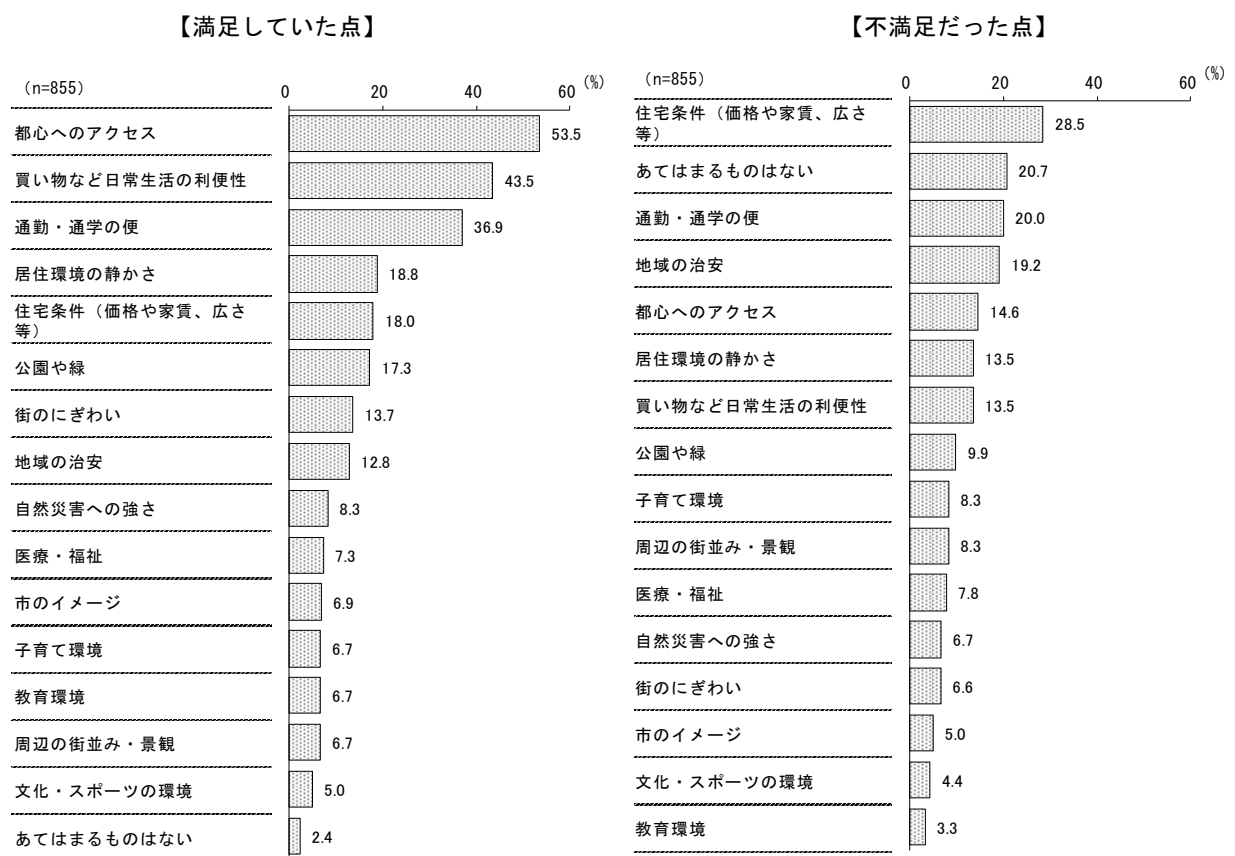
問4. (2) さいたま市について満足していたところ、不満足だったところを教えてください。(それぞれ3つまで)

転出者がさいたま市に満足していた点として、「都心へのアクセス」の割合が53.5%と最も高く、「買い物など日常生活の利便性」が43.5%、「通勤・通学の便」が36.9%と続く。

一方、さいたま市の不満足だった点として、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」の割合が28.5%と最も高く、「あてはまるものはない」が20.7%、「通勤・通学の便」が20.0%、「地域の治安」が19.2%と続く。

転出者は交通網や日常生活といった便利さに満足していたが、住宅条件や治安の不安といった長い目でみた住まいという視点において不満を抱いていたことがうかがえる。

図表 - 3-39 さいたま市の満足していた点／不満足だった点（全体）

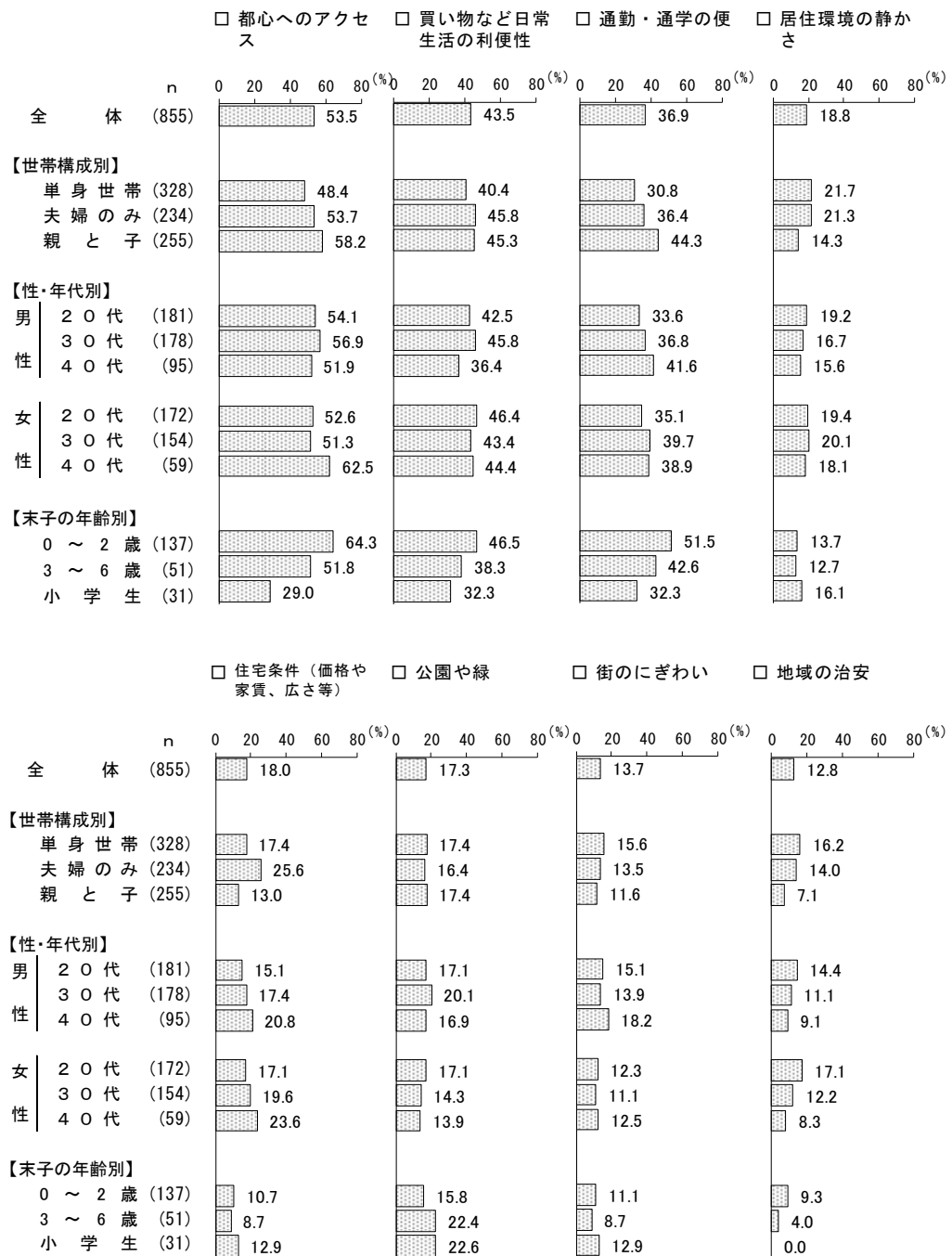


(1) さいたま市の満足していた点

世帯構成別で見ると、『親と子』において、「通勤・通学の便」が4割以上を占め、他の世帯構成と比べて高い。

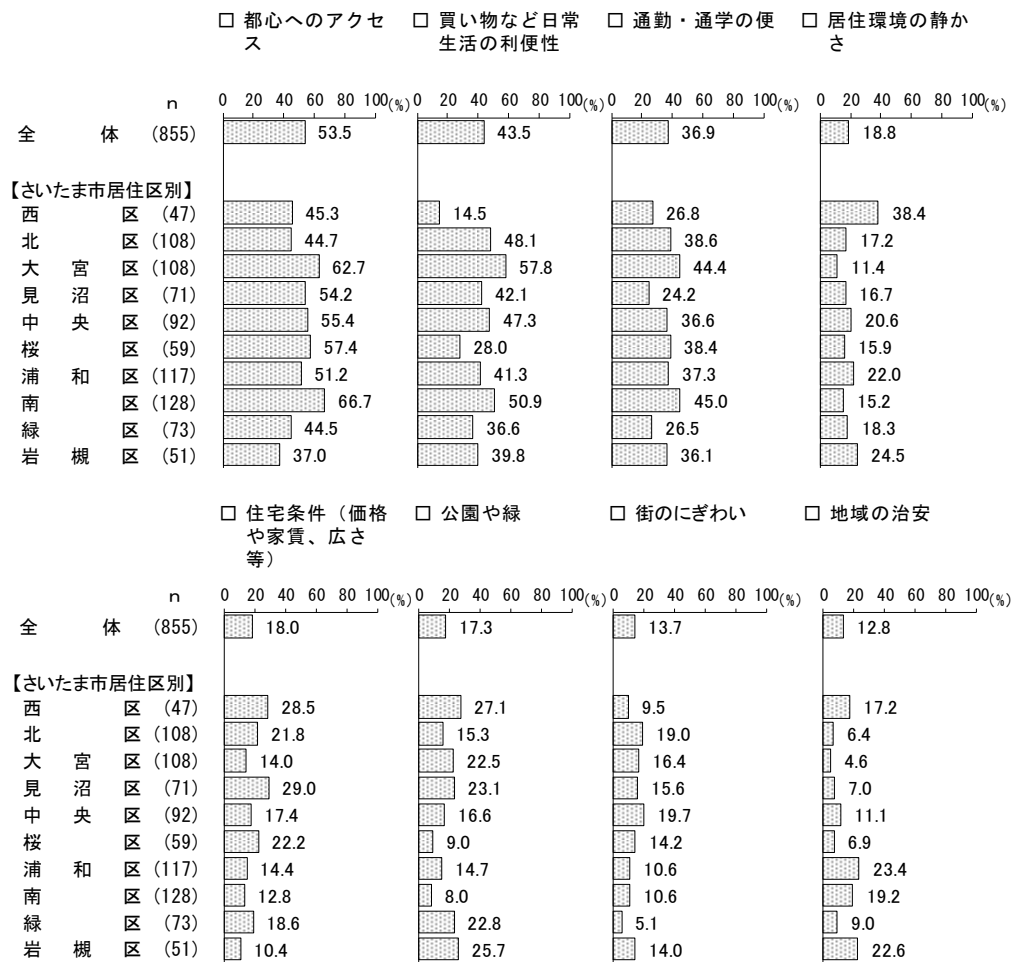
末子の年齢別で見ると、『0～2歳』の子どもを持つ世帯では、「都心へのアクセス」が6割以上、「通勤・通学の便」が5割以上を占めており、末子の年齢が上がるほど割合が低くなる。

図表 - 3-40 さいたま市の満足していた点（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目



さいたま市居住区別で見ると、『大宮区』『南区』においては「都心へのアクセス」が6割以上、「買い物など日常生活の利便性」が過半数を占める。また、『西区』において、「居住環境の静かさ」が4割弱を占め、他の区と比較して高い。

図表 - 3-4 1 さいたま市の満足していた点（さいたま市居住区別）―上位8項目



(2) さいたま市の不満だった点

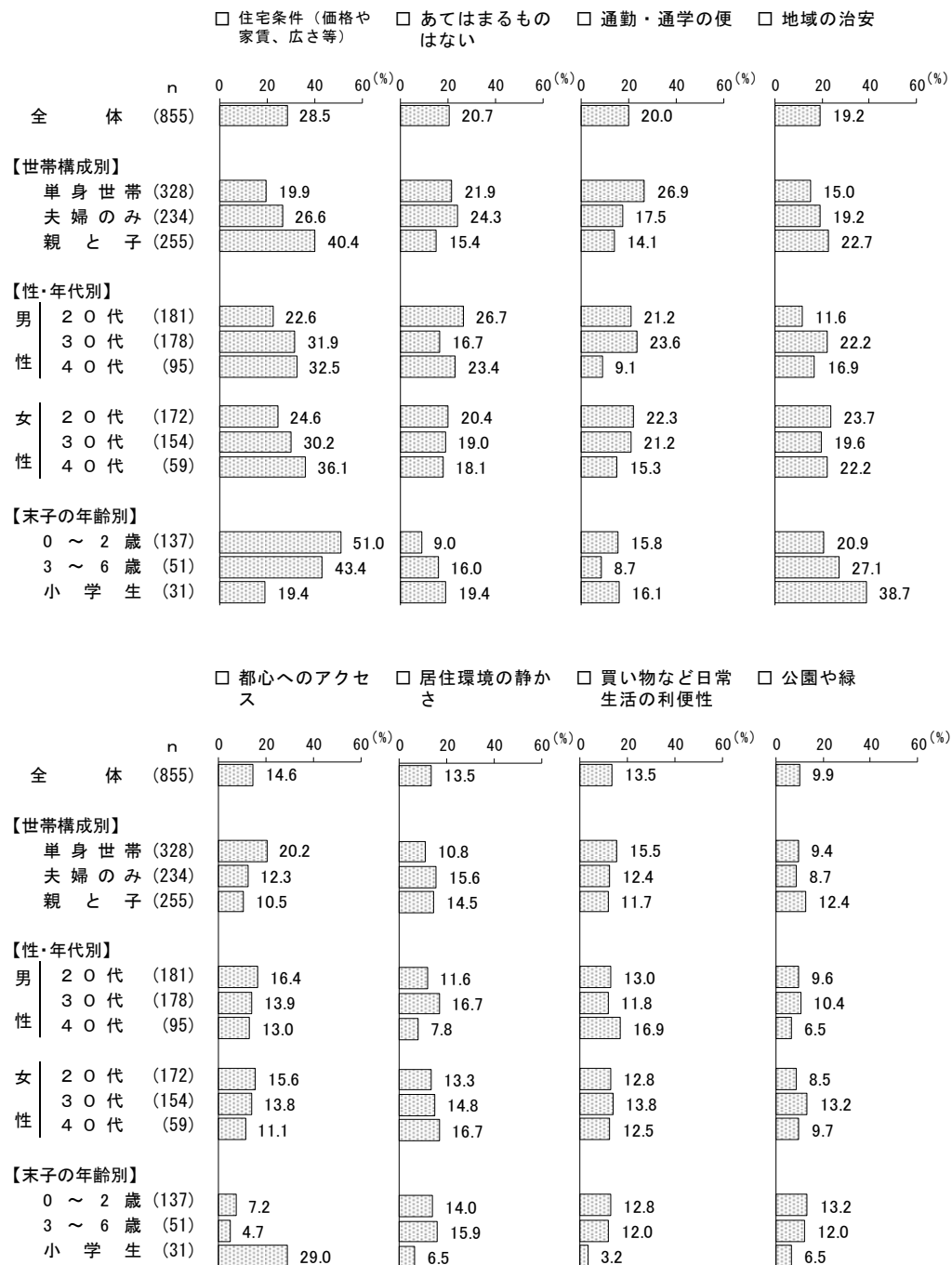
世帯構成別で見ると、『親と子』において、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」の割合が4割を超える。

性・年代別で見ると、女性では年齢が上がるにつれて「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」の割合が上がる。

末子の年齢別で見ると、「住宅条件（価格や家賃、広さ等）」は『0～2歳』では5割以上、『3～6歳』では4割強を占める。また、『小学生』の子どもを持つ世帯では、「地域の治安」「都心へのアクセス」の割合が他の年齢の子どもを持つ世帯と比較して高い。

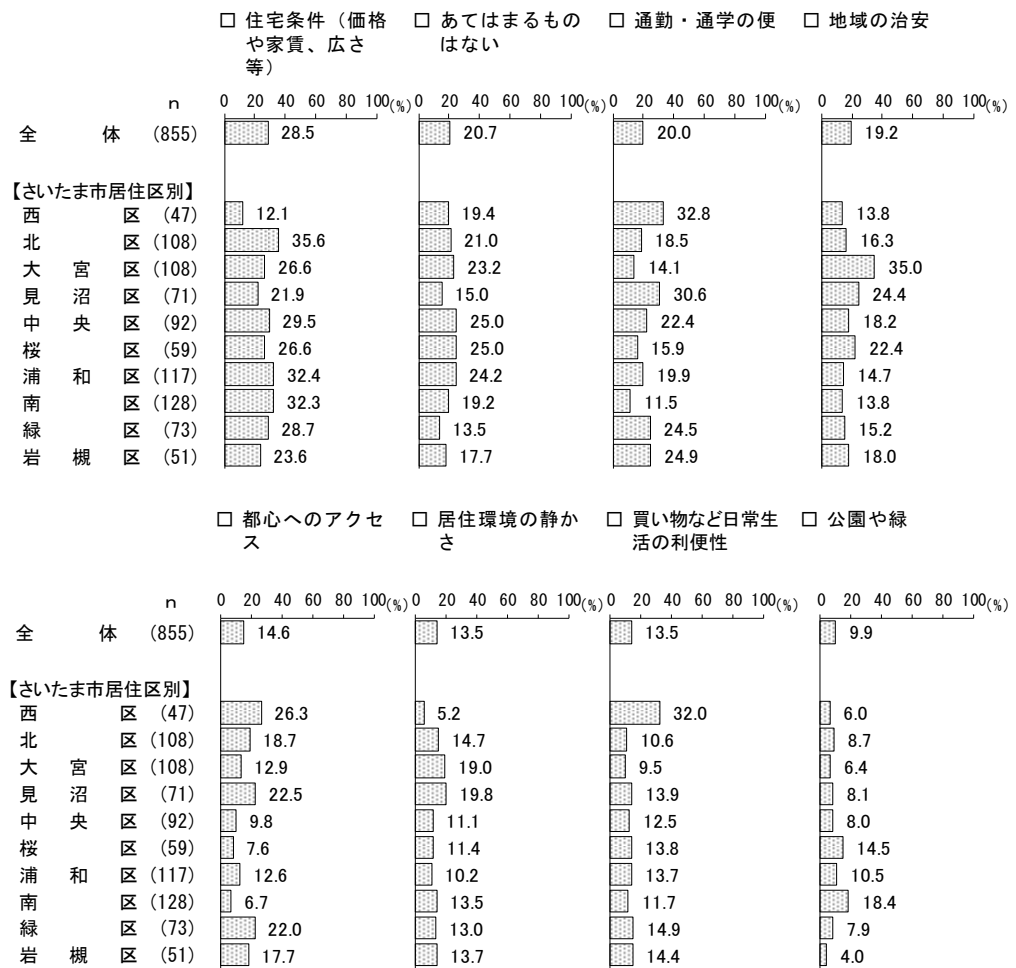
子どもを持つ世帯では、子どもが未就学の段階では住居検討の上で、さいたま市の住宅条件に不満を持つことがうかがえる。また、子どもが小学生になると、治安や都心へのアクセスに不満を感じる事が分かる。

図表 - 3-4 2 さいたま市の不満だった点（世帯構成／性・年代／末子の年齢別）—上位8項目



さいたま市居住区別で見ると、他の区と比較して、『大宮区』において「地域の治安」、「西区」において「通勤・通学の便」「買い物など日常生活の利便性」の割合が高い。

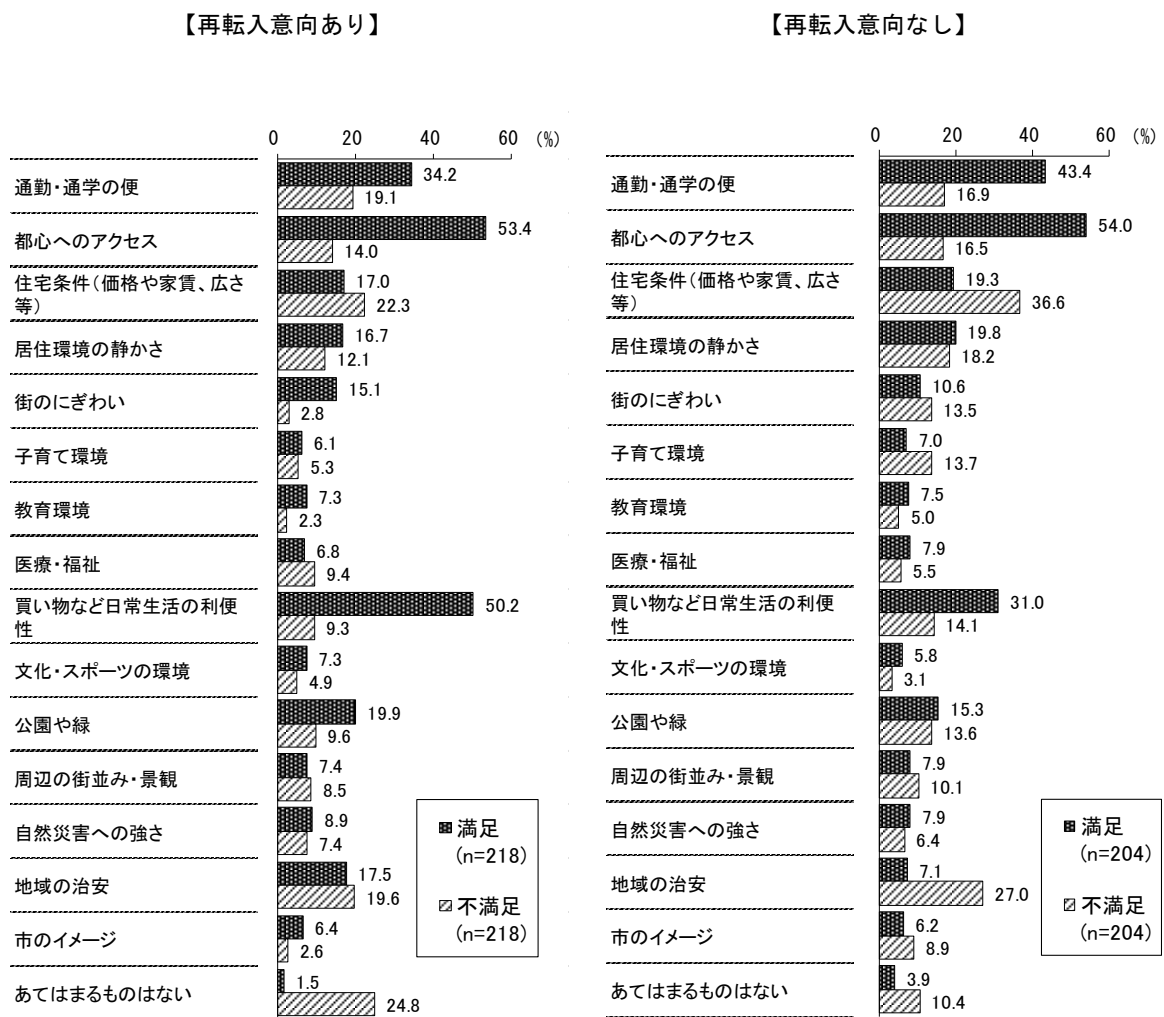
図表 - 3-43 さいたま市の不満だった点（さいたま市居住区別）―上位8項目



(3) 満足していた点／不満足だった点 再転入意向有無別 結果

転出者をさいたま市への問4(5)の再転入意向(p.90)あり・なしに分け、それぞれさいたま市に満足していた点、不満足だった点を比較した。さいたま市への再転入意向が『あり』の転出者のうち、満足していた点に対し不満足だった点の回答割合が高い項目は、「あてはまるものはない」を除き4項目見られたが、極端に差がある項目はなかった。一方、さいたま市への再転入意向が『なし』の転出者のうち、満足していた点に対し不満足だった点の回答割合が高い項目は、「あてはまるものはない」を除き6項目であり、「住宅条件(価格や家賃、広さ等)」「地域の治安」については20ポイント近くの差が見られた。

図表 - 3-44 さいたま市の満足だった点・不満足だった点(再転入意向有無別)



19. さいたま市に満足していた具体的な点

問4. (3)(2) で選んだ満足だったところについて、具体的に教えてください。(自由記述)

具体的に満足していた点について、回答のあった430件(「特になし」等を除く)の回答を(2)の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 3-45 満足していた具体的な点

分類内容	自由回答(一部抜粋)	件数
都心へのアクセス	・都心へのアクセスはかなりよかったと思う。また、路線JRの本数も多く快適だった(20代男性、浦和区) ・住んでいた最寄りのさいたま新都心駅から、勤務地の東京駅まで一本で行けるのが良かった。また、浦和駅も近かったため、池袋や新宿に出るのも近く感じた(20代女性、浦和区)	251
買い物など日常生活の利便性	・近所にスーパーなどがあり家賃等も適当で環境が非常に良かった。単身者向けにレンタルサイクルが充実していたのも利便性がよかった(30代男性、北区) ・大宮まで電車で5分ほどで行けるのでほとんどの買い物を都心に出なくても済ませられて便利だった。都市部のため人口が多いので、有名どころのチェーン店は揃っていたり、大宮の再開発など住民にとって楽しみな将来の展望があるのも街がにぎわっているからこそだと思う。食料品などの買い物も自転車を使えばスーパーを何軒かはしごして色々選ぶことができてよかった(30代女性、中央区)	209
通勤・通学の便	・在宅ワークがメインで用事がある時に都内に出勤する生活で、選択した条件のバランスが良かった。また、新幹線を利用することが多かったため交通の便が主として満足だった(40代男性、中央区) ・都内へ出勤することが多い場合は、埼京線でアクセスも良く、時間の節約にもなり大変良かった(40代女性、南区) ・通勤通学や都心へのアクセスはとてもよかった。職場や学校の選択肢は広がり、行きたいところへは公共機関を使ってどこへでも行ける(40代男性、緑区)	124
住宅条件(価格や家賃、広さ等)	・平米数に対しての家賃が安い。住宅街だったということもあり静かだった(20代男性、西区) ・駅近賃貸も比較的高くない(40代男性、大宮区) ・転居して同じような間取りを探したが、都内だと家賃が倍ほどするので大宮は良かったなと感じた(30代女性、大宮区)	82
公園や緑	・目の前に公園があったので、自然を身近に感じられた(20代女性、北区) ・公園の多さは満足のため、子供ができたらさいたま市に住みたいと思っている(20代男性、見沼区) ・与野公園や中央公園が近場にあったことのありがたみを知った。生活の中で四季を感じられる機会を与えてくれる公園や緑地・街路樹は素晴らしい(20代男性、中央区)	81
居住環境の静かさ	・田舎過ぎず、都会過ぎず、静かに生活することができた。日常の生活に不便を感じることはなかった(40代女性、桜区) ・西区内野本郷に住んでいたが、地域の治安は良く居住環境も静かだった(20代女性、西区)	66
地域の治安	・治安、居住環境については、安心して過ごせる街に感じた。今住んでいる船橋は治安が悪すぎて、毎日毎晩パトカーの音を聞いている気がして、さいたま市の良さを実感した(20代女性、中央区) ・治安も良かったので夜歩いても恐怖を感じなかった(30代女性、南区) ・適度に賑わっているし騒いでいる人や不審な人を見かけたことがほとんどなかった(20代女性、南区)	52
医療・福祉	・子どもの医療費が無料な所は特に満足していた(40代女性、岩槻区) ・近くにジャンル問わずの医療機関が整っていたため(20代男性、西区)	48
文化・スポーツの環境	・近くに公園があったり、文化センターなどの施設が充実していたところ(20代女性、緑区) ・サッカーをはじめ、スポーツの盛り上がりや地域の密着が感じられる(20代男性、岩槻区)	30
自然災害への強さ	・災害が起きても大きい被害にならないところ(20代女性、緑区) ・台風や地震でそれほど困ったことはなかった(20代女性、中央区)	28
街のにぎわい	・祭りとかがあると街がにぎわう(30代女性、岩槻区) ・大宮のスパークカーニバルと大宮公園、サッカーチームなどがあるので(30代男性、大宮区)	27
子育て環境	・児童センターを活用したり、大きなショッピングセンターがあり、子どもを連れての買い物にも便利だった(30代女性、大宮区) ・子育て支援の場が多くあり、0歳児からのコミュニティもありよく参加した(30代女性、南区) ・医療費が無料だったのはとても良かった。子育ても、児童センターなどたくさんあったり、市からの催し物があり、そこで知り合い等出来て助かった(40代女性、北区)	27
教育環境	・学校も多く、塾などの環境のおかげで中学受験に安心して臨めた。(20代女性、北区) ・さいたま市で生まれ、20年間さいたま市で育った。小学生時代から質の高い授業や環境にいたと思う。校内順位は低くても、全国的な偏差値は平均以上など…。また、部活動も強い学校が多く、レベルの高い教育環境だったと思う(20代女性、緑区) ・教育環境がとても素晴らしかった。勉強だけでなく、学校で色々なことを学んで日々成長していることがよく分かった(30代女性、桜区)	25
周辺の街並み・景観	・街並みもきれいでちょうどいい静けさと治安だったにもかかわらず、スーパーやショッピングも行きやすかった(20代女性、北区) ・さいたま新都心付近の計画的なまちづくりと綺麗さは住んでいて便利で心地よかった(40代男性、中央区)	22
市のイメージ	・町も発展していてアクセスがよい。飲食店、娯楽も生活圏内にあり満足であった。市政のサービスもオンライン化等されており、分かりやすく手続きも楽であった(20代男性、大宮区) ・市のイメージはとても良かった。静かで過ごしやすく、可能なところは整備等まちづくりに積極的に取り組んでいるととても感じた。選ぶ機会があれば是非住みたいと思う(20代男性、南区)	17

20. さいたま市に不満だった具体的な点

問4. (4)(2) で選んだ不満だったところについて、具体的に教えてください。(自由記述)

具体的に満足していた点について、回答のあった331件(「特になし」等を除く)の回答を(2)の内容に照らし合わせ再分類した。なお、1つの回答で複数の分類に属する回答があった際には、それぞれ1件としてカウントしている。

図表 - 3-46 不満だった具体的な点

分類内容	自由回答(一部抜粋)	件数
住宅条件(価格や家賃、広さ等)	・シンプルに 高い 。若者向きではない(20代男性、中央区) ・ペット可能なマンションは少なく、高いところが多い(40代女性、南区)	145
通勤・通学の便	・車移動でもいつでも 渋滞 しており、道が狭く自転車自動車ともに危なく、ごみごみしてるように感じていた(30代女性、南区) ・東京勤務の場合、 片道1時間以上 かかるため、通勤の便が良いとは言えないと思う(20代男性、浦和区)	86
地域の治安	・バイクなどの騒音や、外国人の マナーが悪い 点は治安と静けさへの不満があった(30代男性、緑区) ・ 窃盗 などの犯罪が多かった(40代男性、北区)	84
都心へのアクセス	・職場の新宿まで通勤するのに満員電車で 長時間 を要していた(40代男性、北区) ・東京へ行く際に、埼京線の ラッシュ がひどく、何度も体調不良になった(20代女性、北区)	63
買い物など日常生活の利便性	・スーパーがなさすぎる。駅のスーパーが高すぎる(20代女性、中央区) ・飲食店が少ない(40代男性、岩槻区)	63
居住環境の静かさ	・ 暴走族 が夜間にうるさい(20代女性、岩槻区) ・子育て世帯が多く朝から晩まで 足音 に悩まされたから(30代女性、西区)	54
医療・福祉	・子どもを出産する際、 産科 を探すのが大変だった(20代女性、大宮区) ・ 小児科 が少なく混んでいる(30代男性、中央区) ・自営業の為、定期検診以外に地域の検査がさいたま市に引っ越してから案内が無くなった点が不満であった(30代男性、緑区)	41
公園や緑	・駅の近くに 広い公園 がない(30代女性、桜区) ・子どもと遊べる公園が近くなかった。またベビーカーで歩くには道路が狭く、不便に感じた(30代女性、南区)	39
子育て環境	・保育園の入園が近くで出来なかった(30代女性、浦和区) ・坂道が多く狭い道が多いので、特に子供と一緒に行動する時は神経を使った(30代女性、浦和区)	34
周辺の街並み・景観	・年々同じような形の家が増え、景観に 面白味 がなくなった(20代男性、緑区) ・ 住宅地 ばかりであまり景観がよくなかった(30代女性、南区)	34
自然災害への強さ	・荒川沿いで 氾濫 の危険がある(20代女性、桜区) ・住宅が密集しているので 火事や地震 は不安があった(30代女性、中央区)	23
街のにぎわい	・買い物等は色々揃っており便利だったが、子供を育てるにあたり、街が 賑やか過ぎて 、自然の多いところで育てたいと思った(30代女性、浦和区) ・盛り上がる イベント がわからなかった(30代男性、岩槻区)	15
文化・スポーツの環境	・スポーツしたくても、すぐに出来る場所がない(20代女性、南区) ・ 図書館 がしょぼい(40代男性、南区)	14
市のイメージ	・警察も含め、 公共サービス が良いと思った事はない(40代男性、大宮区) ・魅力が少ないイメージ(30代女性、南区) ・親しみを持たない行政区名(南区など)、政令指定都市となったがために、 行政との距離 を感じるイメージがある(30代男性、南区)	14
教育環境	・教育は熱心なところとそうでないところとで 差がある ように感じた。園は多いが、常に待機児童や教員不足が不安視されている(30代女性、南区) ・公立学校の教員の無責任な対応と質の低さ(40代男性、浦和区)	9

2 1. さいたま市への再転入意向

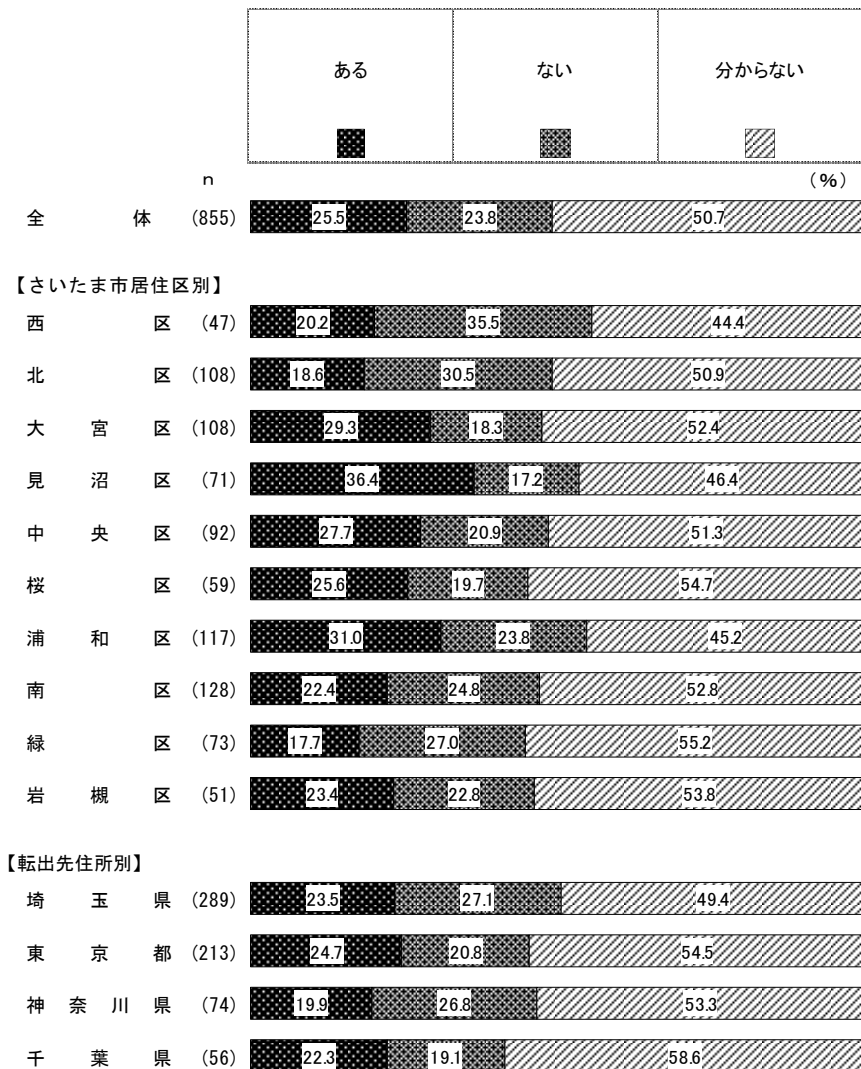
問4. (5) 今後さいたま市に再転入の意向はありますか。

転出者におけるさいたま市への再転入意向は、「分からない」の割合が50.7%と最も高く、次いで「ある」(25.5%)、「ない」(23.8%)と続く。

さいたま市居住区別で見ると、『見沼区』『浦和区』では再転入意向のある転出者の割合が3割を超える。一方で、『西区』『北区』においては、再転入意向がない転出者の割合が3割を超える。

転出先住所別で見ると、『埼玉県』への転出者における3割弱が再転入意向はないと回答し、『千葉県』への転出者では2割を下回る。

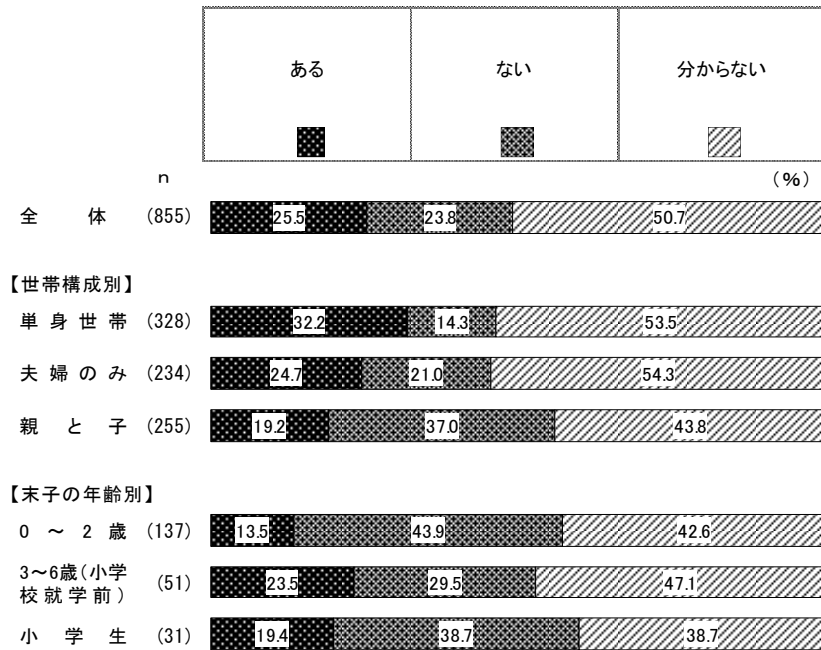
図表 - 3-47 さいたま市への再転入意向（さいたま市居住区／転出後住所別）



世帯構成別で見ると、再転入意向は『親子』<『夫婦のみ』<『単身世帯』の順で高くなる。また、『親子』の世帯では「ない」の割合が4割弱を占め、他の世帯構成より高いことから、明確に再転入の意思がない層が多い世帯構成であることが分かる。

末子の年齢別で見ると、『0～2歳』の子どもを持つ親において、「ない」の割合が4割強を占めることから、前述の明確に再転入の意思がない層には、『0～2歳』の子どもがいる世帯が多いことがうかがえる。

図表 - 3-48 さいたま市への再転入意向（世帯構成／末子の年齢別）



2.2. 再転入意向の具体的な理由

問4. (6)(5) で選んだ回答の、具体的な理由を教えてください。

再転入意向の具体的な理由について、自由回答を再転入意向の有無別で分類した。

なお、再転入意向のどちらか一方のみで回答のある項目は、「その他」として分類しており、『再転入意向あり』の転出者でのみ「既に転入済」（4件）が見られ、『再転入意向なし』の転出者でのみ「治安（民度）が悪い」（7件）や「イメージが悪い」（5件）が見られた。

図表 - 3-49 再転入意向の具体的な理由

再転入意向	分類		自由回答（一部抜粋）	件数
あり (167件)	1	仕事関係（転勤・就職等）	・浦和が好きなので、東京異動の場合は絶対浦和に住みたい(30代男性、浦和区) ・埼玉方面に転勤になったら是非さいたま市に住みたい(20代男性、浦和区)	33
	2	実家・親類	・実家もあり育った街でもあるので一番好きな街です(30代女性、南区) ・親の介護(40代男性、北区)	37
	3	住居の環境	・生活が落ち着き、希望条件のある物件があれば(30代男性、見沼区) ・今後マンションの購入を考えているから(30代男性、緑区)	9
	4	住みやすさ	・総合的にとても住みやすい市であると感じているため(20代男性、浦和区) ・やはりさいたま市は便利だったから。余裕があったら老後戻りたい(40代女性、浦和区)	60
	5	交通・アクセス	・都心へのアクセスの良さや、周囲の環境が良かった(20代女性、北区) ・東京にも近く、落ち着いて暮らすことができると思うため(20代男性、北区)	14
	6	子育て・教育環境	・子どもの出産も控えていて、自分の実家の近くに住めたらと思うのと、様々な環境面的にさいたまの方が良いと感じているから(20代女性、浦和区) ・子育て、進学先として母校周辺に戻っても良いと思っている(20代女性、西区)	6
	7	結婚・離婚	・結婚後はあるかもしれない。都内だと家賃が高く人も多く暮らしづらいため(20代女性、見沼区) ・結婚により川口市に近い区に引っ越す可能性があるから(20代女性、桜区)	2
	8	その他	・浦和駅周辺に憧れがあるので住みたい(20代女性、桜区) ・家電の買い替えキャンペーンなど市民に還元がある(30代男性、桜区) ・今の引越しが期間限定なので、また転居先を考えた時に、候補になっている(40代女性、浦和区)	6
なし (161件)	1	仕事関係（転勤・就職等）	・転職してさいたま市に転居する可能性がなくなったため(40代男性、中央区) ・転勤が一度きりだったので(30代女性、南区)	23
	2	実家・親類	・さいたま市が悪いわけではなく、今後引っ越すとしたら住み慣れた地元に戻りたいと思っているから(20代女性、浦和区) ・夫婦ともに出身が神奈川で、家族もみんな神奈川にいるから(20代女性、西区)	18
	3	住居の環境	・将来を見越した物件に居住しているため(30代男性、南区) ・限られた予算の中で、求める住宅及び住居環境をさいたま市で探すのは難しいと思うので(40代女性、南区)	62
	4	住みやすさ	・今の場所に満足しているから(30代女性、北区) ・住みやすさで比べると、今の方がいいから(30代女性、西区)	9
	5	交通・アクセス	・都心に住むなら都内を選ぶため(40代女性、大宮区) ・我々夫婦はこれから歳を重ねるにつれ、いずれ免許返納し、通院が増える。そうなった時、東京にいたほうが便利なので(40代女性、西区)	7
	6	子育て・教育環境	・人が多く、自然の少ないことから子育てするうえでもあまり住みたいと思わないため(30代女性、南区) ・子供も生まれ、車での移動が更に増えてくる中で、道が狭く、道路も渋滞しているさいたま市に住むメリットがない(20代男性、大宮区)	5
	7	結婚・離婚	・結婚して家を出たから(30代女性、中央区)	3
	8	その他	・あまりいいイメージがなかった(40代男性、見沼区) ・治安が良くない(30代男性、北区) ・自分には田舎の生活が馴染みがあり、合っていると感じるので、都心に近い所には住まないと思う(20代女性、桜区)	62

4章 転入者・転出者比較／転入者過去調査比較

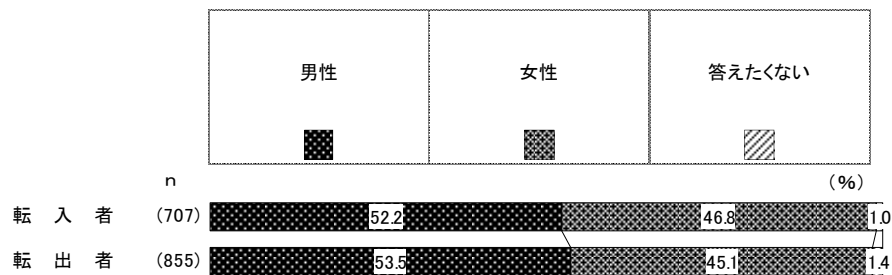
4章では、転入者と転出者における傾向の違いを探るため、転入者と転出者で共通する設問での比較を行った。また、転入者については、過去調査（令和元年度）との比較も行った。

1. 性別／年代

（1）性別

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも男性の割合が5割前後を占め大きな違いは見られなかった。

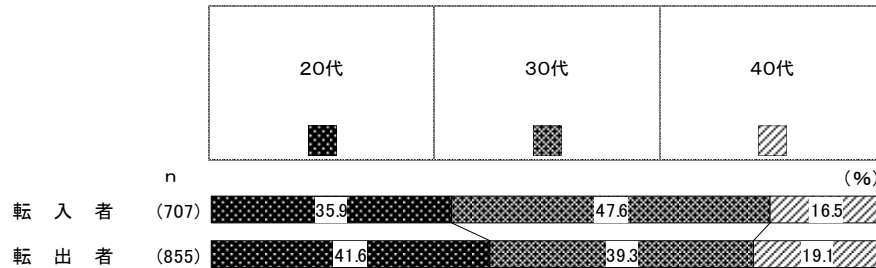
図表 - 4-1 【転入者・転出者比較】性別（全体）



（2）年代

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者では「30代」が5割弱を占め、転出者では「20代」「30代」ともに約4割を占める。

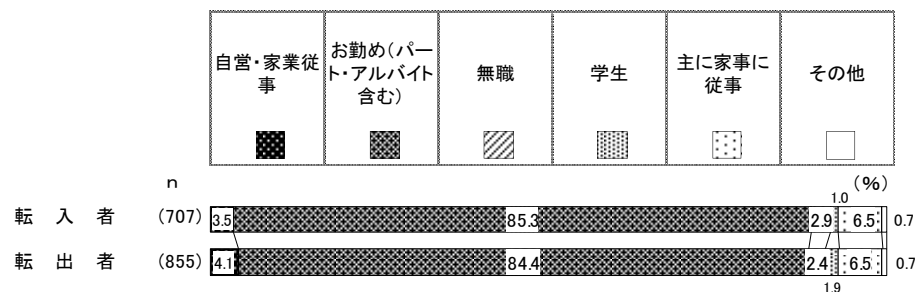
図表 - 4-2 【転入者・転出者比較】性別（全体）



2. 職業

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも「お勤め（パート・アルバイト含む）」が8割以上を占めており、大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-3 【転入者・転出者比較】職業（全体）

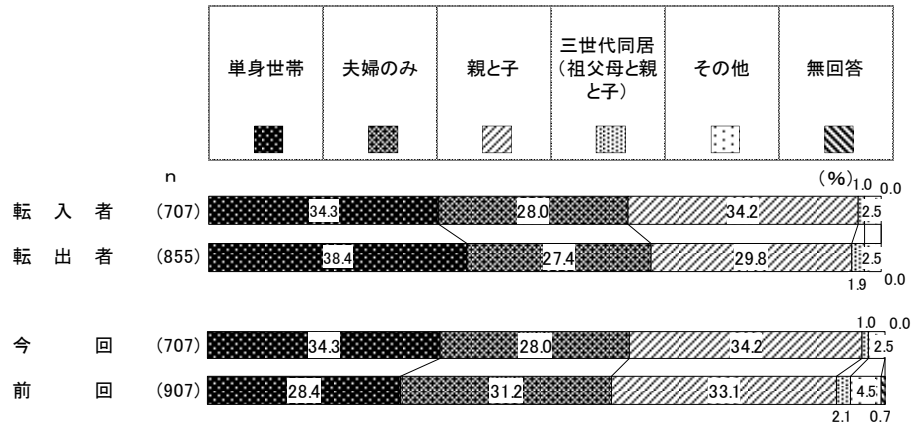


3. 世帯構成

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者では「親と子」が3割を超え、転出者に対しやや高い。「夫婦のみ」の割合に大きな違いは見られなかった。

転入者調査を前回調査と比較すると、「単身世帯」がやや増加している。

図表 - 4-4 世帯構成（全体）

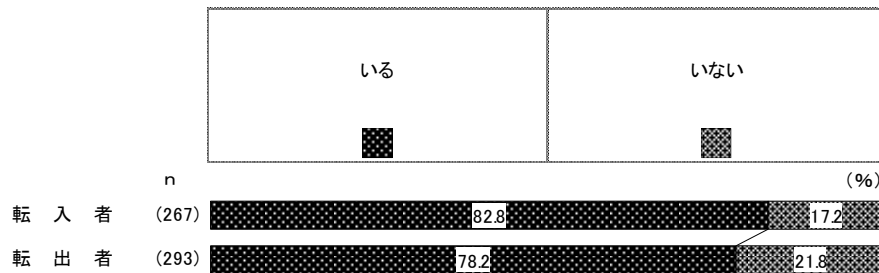


4. 同居する子どもの有無／人数／末子の年齢

(1) 子どもの有無

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者において「いる」の割合が8割を超え、転出者に対しやや高い。

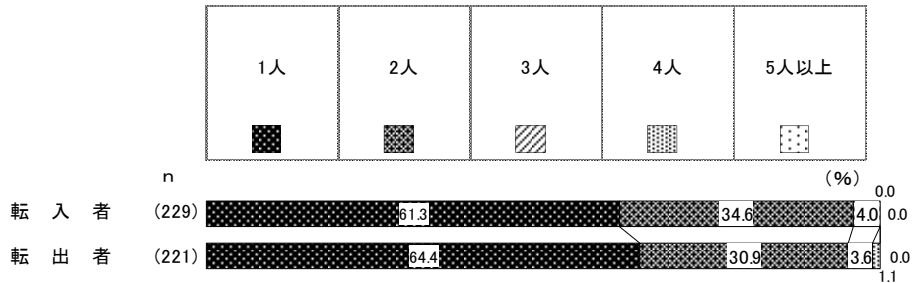
図表 - 4-5 【転入者・転出者比較】子どもの有無（全体）



(2) 子どもの人数

転入者調査と転出者調査を比較すると、「2人」の割合が転入者においてやや高い。また、転出者では「4人」の回答が見られた。

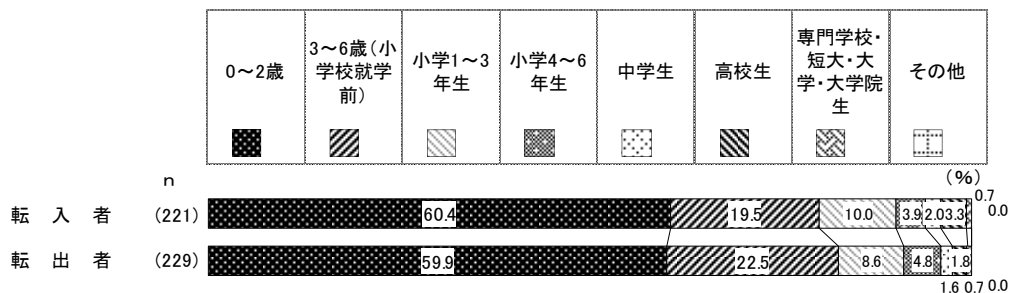
図表 - 4-6 【転入者・転出者比較】子どもの人数（全体）



(3) 末子の年齢

転入者調査と転出者調査を比較すると、転出者において「3～6歳（小学校就学前）」の割合が、転出者に対しわずかに高い。

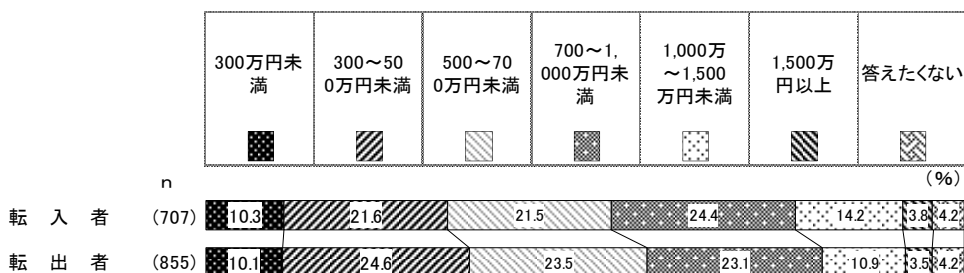
図表 - 4-7 【転入者・転出者比較】末子の年齢（全体）



5. 世帯年収

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者において「1,000万～1,500万円未満」の割合が、転出者に対しやや高い。

図表 - 4-8 【転入者・転出者比較】世帯年収（全体）

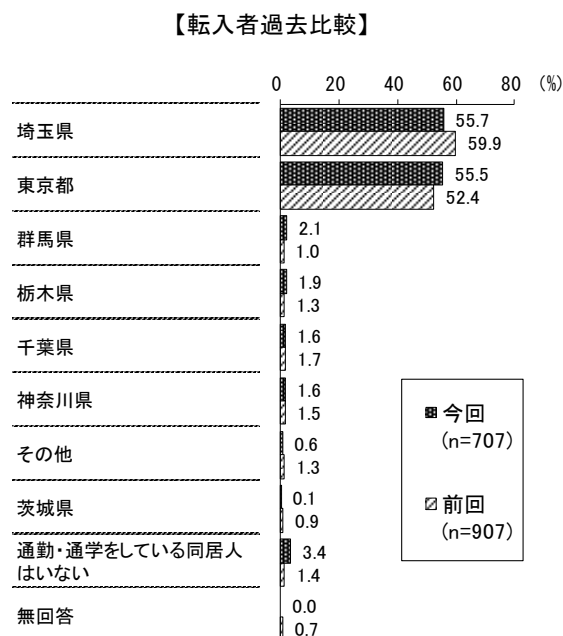
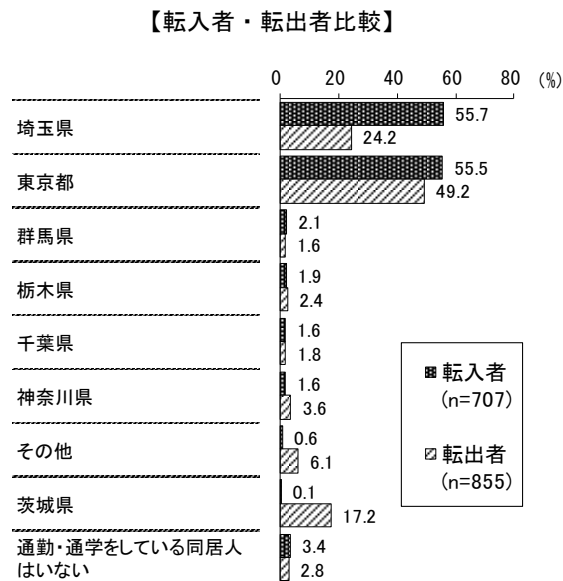


6. 通勤・通学場所

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者では「埼玉県」が55.7%、転出者では24.2%と31.5ポイントの差が見られた。一方、転出者では「東京都」を通勤・通学場所としている人が多く、また「茨城県」は転出者では17.2%を占めるのに対し、転入者では1%を下回る。

転入者調査を前回調査と比較すると、どちらも「埼玉県」「東京都」の割合が5割前後となっており、大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-9 通勤・通学場所（全体）

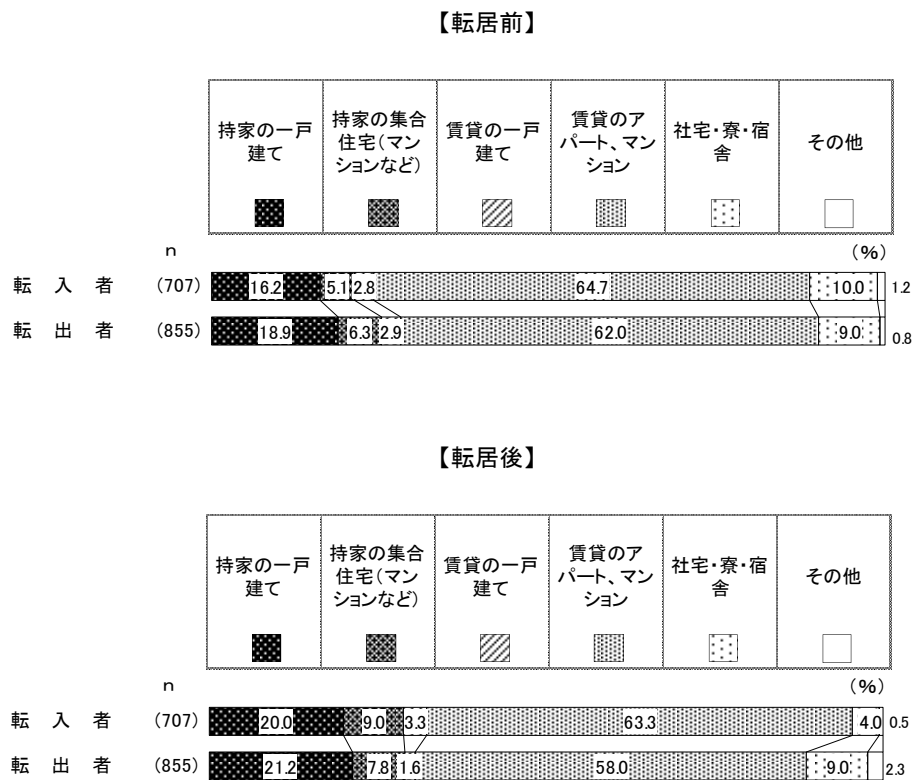


7. 転居前の住居所有形態／転居後の住居所有形態

転居前の住居所有形態について、転入者調査と転出者調査を比較すると、転出者ではわずかに持家の割合が高い。

転居後の住居所有形態について、転入者調査と転出者調査を比較すると、転出者では「社宅・寮・宿舍」の割合がやや高い。

図表 - 4-10 【転入者・転出者比較】転居前後の住居所有形態（全体）



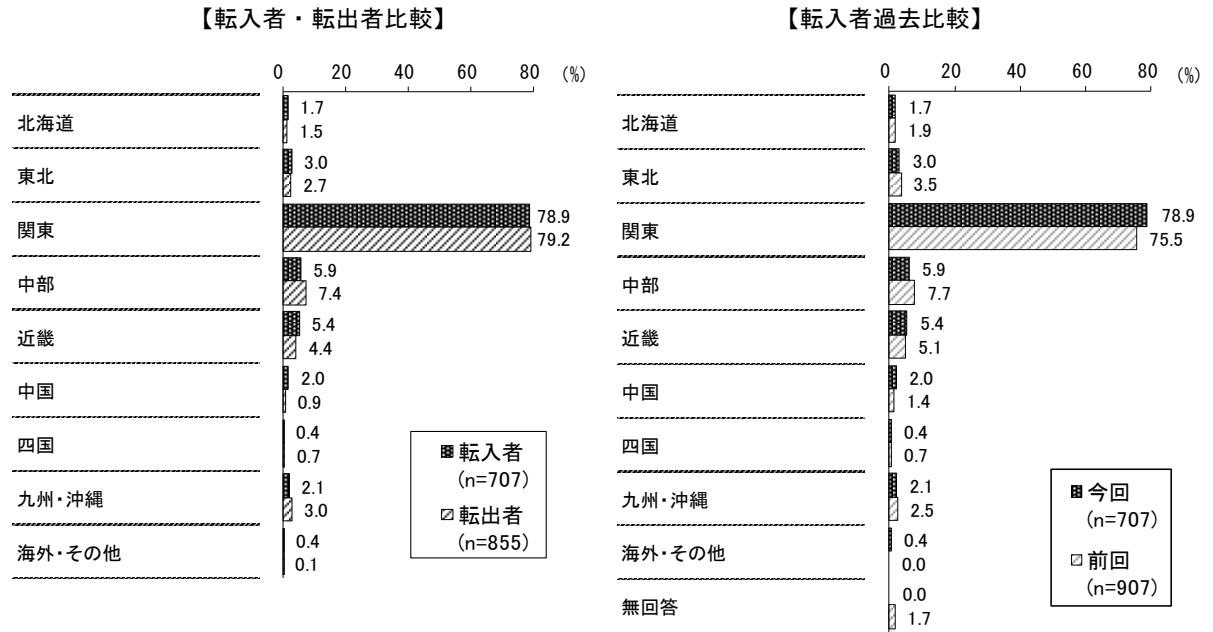
8. さいたま市外の居住地

(1) エリア

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも関東エリアが8割弱を占めており、大きな違いは見られなかった。

転入者調査と前回調査との比較でも、どちらも関東エリアが8割弱を占めており、こちらも大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-11 さいたま市外の居住地（エリア）

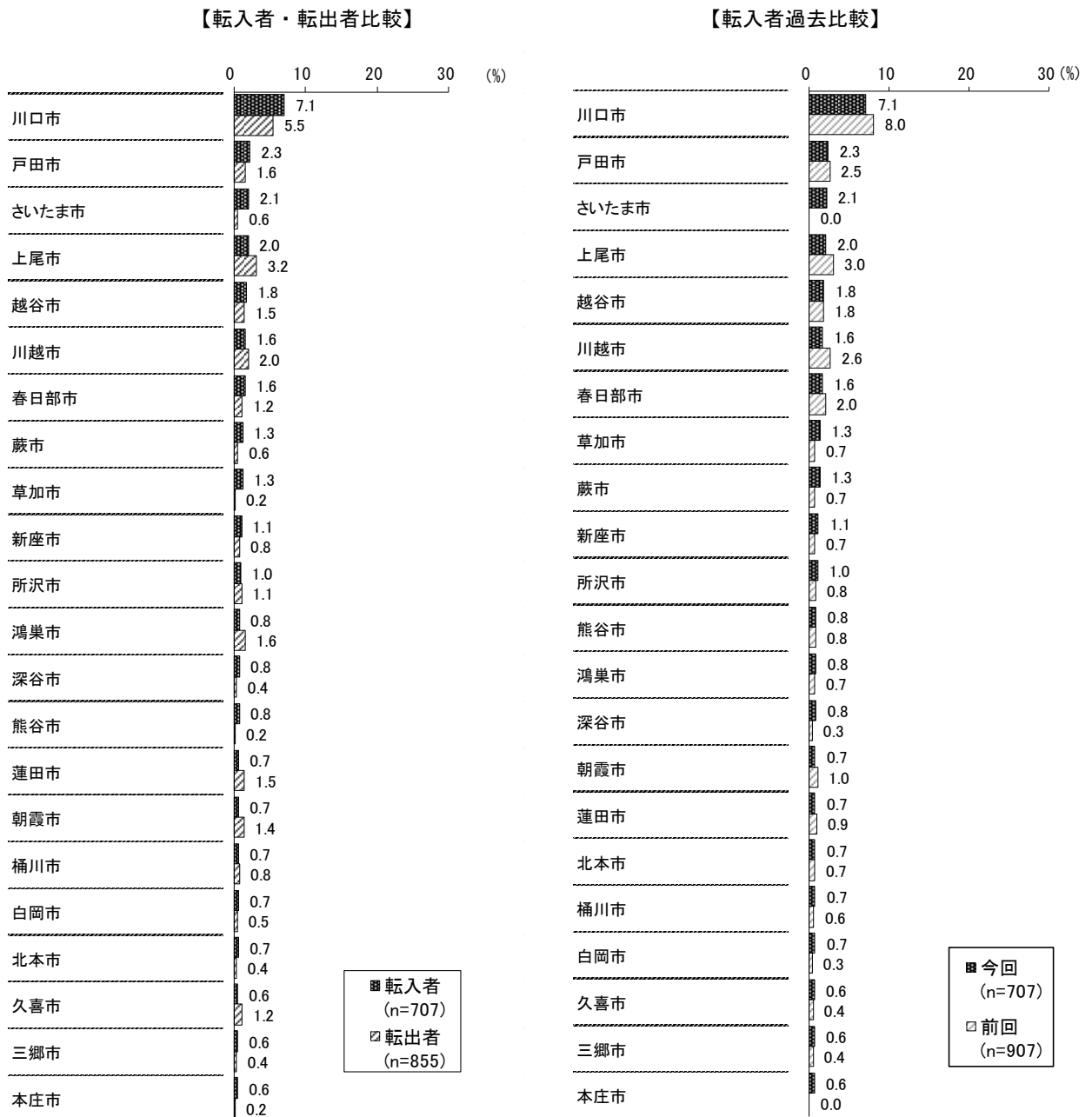


(2) 埼玉県

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも「川口市」との転入転出が多く、大きな違いは見られなかった。

転入者調査と前回調査との比較でも、どちらも「川口市」からの転入が多く、こちらも大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-12 さいたま市外の居住地（埼玉県）

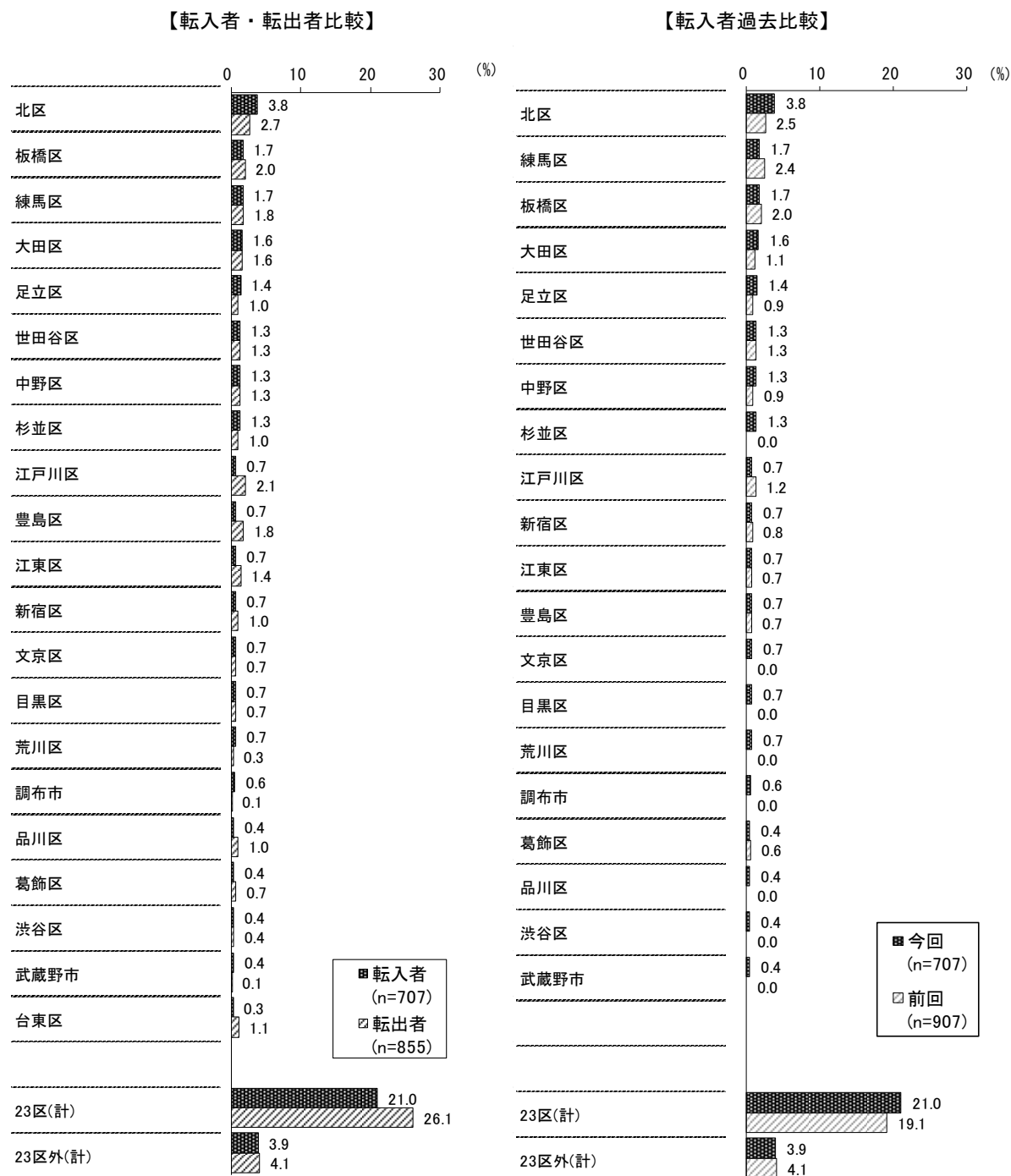


(3) 東京都

転入者調査と転出者調査を比較すると、東京23区での割合が転出者でやや高い。

転入者調査を前回調査と比較すると、どちらも「北区」からの転入が多く、大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-13 さいたま市外の居住地（東京都）

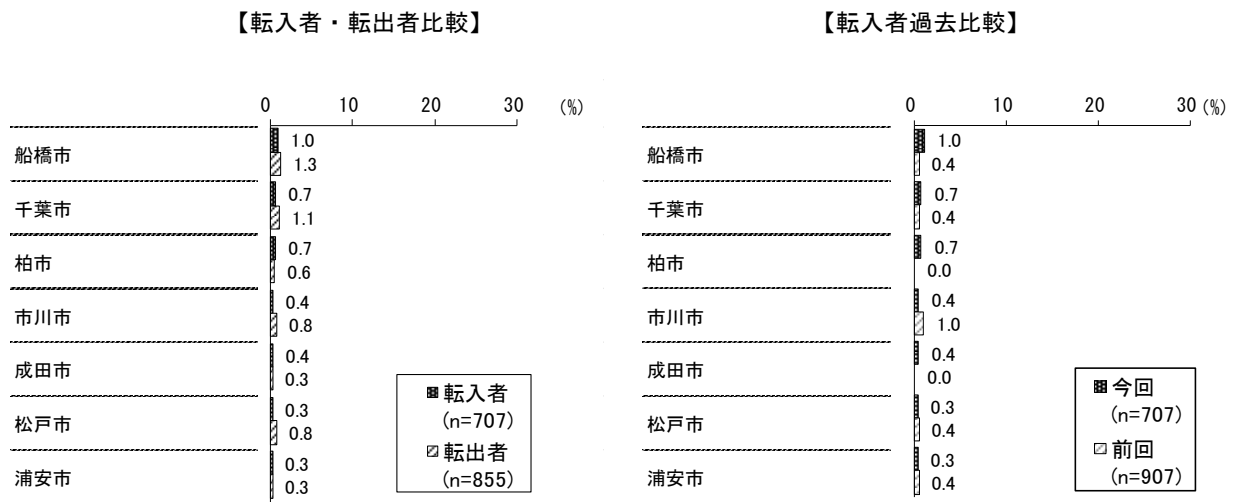


(4) 千葉県

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも「船橋市」との転入転出が多く、大きな違いは見られなかった。

転入者調査と前回調査との比較でも、どちらも「船橋市」からの転入が多く、こちらも大きな違いは見られなかった。

図表 - 4-14 さいたま市外の居住地（千葉県）

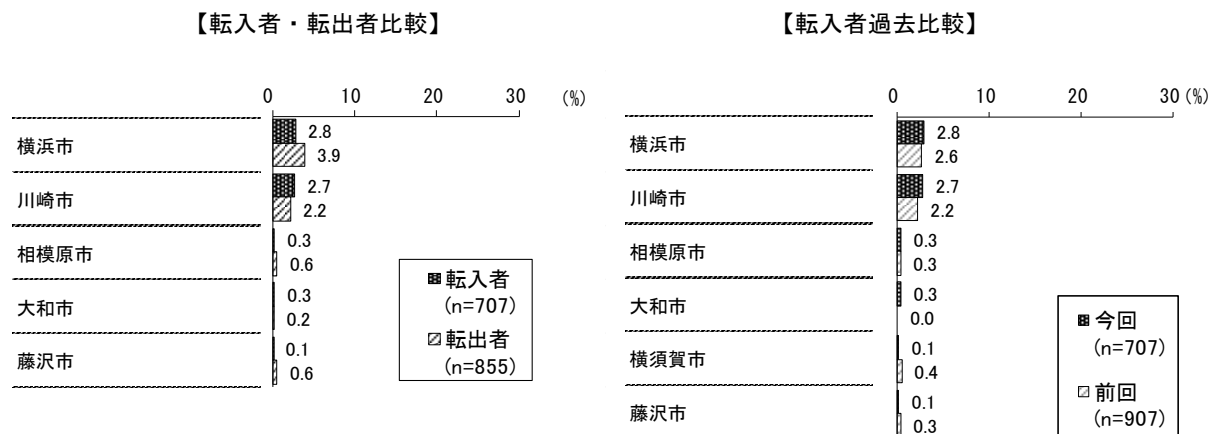


(5) 神奈川県

転入者調査と転出者調査を比較すると、どちらも「横浜市」との転入転出が多く、大きな違いは見られなかった。

転入者調査と前回調査との比較でも、どちらも「横浜市」からの転入が多く、こちらも大きな違いは見られなかった。

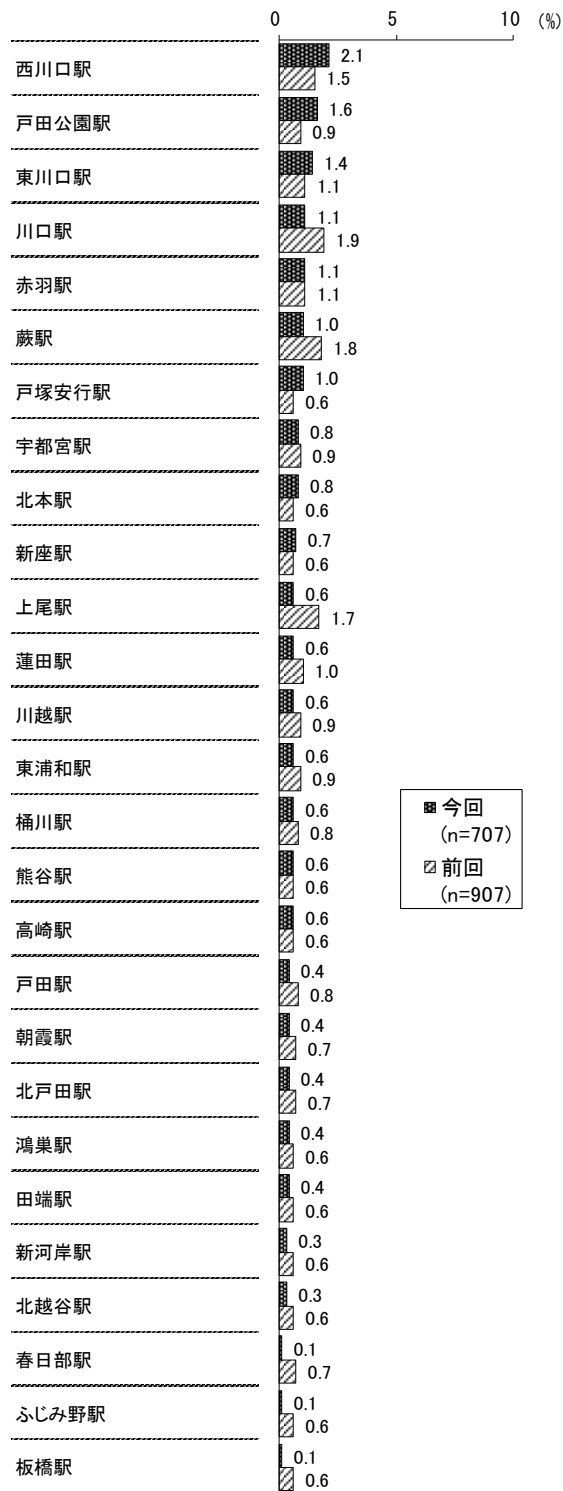
図表 - 4-15 さいたま市外の居住地（神奈川県）



9. さいたま市外の最寄り駅

転入者調査を前回調査と比較すると、今回調査では「西川口駅」の割合が最も高く、前回調査では「川口駅」の割合が最も高い。

図表 - 4-16 【転入者過去比較】さいたま市外の最寄り駅（全体）

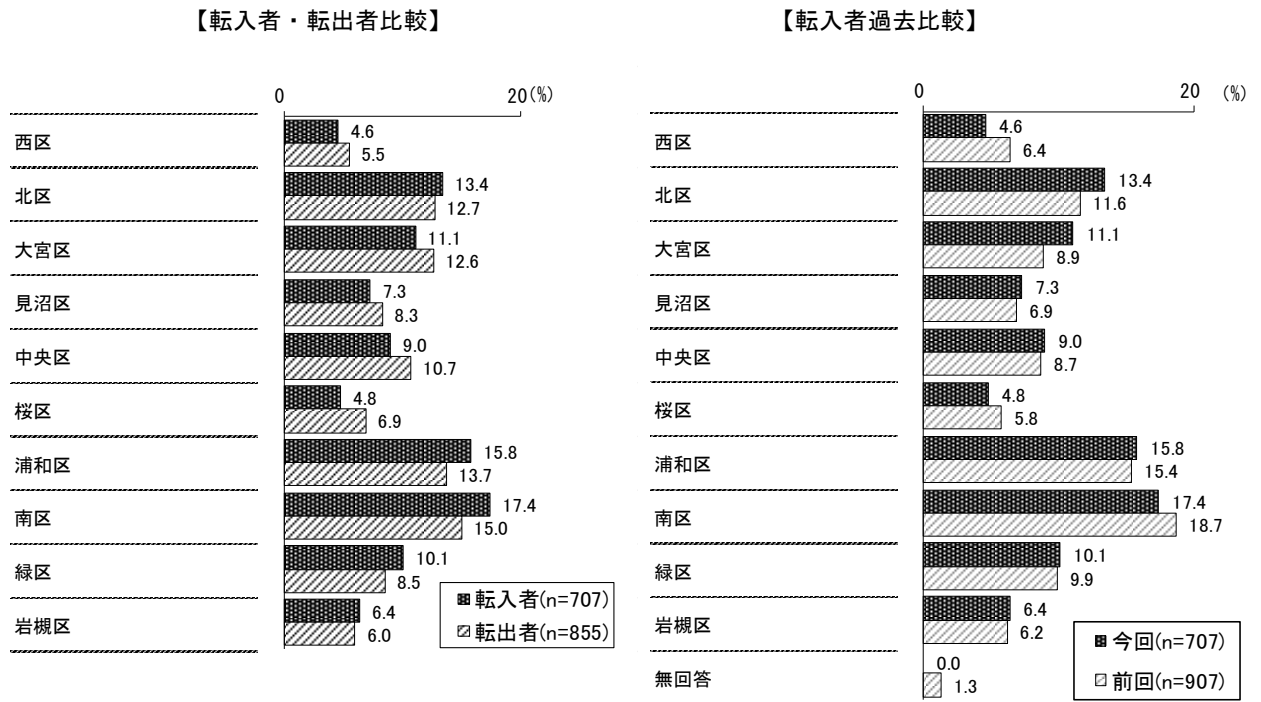


10. さいたま市の居住区

転入者調査と転出者調査を比較すると、転出者の割合に対して転入者の割合の方が1ポイント以上高いのは、「南区」「浦和区」「緑区」の3区となった。

転入者調査を前回調査と比較すると、転入者が前回より1ポイント以上増えているのは「大宮区」「北区」の2区となった。

図表 - 4-17 さいたま市の居住区（全体）

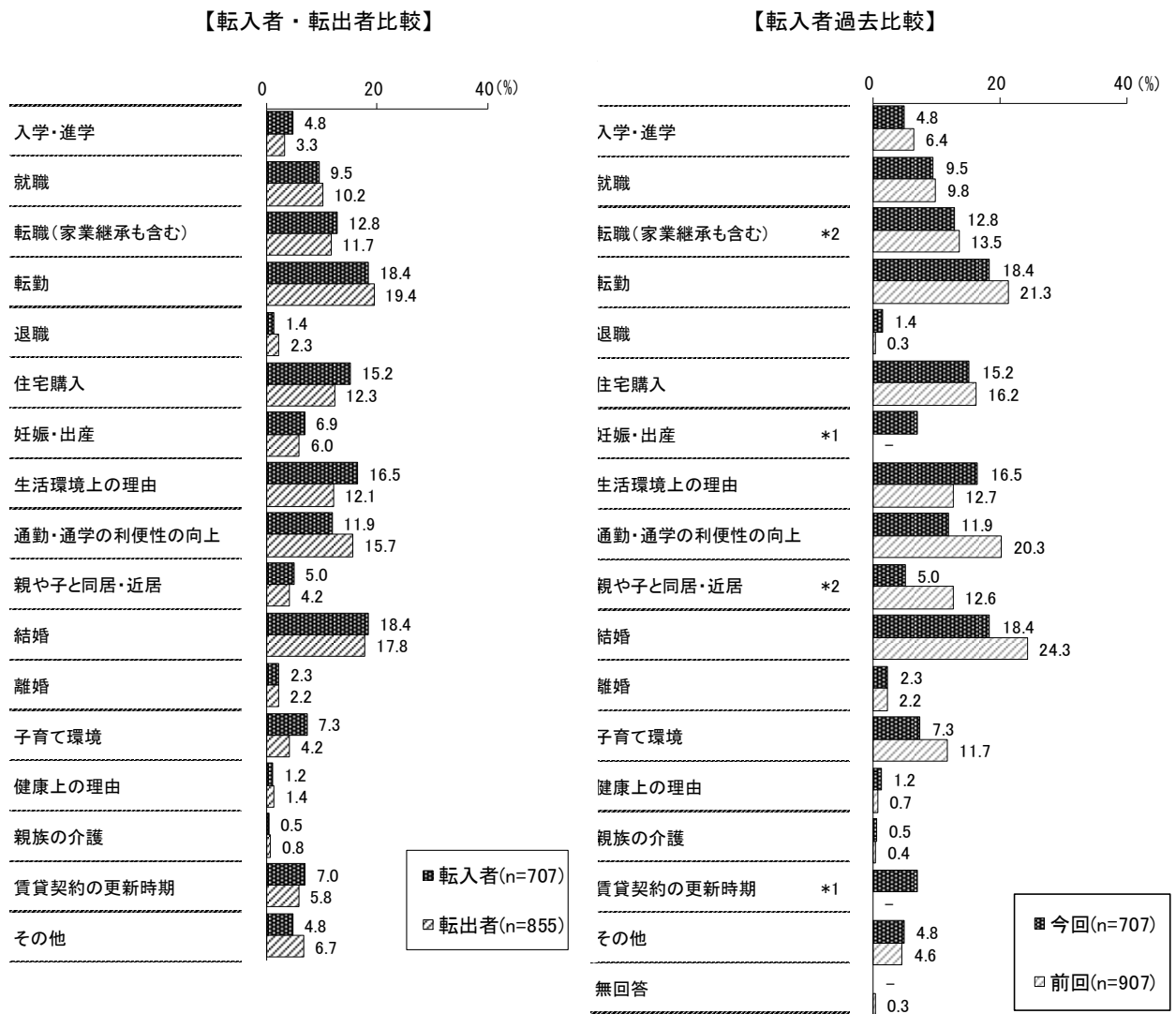


1.1. 転入転出のきっかけ

転入者調査と転出者調査を比較すると、「生活環境上の理由」「子育て環境」「住宅購入」の割合が転入者においてやや高い。一方で、「通勤・通学の利便性の向上」の割合が転出者においてやや高い。

転入者調査を前回調査と比較すると、前回調査から変更している選択肢を除き、今回調査では「生活環境上の理由」がやや増加しており、「通勤・通学の利便性の向上」「結婚」「子育て環境」がやや減少している。

図表 - 4-18 転居のきっかけ（全体）



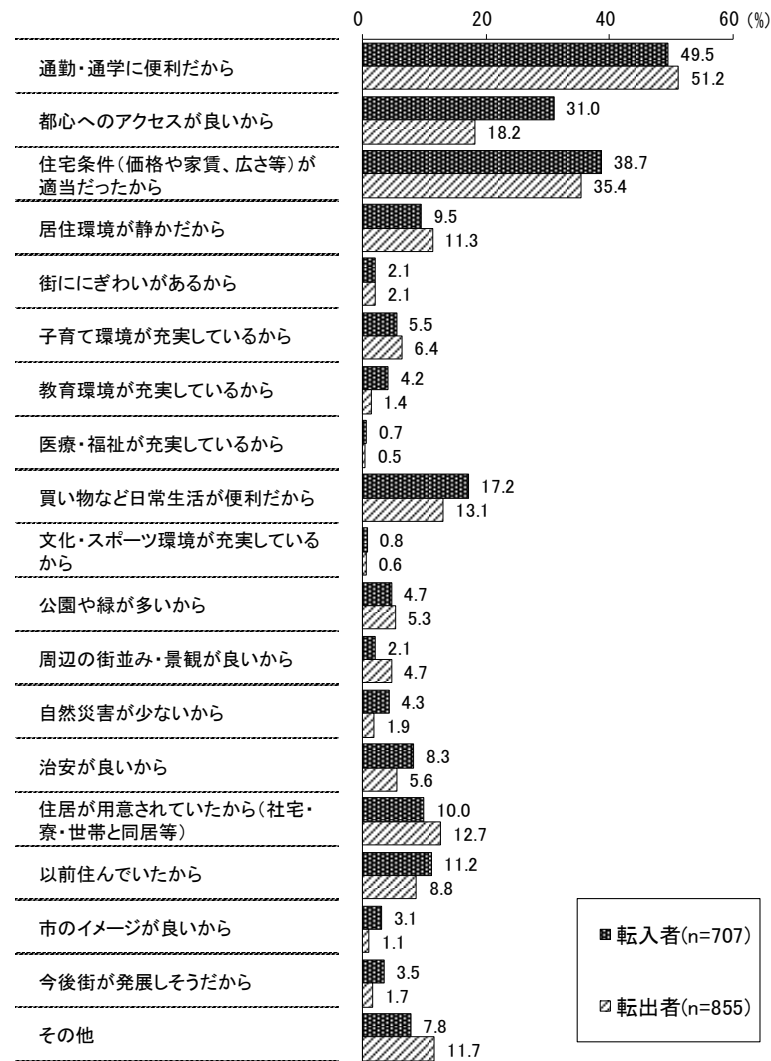
*1 前回調査で聴取していない選択肢については、“-”で記載

*2 前回調査の項目が複数含まれる場合には、割合を合算して記載

12. さいたま市／転出先の自治体を選んだ理由

転入者調査と転出者調査を比較すると、「都心へのアクセスが良いから」の割合が転入者において高く、「買い物など日常生活が便利だから」「住宅条件（価格や家賃、広さ等）が適当だったから」もやや高い。一方で、「その他」の割合が転出者においてやや高い。

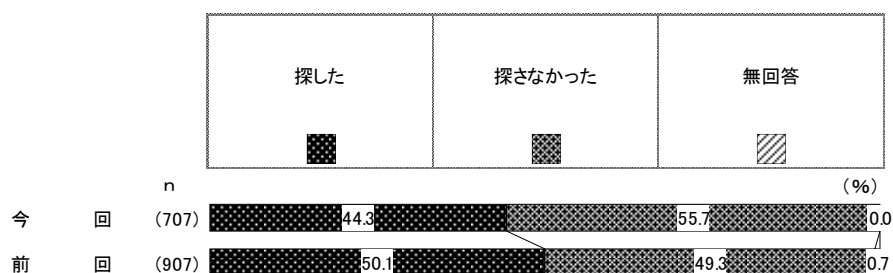
図表 - 4-19 【転入者・転出者比較】転居先の自治体を選んだ理由（全体）



1 3. 新住居を探すとき、さいたま市以外の地域の探索状況

転入者調査を前回調査と比較すると、「探した」の割合がやや低くなっている（-5.8ポイント）。

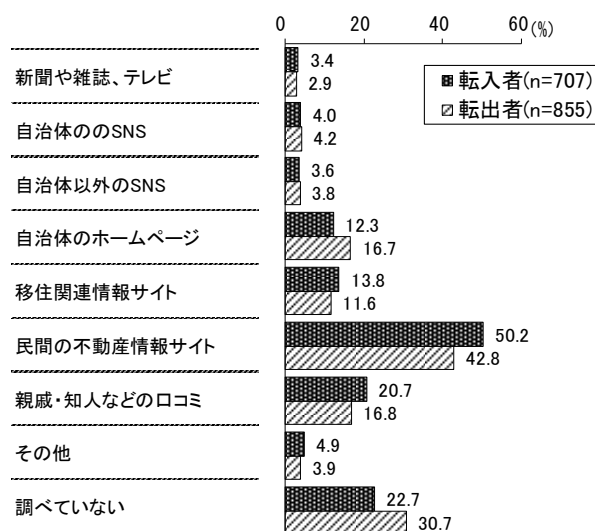
図表 - 4-20 【転入者前回比較】さいたま市以外の探索有無（全体）



1 4. 転入転出に関する情報源

転入者調査と転出者調査を比較すると、転入者において「民間の不動産情報サイト」の割合が高い（7.4ポイント）。一方で、「調べていない」の割合が転出者において高くなっている（8.0ポイント）。

図表 - 4-21 【転入者・転出者比較】転居に関する情報源（全体）



5章 調査結果のまとめ

本調査では、令和5年中のさいたま市の転入者と転出者の意識の把握・分析を行った。調査結果及び分析を基に、今後の施策立案に重要であると考えられる視点を記載する。

1. ライフイベント毎の転入転出動態

①夫婦のみ世帯～子育て世帯におけるライフスタイルの変化

転入者・転出者ともに、未就学の子どもを持つ世帯において、転入転出前後の賃貸割合が減少すると同時に持家割合が増加することから、就学前のタイミングで住宅環境を見直す傾向にある。夫婦のみの世帯であっても、結婚を機に転入転出を決めている世帯が約半数となり、以降のライフスタイルの変化に向けて住居環境を見直している。また、子育て世帯の特徴として、転入者のさいたま市における居住予定年数が比較的長く、反対に転出者の再転入意向は低い傾向がある。他の世帯と比較して、民間の不動産情報サイトだけでなく、口コミや自治体のHP、SNSなど複数媒体から情報収集し明確な定住意識を持って地域を決定しており、再び転入転出する可能性が低いことがうかがえる。

転入転出地の比較対象として、埼玉県・東京都が大多数を占めるが、決め手として住居の価格帯と併せて交通アクセスを加味している世帯が多く、さいたま市の「住居価格の割に広さが担保出来る」といった、住宅選びにおける高い評価も得られている現状も踏まえ、さいたま市以外で引越し先の候補地として多く挙げられた「川口市」「上尾市」「東京都北区」等との差別化をしつつ、住宅と交通アクセスを掛け合わせた情報発信を行う必要がある。

さいたま市に対する意見を子どもの年齢別に見ると、下記のような意見が見られた。

転入転出先の選定理由からも、子どもがいる世帯では子どもの生育環境を優先的に考慮するため、子育て世帯の流入に向けて、子どもの成長に合わせた施策立案が必要であると言える。

■0～2歳の子どもを持つ世帯

妊娠期間～乳幼児期間のためか、医療機関への交通アクセスやインフラ整備に関する改善を求める意見が見られた。また、保育園への入園を見据えた転入転出がなされている。

■3～6歳の子どもを持つ世帯

子どもの医療費が18歳まで無償であることへのポジティブな意見とともに、医療機関の混雑や突発的事態への対応の柔軟性に対する不満が見られた。また、子どもの遊び場としての公園や緑の有無も重視されている。

■小学生の子どもを持つ世帯

市全体の教育に関する充実性（塾の数、英語教育など）への評価が高い一方、子どもが徐々に自立してくる年齢のためか、交通アクセスとともに治安を重視する傾向にある。

また、世帯年収の分布によると、単身世帯に比べて夫婦のみ世帯と子育て世帯の年収が同様に高い傾向があることから、子どもが生まれたとしても、共働きにより世帯年収は減少していないことが推察される。同時に住居の変化を見ると、賃貸から持家に変化した世帯と、0～2歳の子どもを持つ世帯では類似した年収分布をとっており、共働きのまま子どもが生まれ、同じようなタイミングで住宅を購入することが推測できる。さらに、子どもの年齢とともに世帯年収も上がっていく傾向にあることから、親の年齢に伴う収入増のほか、共働きの継続や職への復帰といった働き方の変容もうかがえる（転入：図2－9，図2－10／転出：図3－9，図3－10）。

②就職・転職など仕事に関連したライフスタイルの変化

きっかけが就職・転職、あるいは転勤による転入転出者は、20～30代の単身世帯や40代の男性に多く見られ

る。転入時は交通アクセスの利便性を最優先して居住区の選定を行っており、最寄り駅をターミナル駅へと定めるなどのこだわりが見られる一方、居住予定年数の短さなどの流動性の高さから、在住時に不満を持った場合の再転入の見込みは立ちづらい傾向にある。不満点として転入・転出ともに治安の悪さや住居に要する予算の不一致、騒音等が挙げられており、これらの不満解消に向けた働きかけが、住みなれた・住みやすい街としての再転入に繋がると考えられる。

また、20代の若年層では情報収集をしない層が一定数見られており、就職・転職時の社宅や寮への引越しや、実家などの地元に戻るといった要因で、能動的な情報収集を行わないことが考えられる。さいたま市への不満点として挙げられた「特徴がない」「イベントをやっていない」といった認知不足によるマイナスイメージを払拭するためには、プッシュ型の情報発信等、受動的であっても情報を得られるような仕組みづくりが必要となる。

2. 区毎の特徴

本調査の結果より、さいたま市内の10区の転入転出における特徴を整理した。

西区	: 静かさや治安を重視する傾向で、埼玉県内との転入転出が多い
北区	: 転入者割合が増加傾向
大宮区	: 転勤による転入転出が多く、アクセスが良い一方で、治安については低評価
見沼区	: 10年以上の在住者が多く、再転入意向が高い
中央区	: 単身世帯の動きが多く、居住期間が短期傾向
桜区	: 住宅購入がきっかけで、夫婦のみ世帯の転入が多い傾向
浦和区	: 東京都との転入転出が多く、治安や教育を重視する傾向
南区	: 転入転出の動きが最も大きい
緑区	: さいたま市以外との比較検討による転入が多く、居住予定が長期傾向
岩槻区	: 子育て世帯の転入が多い一方で、単身世帯の転出が多く、埼玉県内との転入転出が多い

転入者・転出者の属性や意識より、ライフスタイル別に下記①②のように区分した。

①「南区」「北区」「大宮区」「中央区」「見沼区」

転勤・就職などの仕事による転入、転出など若年層の動きが活発。交通アクセスの利便性から、再転入意向のある転出者も多い区が存在するため、若年層に向けたスピーディな施策が効果的と考えられる。

②「浦和区」「緑区」「岩槻区」「桜区」「西区」

子育て世帯や、子育てを見据えた新婚世帯が多い。さいたま市の外側に位置する区が多く、その住宅条件とともに、治安の良さや街の静かさ、公園などの環境面も重視しながら転入を検討するため、子育て・教育・生活環境の充実や、市民からの住みやすさの評価などをアピールすることが有効だと言える。

3. 前回調査から見た転入者の意識の変化

前回調査と比較して、世帯構成や通勤・通学場所等の属性に大きな変化は見られなかったが、通勤通学の利便性や、子育て環境を転入のきっかけとする回答者が減少している。

コロナ禍を経て、リモートワークやリモート授業の普及による通勤・通学状況の変化や少子化による影響が、転入者の行動にも変化を生んでいることがうかがえる。

4. 転入者と転出者の意識の比較

転入者と転出者の意識を比較すると、転入転出先の自治体を選ぶ理由として、転出者と比較して都心へのアクセスを挙げる転入者が多い。また、転出者と比較して埼玉県内へ通勤・通学する転入者が多く、東京都内に向かう通勤・通学者の割合と大きな差がないことから、さいたま市と他自治体間の動きとして、「埼玉県内へのアクセスを改善するための転入」と、「都心部へのアクセスを改善するための転出」を目的とする人が多いことが分かる。

5. さいたま市の強みと弱みについて

①さいたま市の強みについて

「さいたま市を選んだ理由」「実際に住んでみて良かった点」「さいたま市に住んでいた時に満足していた点」のいずれにおいても、「通勤・通学に便利」「都心へのアクセスの良さ」「住宅条件」が上位に挙げられており、「交通の利便性」という地理的優位性は本市の強みのうち最も大きい要素であると言える。

その他に上位に挙げられているのは、「買い物など日常生活に便利」や「居住環境の静かさ」など、生活の利便性に関する項目となる。

さいたま市の強みは、「交通の利便性」と「生活の利便性」、大きくこの2つに集約されると言える。

②さいたま市の弱みについて

「実際に住んでみて悪かった点」「さいたま市に住んでいた時に不満足だった点」を見ると、共通する項目に「住宅条件」などが挙げられるが、その他は前述の強みに比べてばらつきがある。一方で、注目したのは「あてはまるものはない」が多いところである。市が実施する他の意識調査でも「住みやすい」「住み続けたい」という評価が8割以上という結果があることから、さいたま市の弱みとして突出する点はないと考えられる。

ただし、不満が全くないわけではなく、「地域の治安」「医療・福祉」「居住環境の静かさ」など、様々な要因が挙げられているのも事実である。これらは市全体に当てはまることではないが、区によっては治安や交通の利便性、住宅条件などに一定数の意見があることから、地域の実態に応じたきめ細かな対応が必要であると言える。

6. 将来にわたって活力ある都市の実現に向けて

本調査の目的である、「本市の将来的な人口減少を見据えた今後のシティセールス施策等」について、以下のとおり提言する。

これらの施策に全市的に取り組むことで、「将来にわたって活力ある都市」の実現が図られることを期待したい。

①ライフイベントのターゲティング

就職、結婚、住宅購入といったライフイベントや子どもの年齢によって、転入転出時に重視する条件が異なる傾向があることを踏まえ、各施策の立案や実施においてはターゲットを細かく設定し、効果的なシティセールスを行うこと。

②エリアを意識したターゲティング

関東1都3県との転入転出が圧倒的であり、自治体別では本市と東西南北で繋がる路線沿線の自治体が多くみられたことや、転入者が本市以外で探索した自治体も同様の傾向が見られることを踏まえ、エリアを意識したターゲティングを行うこと。

③転入転出の情報源としての活用を想定したHP・SNSの充実

特に子育て世帯においては、転入転出を検討する際に自治体のHPやSNSから多くの情報収集をしていることから、子育て世代をターゲットに、この世代が重視する情報を重点的に情報発信するなど、HPやSNSの充実を図ること。

④再転入を促すシティセールス

転出者にさいたま市への不満がないという声が多いことや、再転入意向のある転出者が多く挙げるさいたま市の良さが「住みやすさ」であることを踏まえ、転出者に対し再びさいたま市に転入してもらうための施策を検討し、実施すること。

⑤区毎の特性を踏まえた地域の魅力発信

区によって転入転出の傾向や特徴は異なり、交通アクセスの良さや居住環境、住宅条件などその要因が様々であることを踏まえ、「全市的なシティセールス」と併せ、「各区でのシティセールス」を強化し、地域の特性や特徴を意識した魅力発信を積極的に行うこと。

⑥不満足な点を解決するための施策

自由記述には様々な不満点が挙げられており、その内容は世代や世帯構成により異なっている。これらを真摯に受け止めてターゲット毎のニーズを着実に汲み取るとともに、その要因を分析し、必要により事業者等とも連携しながら、その解決に向けた施策を講じること。

特に、「地域の治安」に対する不満や、子育て世代からの「保育」や「学童」への不満、「公園」や「交通アクセス」など、多くの意見があるものについては、重点的に取り組むこと。

令和 6 年度
さいたま市転入者・転出意識調査報告書
令和 6 年12月

発 行 さいたま市 都市戦略本部 都市経営戦略部（シティセールス担当）
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6－4－4
電話 048（829）1034

調査実施 株式会社サーベイリサーチセンター
〒116-8581 東京都荒川区西日暮里 2－40－10
電話 03（3802）6711

〔この調査業務の委託に要する経費は、297万円です。〕